HOBBY JAPAN MOOK

ガールズ&パンツァー
GIRLS und PANZER

【山田卓司情景作品集】
GIRLS und PANZER TAKUJI YAMADA'S DIORAMAS COLLECTION





ガールズ&パンツァー GIRLS und PANZER

【山田卓司 情景作品集】

CONTENTS

MENG Model 1/35 scale plastic kit
FRENCH FT-17 Light Tank(Cast Turret)use
Introduction of SENSHA-DO
modeled by Takuji YAMADA




ガールズ&パンツァー
GIRLS und PANZER
© GIRLS und PANZER Projekt

ガールズ&パンツァー
GIRLS und PANZER

戦車道は乙女のたしなみ！

戦車を使った武道「戦車道」が華道や茶道と
並んで大和撫子のたしなみとされている世界。
県立大洗女子学園に転校生·西住みほがやってきた。
戦車道が嫌いで、戦車道のない大洗女子を選んだみほ。
ところが転校そうそう、生徒会長に呼び出され
必修選択科目で戦車道を選択し、
戦車道全国大会に出場するよう強要される。
しかも、集まったメンバーは個性派ばかり。

華道家元の娘の五十鈴華、恋に恋する武部沙織、
戦車マニアの秋山優花里、朝に弱い優等生の冷泉麻子——。

友達とのフツーの女子高生活を夢見るみほの、
ささやかな願いは叶うのか——？

『ガールズ&パンツァー』（以下『ガルパン』）は最初テレビシリーズとして2012年10月から12月、2013年3月に放映された。当初は懐疑的であったが最終回を経てすっかり作品に魅了された山田卓司が月刊ホビージャパン本誌にて、初の『ガルパン』作例を発表したのが最終話放送から間もなくの、同年6月号（4月25日売り）であった。以来、みほがIV号戦車と出会うシーンから最終決戦の姉妹対決まで、OVA『これが本当のアンツィオ戦です!』も含めると、テレビシリーズより18点もの情景作例（本書掲載は17点）を製作。ここでは、それら情景作品を学校別、時系列順に並び替えて掲載している。情景作例は基本的に劇中のシーンを再現しており、そこに登場する各車輌は劇中CGに合わせて、細部まで徹底的に作り込まれている。これぞまさに、“情景王”山田卓司の「戦車道」といえよう。





「装甲も転輪も大丈夫そう…これでいけるかも」

PLATZ 1:35 scale plastic kit
Panzerkampfwagen IV Ausf.D Ver.team "ANKOU"
the diorama built&described by Takuji YAMADA

HJ本誌における連載第一回目となったのは、主人公・西住みほがこれから苦楽をともにするIV号D型と初めて対面する印象的なシーンだ。各所にアレンジを利かせたディオラマはさることながら、ミリタリーモデラーとして劇中再現にこだわったIV号D型にもぜひ注目してほしい！　HJ本誌2013年11月号掲載。

プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー IV号戦車D型-あんこうチームver.- 使用
ディオラマ製作・文 **山田卓司**





▲▶ディオラマ全体図。コンパクトにまとめられた構図だが、豊富な小物で密度感のある仕上がりに。劇中で確認できない部分は山田氏のアレンジによるもの



▲しばらく人が立ち入らなかった倉庫ということで、全体的に煤けた状態に。ドラム缶などには強めにサビ表現がされている。随所に置かれた箱にはきちんと中身が入れられている



▲ワイヤーロープフックの位置を後期に生産されたタイプと同様の位置に変更

▲設定に合わせ、36cm幅履帯用の起動輪に40cm幅履帯が装着できるように、36cm用起動輪に40cm用のスポークを接合

▲発見時では車体下部の給油口は描かれていないので、見えにくい位置ではあるが、再現度を上げるためパテで埋めた

▲予備履帯設置場所には3つ分しかスペースがないので、設定に合わせて無理矢理接着



▶砲塔はペリスコープを開口、側面のリベットの位置を変更するなど設定画に合わせて随所加工を施している

本書におけるディテール工作は設定画から受け取れる情報を吟味しながら施すことにしました。イメージとしては戦争映画に出てくる戦車、または博物館に展示されているレストア車輌みたいな、実車を参考に再現しつつも既存の材料を使っているため、実車とは違ってしまった姿みたいな感じでしょうか。

今回はプラッツのIV号戦車D型を、本編内で初登場した第1話、第2話の倉庫内で放置されていた時の姿で再現します。

この時のIV号戦車は履帯やジャッキが外されていて、「ぼろぼろ…」「これはただの鉄サビ」との劇中セリフから、かなりエイジングがきつい状態と思われます。このIV号を始め各戦車の発見時の姿はかなりボロボロの仕上げが楽しめるはずです。

組み立てで一番気になった所は起動輪で、36cm幅履帯用の最初のタイプの外形でありながら40cm幅履帯を装着しています。これは不要部品となっている36cm用の外周を切り離し、40cm用のスポークと接合して作りました。歯が左右でズレないように履帯を巻き付けてチェックしながら接着します。

車体下部左側に2ヵ所ある燃料注入口は後のF2型仕様やH型仕様では存在するのに、何故かこのD型には描かれておりません。パーツを接着後、溝や凹みをパテ埋めしモールドを削り取り、平滑にしました。

車体前部上面に予備履帯を8枚装着しています。しかし現実にはここにはそんなスペースはありません。左右にあるブレーキ点検ハッチを小さく加工すれば可能かと思いますが、今回は履帯ラックのみの状態でもあるし、無視することにしました。

車体右側フェンダー上にも予備履帯が4枚並びます。ここも現実には3枚分のスペースしかありませんから、ジャッキの位置から吸排気グリル横にはみ出る位置まで4枚、無理して並べました。

細かい部分では車体後部にあるワイヤーロープフックがより後期に生産されたタイプ同様の位置になっているので、ストックしていたH型用のパネルと交換することで再現しました。

他は砲塔上のペリスコープには穴を開けたり、側面のリベットの位置を左右で同じにしたりと、設定画を見ながら細々と工作しました。

「拓けた場所は遮蔽物を利用して身を隠せ!」

PLATZ 1/35 scale plastic kit Panzerkampfwagen 38(t) Ausf.B/C team "KAMESAN" use
the diorama built&described by Takuji YAMADA



プラッツ 1/35 スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー 38(t)戦車-カメさんチームver.- 使用
ディオラマ製作・文／山田卓司

作品序盤に登場し本作品の注目度を上げる要因にもなった奇抜な塗色の戦車達から、カメさんチームの38(t)戦車をチョイス！　第3話の練習中に見せた、隠れる金の38(t)戦車に老婆が手を合わせるなんともシュールで印象的なシーンを再現した。サイバーホビー(ドラゴン)キットのプラッツパッケージを、劇中再現に徹底的にこだわって製作している。 HJ本誌2014年1月号掲載。







▼劇中のワンシーンをそのまま立体化したかのような雰囲気。鳥居は大将モデリング「鳥居」を使用。樹木は本物の小枝にオランダドライフラワーとパセリを使用して再現した。祠はプラ版によるスクラッチ



▼各社の塗料を試してタミヤの缶スプレー塗料「メタルシルバー」を下地にクリアーイエローを塗り重ねたキャンディ塗装を試したが、思っていた程に輝きが再現出来なかったのでガイアノーツの「スターブライトブラス」に切り替えて再塗装した



◀設定CGに合わせてキットの砲身を少々短く加工



◀キューポラの形状が劇中とは異なるため自作。さらに位置も移動させている



◀砲塔後部の角度は作品オリジナルの形状となっていたので、設定CGに合わせて製作

▼ジャッキ台はⅣ号戦車のものを利用。小物類のサイズも設定に合わせてみた



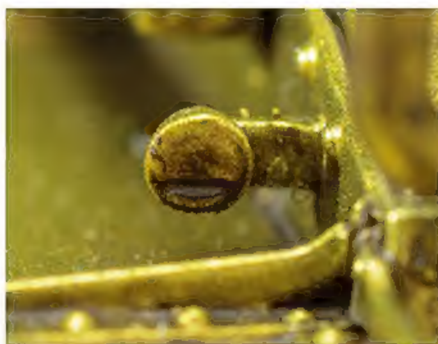




◀▲車体前面の装甲厚が異なるので、プラ板で作り直し。戦闘室前面もそれに合わせて加工している。操縦手ハッチも設定に合わせて大型化した



◀消火器の形状が異なっていたので改造。ノテックライトの位置は外側へ移動させた



◀間隔表示灯および制動灯はキットのパーツを使用



◀監視ハッチは左右同じものに変え形状を修正。アンテナ基部は自作によるもの



◀マフラーの取り回しをプラ棒の曲げ加工で設定に合わせた



▶リベットは最初はキットパーツから削ぎとって使っていたが、数と均一なサイズが必要なためにプラチモデル製のリベット自作工具で打ち抜いた物に切り替え。最終的にはシャープさを求めてアドラーズネストの挽き物の金属パーツも使用



◀工具箱側面の高さを変えるためにプラ板で作り直している





▲桃のフィギュアはプラッツ製を基にポージングなどを変更。老婆はエポパテからの自作で、犬はリアリティーインスケール「Cats & Dogs」から日本犬っぽく改造

今回は生徒会チームが使っている38(t)を作ってみました。本編内では大活躍で作るシーンに迷うのですが、祠の後ろに潜んでいる所を選んでみました。その黄金色の輝きに、通りすがりのお婆さんが祠に後光がさしてると勘違いして、思わず手を合わせてしまう名シーン(笑)です。

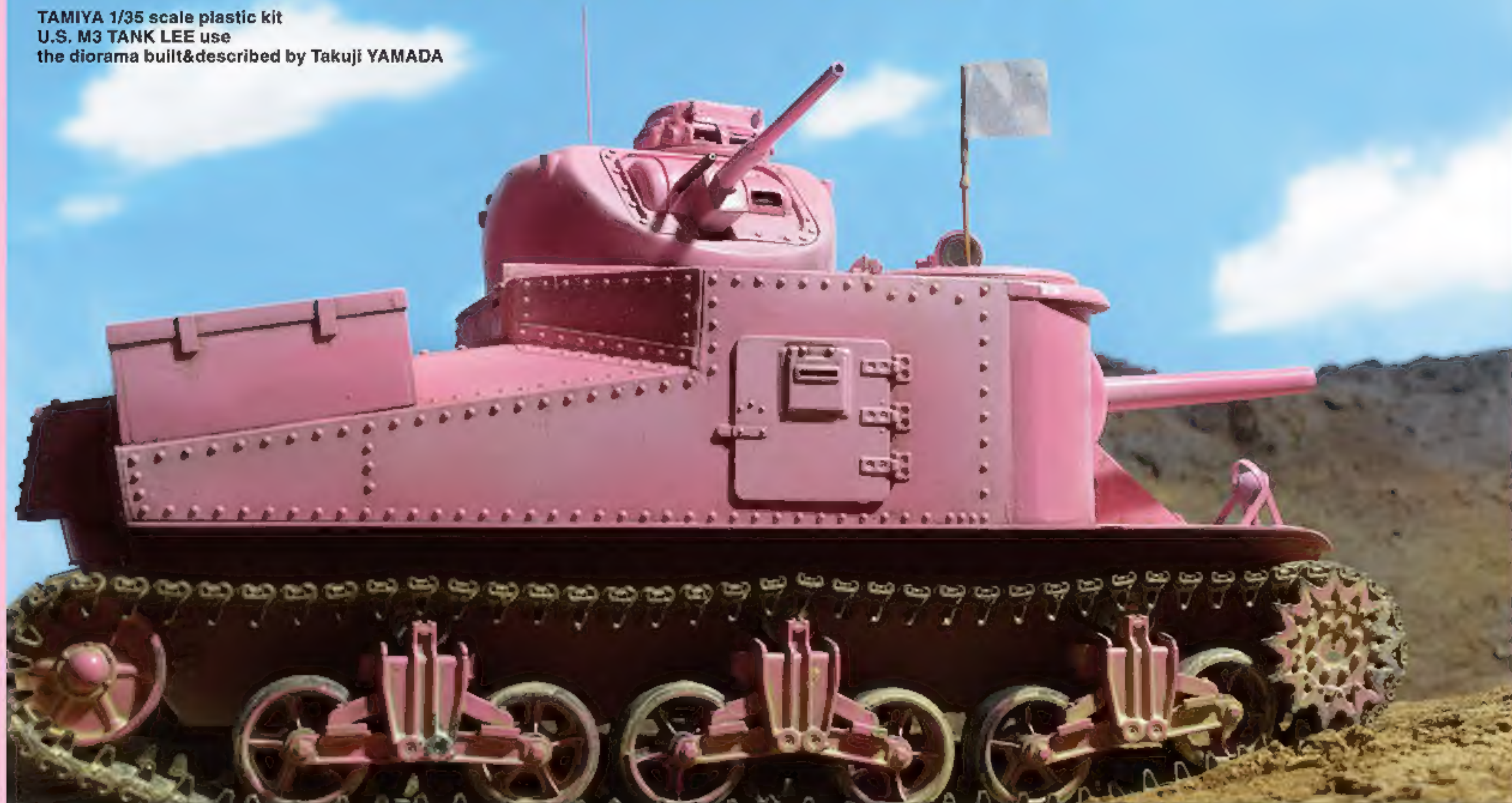
キットと劇中の相違点は、

・車体前面は装甲厚が違っているようなのでプラ板で作り直し。
・牽引具は板状の物に変更。
・起動輪基部のフランジ内側に付くアングル材のリベットの数も変化しています。
・戦闘室前面も同様の装甲厚と仮定して工作。
・折れ曲がった斜めの部分は実車のB型より大きく、角が目立っています。
・クラッペはひと回り小さく削り小型化。
・戦闘室天面前部の操縦手ハッチは大型化。
・戦闘室後部は機関室との隔壁が垂直。
・戦闘室左右の監視ハッチは左右同じパーツで、角を丸く落としています。
・砲塔後部の角度は実車より緩やかで、天板の折れ曲がりの部分から前後の比率も微妙に違うようです。砲塔前部も若干長くなっています。
・キューポラはハッチも含めて形状が全く違うので自作しています。更に位置も少し前に移動。
・円筒状のペリスコープも形が違うので自作。
・照準窓には雨樋(?)を追加。
・砲身は少し短くなっています。
・マフラーは車体からの取り回しが違うのでプラ棒を曲げ加工して取り付け。
・フェンダー固定具は位置が違う上に、取り付けリベットの数とサイズが違います。
・固定具の位置変更に伴いフェンダー上のリブは削り落としました。
・フェンダー左側には工具入れを自作。
・ツルハシ、スコップはサイズが違うのでキットパーツを改造。固定具はエッチングパーツ。
・アンテナ基部は自作。
・消火器は近い形の物にハンドル(?)を追加。
・ノテックライトの位置は外側に変更。
・フェンダー右側の小穴の空いた工具箱は側面板をプラ板で作り直し、高さを変えました。
・ジャッキ台はⅣ号戦車用の物に取り付け具(アングル材)を付けて装着。
・各部のリベットは、位置と数が全く違います。

…と、本気で完全再現を目指すと工作量はとても多いので適度な割りきりは必要だと思います。

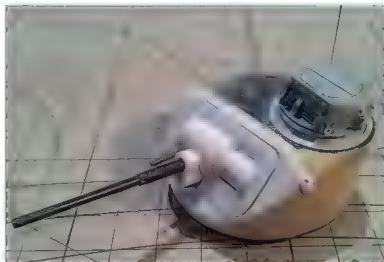
「もうイヤぁ～!」「待って～!」「あっ! 逃げちゃダメだってばぁ～!」

TAMIYA 1/35 scale plastic kit
U.S. M3 TANK LEE use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

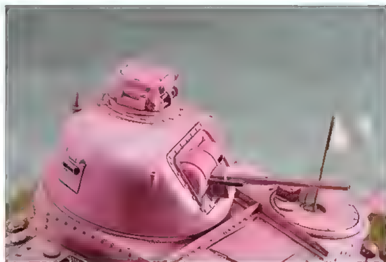


本編第4話「隊長、がんばります!」にて、聖グロリアーナ女学院を誘い込み迎え撃つものの、その実力差で形勢が逆転し、一年生チームに放棄されてしまったM3中戦車リーをピックアップしたディオラマを完成させた。
タミヤの1/35 M3リーMk.Iとアスカモデルの1/35 M4A1の"ニコイチ"で製作。細部にわたる劇中再現にも妥協のないクオリティで完成させている。HJ本誌2014年4月号掲載。

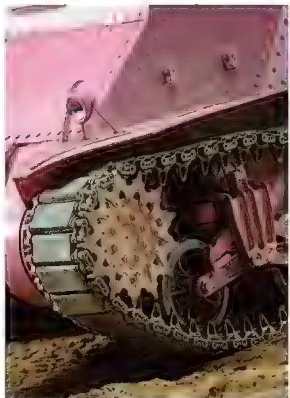
タミヤ 1/35スケール プラスチックキット
アメリカ陸軍 M3リーMk.I 戦車 使用
ディオラマ製作・文 **山田卓司**



▲砲塔はキットをベースにエポパテを盛り付けて造形。37mm砲基部はプラ材による自作でキットでは省かれていた照準器と連動可動にしている



▲砲身は少しだけ短く切断。砲口も開口。キューポラは、ハッチが観音開きで高さも増しているため、プラ材で大きく形状変更。アドラーズネストのリベットでディテールアップしている

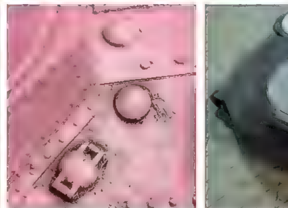




▲ライトはキットの物のレンズ部分をえぐってシルバーで塗装。ライトガードはエデュアルドのエッチングパーツを使用している



▲足周りはモデルカステンのT51シャーマン用履帯（SK-55）およびアスカモデルの足周りパーツで構成。組み立てに手間がかかるが、ディテールは非常に精密



▲燃料注入口の2つある円盤状のものはウェーブの「H・アイズ」を使用



▲戦闘室天面は異なるディテールをプラ板とアドラーズネストのリベットで工作。機関部のメッシュはエデュアルドのエッチングパーツを使用した。また後ろ側の高さを変更。合わせて装甲板の厚みと傾斜角度も変えている

『ガルパン』が発表された時、驚かされたのは金色の38(t)、あの赤、黄、水色の塗り分けのIII突、そしてこのピンク色のM3リー戦車（以下M3）でした。その時点では『ガルパン』に対し懐疑的だった私ですが、その後本編を観たらご覧の通りの有様です（笑）。

『ガルパン』版M3は細部ディテールが実車とは変えてありますから、たとえ新規のスケールモデルがリリースされたとしても結局は色々と手を加えることになるんですよね。

今回の作例では車体上部をタミヤのM3を使い、車体下部はアスカモデル（旧タスカ。以下アスカ）のM4A1初期型の一個イチモデリング。履帯はモデルカステンのT51を使いました。

タミヤのM3は開発が古く、排気管が実車とは違ってしまっていますから、こちらはイベントで購入した「ペッパーポット型マフラー」を使いました。

『ガルパン』版M3は、実車と比べるとプロポーションやリベットの数など違うのですが、今回はその辺りはスルーしつつ、ちょっとリアル寄りの『ガルパン』版M3の徹底再現を目指しています。

改造箇所は各キャプションを参照にしてください。

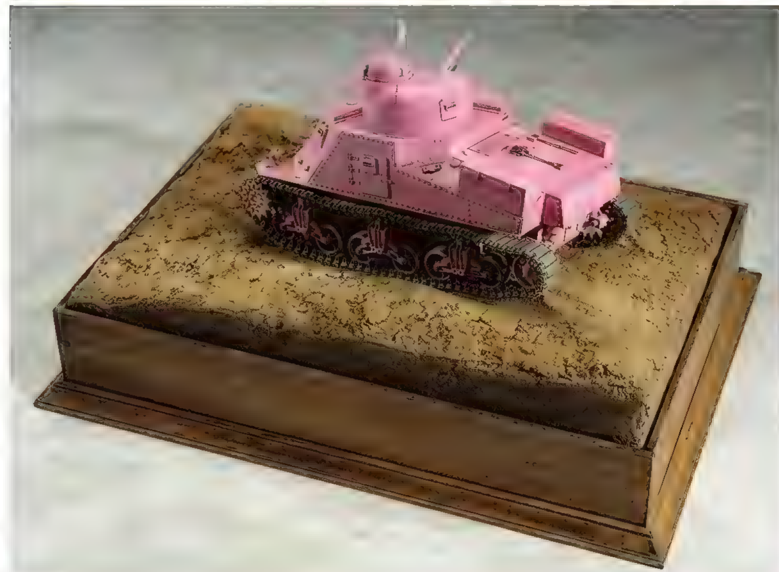
塗装はGSIクレオスの63番ピンクをそのまま使っています。カラーモジュレーションで明暗のメリハリを強調して仕上げました。

スコップや斧は良いアクセントになるので、鉄と木の質感に気を付けて塗り分けます。

機銃など金属色の部分はGSIクレオスの8番シルバーとGX2ウイノーブラックを混色して作っています。

仕上げは油絵の具を薄く溶いて全体に塗り少しトーンを落とし、タミヤのウェザリングマスター数色を水で溶かして土汚れを付けました。







プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー IV号戦車D型改(F2型仕様)
あんこうチームver. 使用
ディオラマ製作・文 山田卓司

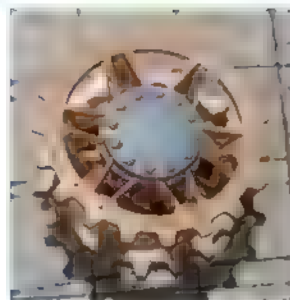
「降伏はしません。最後まで戦います」

PLATZ 1/35 scale plastic kit Panzerkampfwagen IV Ausf.D (F2 modified) Ver.team "ANKOU" use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

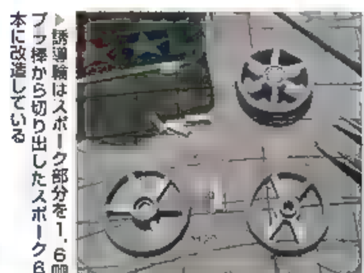
本編第9話「絶体絶命です！」より、勝利を目指しプラウダ高校のフラッグ車をキューポラの上から探す西住みほの雄姿をディオラマに仕立てた。

キットに存在する実車特有のディテールを活かした改造で劇中の完全再現とはなっていないが、ハイディテールも兼ね合わせたハイブリットな作品に仕上がっている。HJ本誌2014年5月号掲載。



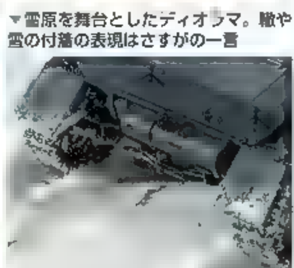


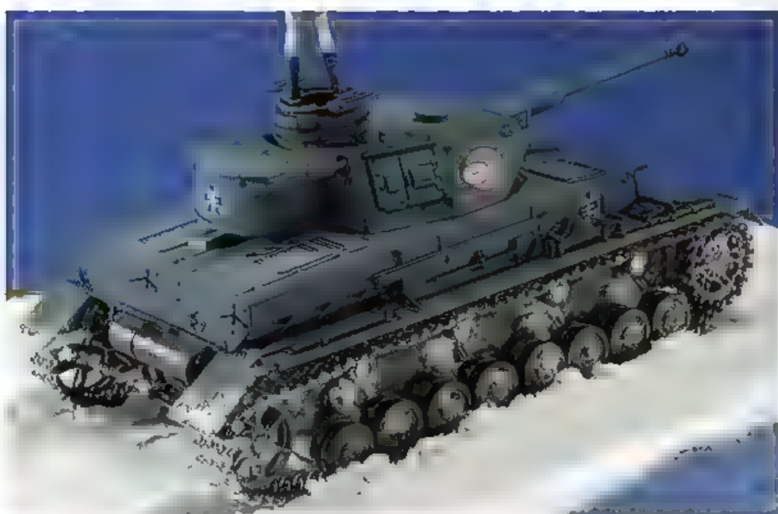
◀起動輪は基部のギアボックスカバーパーツと共にタミヤのアフターサービスで入手した物に変更



▶誘導輪はスポーク部分を1.6㎜プラ棒から切り出したスポーク6本に改造している

▼雪原を舞台としたディオラマ。轍や雪の付着の表現はさすがの一言





▲履帯はモデルカステン製「SK-18」を使用



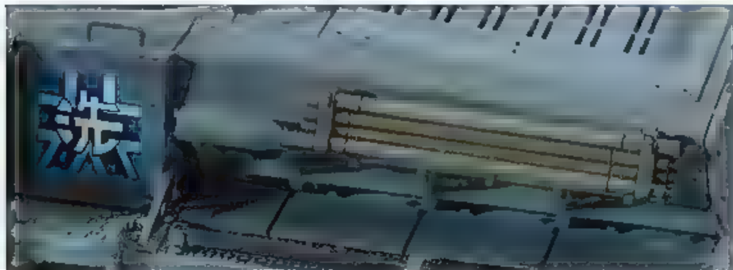
▲車体前部天面の点検口のフタはD型の物に似た形状なので、縁を0.5mm削り込んだ上でプラ板の細切りを巻きつけて造形

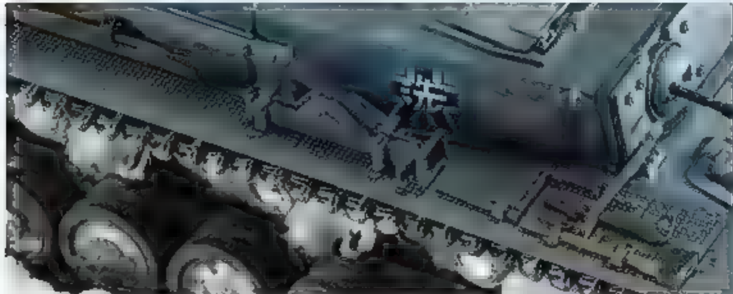


▲サスペンションに付随するダンパーは最後尾の物は無いので削り取る

▼フィギュアはモデルカステン製を使用。「秋山優花里」の右手と左手首を改造、ヘッドは「西住みほ」を使用した







▲スコップは少し前に装着。斧は少し短いので切り詰めている。クリーニングロッドは先端部分が上下逆なので、ストックしていたパーツに変えてみた



▲雑具箱天面。フタ部分は中央にラインがあるので、スジ彫りを追加した



◀砲塔側面ではD型譲りのハッチストッパーとリベットがあるので、ハッチストッパーをプラ棒より、リベットをアドラーズネストのリベットで追加

あんこうチームのIV号D型は対プラウダ戦直前に主砲の7.5cm砲を43口径に載せ替えてF2型仕様に改修されます。その後の決勝戦ではさらに改修されて48口径のH型仕様となりますので、結果的には本車が劇中で活躍するのはプラウダ戦のみとなります。

プラウダ戦は大好きなロシア軍車輌が相手なせいか、ディオラマにしたい場面が目白押しなのでどの場面をモチーフにするのか大変悩むのですが、今回は車上に立つ西住みほが印象的な状況確認の場面としました。

F2型仕様はプラッツのキットをストレートに組み上げるだけで充分だと思うのですが、『ガルパン』アレンジ版を目指すとなると、やっぱりアレコレと追加工作が必要となってしまいます。ただ、ドイツ軍のIV号戦車には個人的に思い入れが強く、どうしてもフェンダー表面の模様や溶接跡など既存のキットには無かったような、実車を細かく再現したディテールを削除することは出来ませんでしたので、その点では「徹底再現」ではありませんね。ごめんなさい。変更点は写真のキャプションをご参照ください。

塗装はGSIクレオスの特色セットの大洗グレーにブルーを混ぜて調色。カラーモジュレーション技法で立体感を強調して仕上げています。

ディオラマ

車上の西住みほはモデルカステンよりリリースされていたレジンキットの「秋山優花里」の右手と左手首を改造、ヘッドは「西住みほ」を使いました。

プラウダ戦ではブーツが細長い形状なので、エポパテで延長した後に削り込んで再現しています。やっぱりアニメーションキャラクターの塗装は難しいですね(汗)。

今回は雪上の場面なので、履帯及び足周りはモーリンがリリースしている大理石の粉末「新雪」をグロスメティウムと混ぜてペースト状にした物を細筆で塗りつけています。足周りの雪が堆積する部位は戦場写真を参考にしています。

ベースは起伏をスタイロフォームで下地を作り、石膏でコートして雪原を造形しました。アクリル絵の具のブルーで塗装した上にモーリンの「新雪」を接着して仕上げました。

「そーれそれそれ!」

Fine Molds 1/35 scale plastic kit
Type 89 medium tank model Kou Ver.team "AHIRUSAN"
the diorama built&described by Takuji YAMADA

アヒルさんチームが駆る八九式中戦車甲型。この八九式中戦車甲型は他の戦車に比べ非力にも関わらず、さまざまなシーンで数多くの活躍をみせ戦いを盛り上げた戦車である。その中でもファンをハラハラさせたTV版準決勝でのシーンをチョイス。ディオラマの雪原表現はもちろん、劇中に合わせて施された八九式本体の加工にも注目してほしい。 HJ本誌2013年12月号掲載。

ファインモールド 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー
アヒルさんチーム 八九式中戦車甲型 使用
ディオラマ製作・文 **山田卓司**







舞台が夜戦ということで、雪原の冷たいイメージにするためにパウダーを接着する前の地表に薄い水色を塗装。パウダーは光沢の強いモーリンのものを使用した





◀爆発煙は透明プラ棒で基本形を作り、モーリンのパウダーを接着した

対プラウダ高校戦。フラッグ車として相手校の猛攻をかわしながら爆走する姿をディオラマで描いてみました。使用キットはもちろんファインモールドの「八九式中戦車甲型」。本編に登場する八九式はこのキット開発時の3Dデータを参考にしているとのことでプロポーションやディテールでは設定画との差異が少ないのですが、重箱の隅をつつく観点で眺めてみると、わずかにディテールアップポイントも存在しています。

まずは主砲の防盾カバー。ここは土浦に現存する八九式に装着されている物とよく似た形の物が描かれています。プラ板で完全自作した防盾を、不要パーツとしてキットに入っている主砲基部パーツに取り付けました。

マフラーカバーはキット付属のエッチングパーツを0.3㎜厚プラ板に仮止めし、黒をスプレー塗装してアウトラインを写しとり、それをゲージにドリルで開孔、切り抜いて作りました。

そして戦闘室前面装甲板。設定CGをよく見ると外周に並ぶリベットの内側に線が描かれています。今回はリベットの下に補強板が加えられているという解釈で、リベットをすべて削ぎ落とし、0.3㎜厚プラ板の細切りを外周に接着した後にリベットを貼り直すことで再現しました。

戦闘室上面左右には給油口蓋が設けられていますが、右側最前部の物を追加します。これはキットモールドの給油口蓋を型取りし、エポパテを型に詰めて複製した物を接着しました。

この作品ではフラッグ車として作る必要があります。フラッグの基部ディテールは友人の辻本氏の考察によれば、戦闘室前面右側の展望窓を内側から板で塞ぎ、そこから円筒形の基部が取り付けられているようです。キットの展望窓の部分を開孔し、フタは裏側を再現する必要がありますから不要パーツとなっている戦闘室左側パーツより展望窓の蓋を切り出し、薄く削って使用しました。フラッグ基部はプラパイプから作り、真鍮線で固定しています。

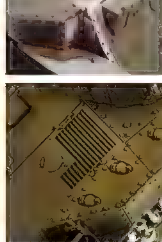
塗装はGSIクレオスのカーキを基本にして明色、暗色を作ってカラーモジュレーション塗装しました。足周りは雪がこびりついた表現として、石膏を溶いて竹串の先で点付けしています。

ベースはスタイロフォームを削って緩やかな起伏を作り、石膏で表面をコートしてまず基本形を作ります。轍はヘラや竹串の先で荒らしておき、地表部分はモーリンの雪表現用パウダーを接着します。









▲▼▶フラッグ装着部分を新造。展望窓を開口し、フタの裏面のディテールは薄く削った戦闘室左側の展望窓のフタを利用した



◀主砲の防盾カバーはプラ板を用いた自作によるもの



▲マフラーカバーは、劇中だとモールドが丸いので、ドリルで開口して新造



▲劇中では右側の給油口蓋の数が1つ多いのでエポパテで追加している





▲劇中だと本体前面のリベットの内側にディテールが描かれている。いったんすべてのリベットを切り落とし、一枚プラ板を挟んだあとに再度リベットを貼り付けた



▲履帯の張りを調節するため誘導輪基部を加工







TVシリーズクライマックスの、見所満載な黒森峰女学園との決勝戦から、比較的コミカルな3つのシーンをチョイス！　それぞれ本体は劇中での姿を再現したフル改造仕様。ディオラマならではの表現方法で、劇中のイチ場面を切り取ったかのようなモデルに仕上がった。 HJ本誌2015年12月号掲載。

ファインモールド 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー 三式中戦車［チヌ］使用
ディオラマ製作・文／**山田卓司**





▲各部の省略されたスジ彫りを追加したほか、履帯をモデルカステン製のものに置き換えディテールアップ

▲車体後部の牽引具の形状を設定画に合わせた形に変更した

大洗女子学園所属車輌の内、番組後半に活躍した3輌をまとめて製作です。

まずは三式中戦車です。決勝戦開始早々にリタイア。しかしフラッグ車であるあんこうチームのIV号戦車の身代わりという殊勲をたてた名シーン（笑）をモチーフとしました。この車輌は設定画と実物との差違はほとんどありません。モデルカステンの履帯に替えたこと以外はほぼキットのままです。

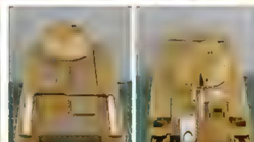
他作例同様、カラーモジュレーション塗装で仕上げます。これは各面が強調されるようにわざとらしいくらいに明暗をグラデーションをつけた色を塗っていくのですが、ちょっとバカっぽいくらい大胆に変化をつけると上手くまとまるようです。

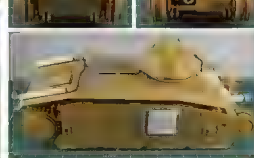
今回は被弾した直後をモチーフとしましたから、その様子は劇中シーンをコマ送りして研究しています。動きの中でもっとも説得力あるポジションとして、車体前部右側を軸として不安定なレイアウトとしました。これには車体内側にエポパテとナットを仕込んでビスの受けを作ってから、ディオラマ裏側からビス止めしました。被弾部には透明プラ棒を芯に脱脂綿を使って爆煙を造形しています。脱脂綿はよくほぐしてから丸め、大きさの変化を付けながら布用ボンドで接着していきました。こちらの塗装はエアブラシによるスプレー塗装。黒を下地にして、その上から立体感が出るように灰色を塗装しています。



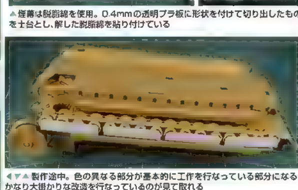
ヤ 1/35スケール プラスチックキット
ンス戦車 B1 bis 使用
ラマ製作・文／山田卓司







▲煙幕は脱脂綿を使用。0.4mmの透明プラ板に形状を付けて切り出したものを土台とし、解した脱脂綿を貼り付けている



◀▼▲製作途中。色の異なる部分が基本的に工作を行なっている部分になる。かなり大掛かりな改造を行なっているのが見て取れる

Ｂ１ｂｉｓはタミヤから素晴らしいキットがリリースされておりますから、これは楽勝と思いましたけど、設定画をよく見ると色々違うことに気が付きます。

・車体側面下部のゴムカバーが無く、転輪が４個ずつのユニットになっている。
・車体側面のリベット配置が異なる。装甲板の継ぎ目も無い。
・上部フェンダーのリベットはすべて無い。
・車体前面操縦手席周りがシンプルな平面構成に。
・操縦手ハッチが真円に。ペリスコープ形状も円筒型に。
・75㎜砲の先端にリングが追加されている。
・機関部の小ハッチが一つ少ない。
・アンテナ基部のガードが無い。
・アンテナの蛇腹部が短くなっている。
・車体天面のガードバーの形状が違う。
・車体後部の装備品が無い。
・車体後面のチェーンフックが無い。
・排気管の出口が上向きに。カバーも細い。
・砲塔の47㎜砲の先端にマズルブレーキ。
・砲塔の吊り下げフック基部が円形。

あと、今回は付け忘れましたけど、車体前面のライトは基部のみとなっているなど、すべてに手を加えるのはなかなか大変ですから、全く気にしないのが健康的だと思います。カモさんマークおよび大洗女子学園校章はモデルカステンのデカールセットより。大洗女子学園校章はセットに一つだけなので2セット分使用しています。

さて、劇中の決勝戦で印象的な「ぱらりら作戦」。白い煙幕をもくもくと吐き出しながらジグザグに疾走する姿です。ベースはスタイロフォームで登り坂の地形を作り、壁塗り補修材＆スタティックグラスで仕上げました。劇中描写では芝生のような背の低い草が生えているのが確認できますが、少し荒れた台地をイメージした場所としています。轍の部分はタミヤ軽量粘土を用いて、柔らかいうちに履帯を押し付けて表現しています。

煙幕は脱脂綿を使いました。0.4㎜透明プラ板を切り抜いたものを芯にして、脱脂綿を張り付けています。脱脂綿は古くからディオラマでの煙表現の定番ですが、安価で入手し易いのが魅力ですね。少しちぎってから丸めたものをサイズを変えながら、少しずつ布用ボンドで張り付けて造形していきました。

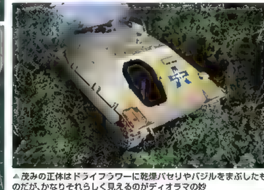
プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ＆パンツァー
38(t)戦車改 ヘッツァー カメさんチームVer. 使用
ディオラマ製作・文／山田卓司







◀▲▲ディオラマの構成上、車体がほとんど見えなくなるが、妥協せずにプラ板や真鍮線などで各所細かい改造を施してある



▲茂みの正体はドライフラワーに乾燥パセリやバジルをまぶしたものだが、かなりそれらしく見えるのがディオラマの妙

劇中登場車輌はイタレリがリリースしたヘッツァーが作画の参考にされたようで、かなり共通したディテールがあります。ですが今回はプラッツからリリースされているキットを使用しています。ディテールアップ用に黒騎士物語版のキットも用意して、それぞれのパーツから良いところ取りして、これまでと同様、設定画のディテールにこだわって製作しました。

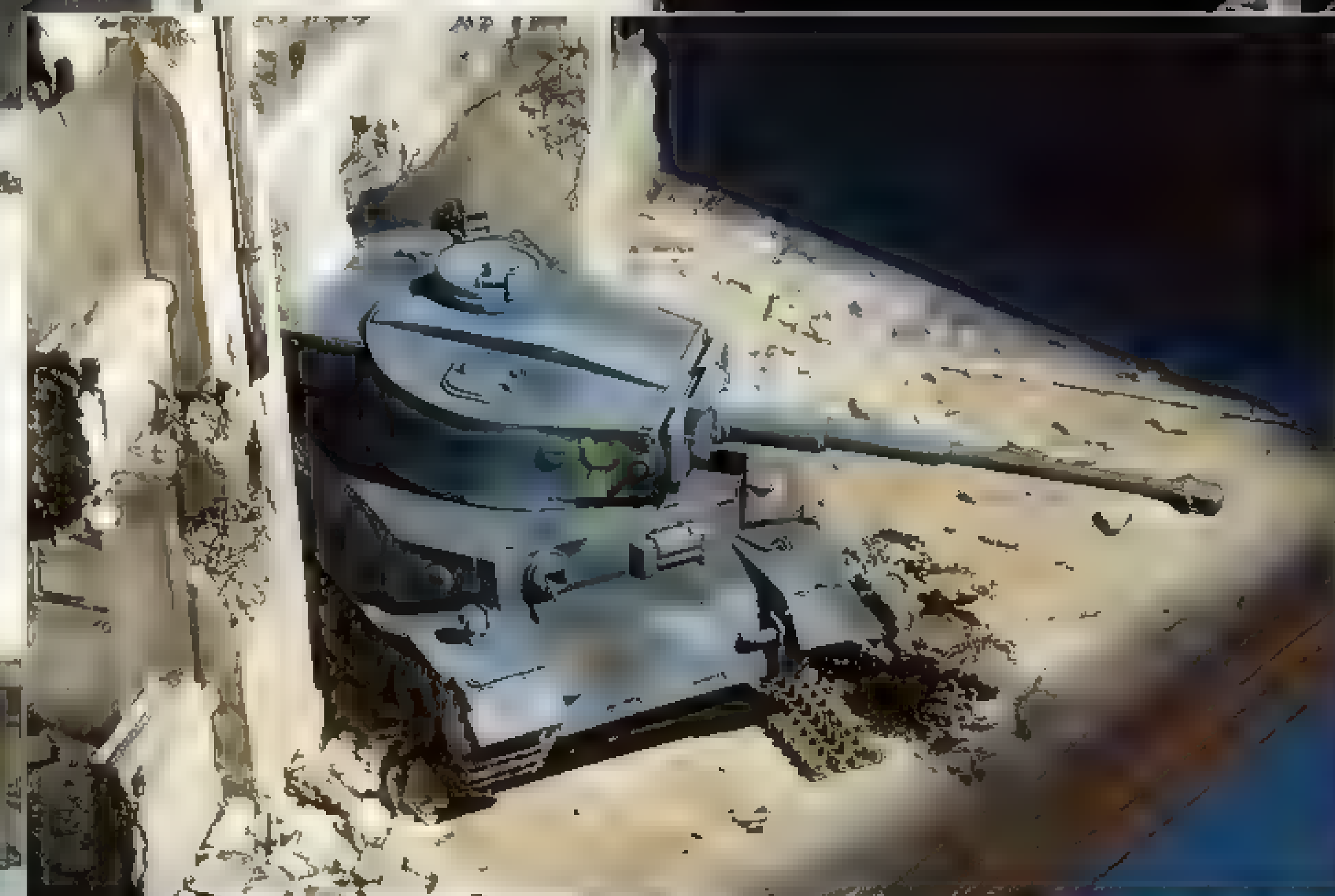
・履帯はモデルカステン製の可動式の物に交換。
・起動輪はモデルカステン製履帯とは噛み合わせが悪かったので同社の38(t)用の物に変更。外周にボルト追加。
・転輪中央部のボルトは数が少ないので一個おきに削り落とす。
・誘導輪は黒騎士版より。
・車体前面装甲板と側面装甲板との段差は無いので削り落とす。
・左右フェンダーのリブは一度削り落として、プラ棒で太く直す。
・フェンダーは実車にある縁の折り返しは無いので削り落とす。
・左右にある牽引用ホールドの形状修正。
・砲身は太く、先端に段差もあるのでプラパイプで製作。
・視察口カバーはプラ板で自作。
・ライトコードを真鍮線で追加。
・側面にある小ループを真鍮線で作り替え。
・車体左側面の二本のリブはプラパイプに変更。
・天面周囲のボルトはウェーブのパーツに交換。
・3ヵ所あるピルツのような突起を追加。
・コマンダーハッチのコーナーは直角に修整。
・機銃用防盾はプラ板で自作。
・ペリスコープのある場所は小プレートで塞がれているので、プラ板を接着。
・マフラー本体は本来の物より長いのでプラパイプから自作。
・マフラー基部カバーはキットを元に改造。
・車体後面板のリベットモールドを修正。
・ワイヤー掛けのフックを追加。
・ワイヤーは水糸から自作。
・誘導輪基部はディテールが省略されているのでモールドを削り落とす。
・後部左右フェンダーはリブが無く、水平に設置されているので修正。
・ジャッキはそのままだとサイドスカートのステーが邪魔をして乗らないので短く修正。
・ジャッキの下にはワイヤーカッターを装備。

「ここから先は行かせないよ〜!」

PLATZ 1/35 scale plastic kit
Panzerkampfwagen VI Tiger(P) Ver.team "LEOPONSAN"
the diorama built&described by Takuji YAMADA

第12話ラストより、フラッグ車同士の一騎打ちに持ち込むためにレオポンさんチームが駆るポルシェティーガーが、その巨体と装甲を活かし、黒森峰女学園の戦車達を前に、廃校の入り口で仁王立ち(?)をする、誰もが胸を熱くした名シーンを再現した。
戦車本体はプラッツ、サイバーホビーのキットとアップデートパーツを利用して製作しているが、さらに突き詰めた劇中再現工作を敢行！　ぜひとも注目してほしい。HJ本誌2014年2月号掲載。

プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー ポルシェティーガー -レオポンさんチームver.- 使用
ディオラマ製作・文／**山田卓司**





▲窓枠は透明プラ板にプラスチック角材を接着して作り、塗装後にガラス部分を切って割れた状態にした



▼背景となる建物は密度が高い発泡スチロールに壁塗り補修材を盛り付け、硬化後に表面を削って表現した。崩れた所には針金を差し込んで鉄筋も表現している

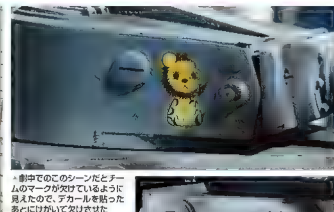


この場面のポルシェティーガーは左側誘導輪と第一サスペンションにダメージを受けたようで外れてしまっているので、他のサスペンションに角度をつけて傾いた状態にしたが、思ったより傾きが出なかったのでベース部分にスロープをつけた

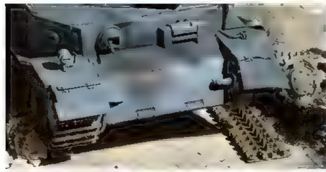




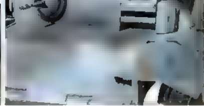
▲▶砲塔上面の形状を平らにし、キューポラの角度も変更。アップデートパーツの裏面も砲塔の形状に合わせて加工した



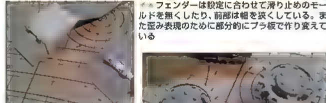
▲劇中でのこのシーンだとチームのマークが欠けているように見えたので、デカールを貼ったあとにけがいて欠けさせた







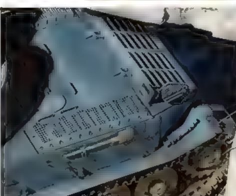
▶車体前面は設定画に合わせてプラ板でスクラッチ。運転手用バイザーの位置も変更。溶接跡も新造している



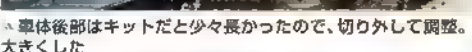
◀▲フェンダーは設定に合わせて滑り止めのモールドを無くしたり、前部は幅を狭くしている。また歪み表現のために部分的にプラ板で作り変えている

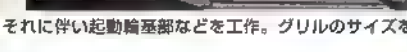


▶設定では誘導輪のリム部分のボルトが外周に付いているので、プラストラクト製六角プラ棒を輪切りにしたもので置き換えた



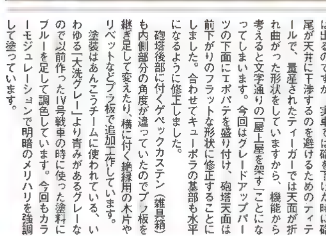






▲車体後部はキットだと少々長かったので、切り外して調整。それに伴い起動輪基部などを工作。グリルのサイズを大きくした





今回はレオポンさんチームのポルシェティーガー（以下P虎）を作ってみました。

第12話「あとには退けない戦いです！」西住みほ＆まほ姉妹の乗るフラッグ車同士の最終決戦に邪魔が入らないように廃校の入り口に陣取り、多数の黒森峰校の戦車群相手に激しく撃ち合う姿がとても印象的でした。

プラッツよりリリースされたP虎のグレードアップパーツを使って『ガルパン』版により近づけています。

設定CGを見て、まず気になるのが車体後面の大きなルーバーと機関室天面との間にあるヒンジの位置関係で、実際よりずいぶん短いのです。ここはルーバーの外枠が幅広いことに加えて車体が少し短いからと判断して、車体後部のパネルの板厚分、車体長が短くなるように加工しました。

機関室天面左右にあるルーバーも取り付けのボルトの高さは同一なのでキットパーツを切り貼りして高さをそろえ、プラストラクトの六角プラ棒を付けています。

砲塔は天面中央部分の盛り上がり（モヒカンと呼ばれることが多いようです）が一番気になる所で、グレードアップパーツにも含まれております。ただ、このパーツは現状のキットにそのまま接着する仕様となっており、確かにこれを付ければ劇中のP虎の雰囲気は出るのですが、実車では砲を下げた時に砲尾が天井に干渉するのを避けるためのティテールで、量産されたティーガーでは天面が折れ曲がった形状をしていますから、機能から考えると文字通りの「屋上屋を架す」ことになってしまいます。今回はグレードアップパーツの下面にエポパテを盛り付け、砲塔天面は前下がりのフラットな形状に修正することにしました。合わせてキューポラの基部も水平になるように修正しました。

砲塔後部に付くゲペックカステン（雑具箱）も内側部分の角度が違っていたのでプラ板を継ぎ足して変えたり、横に付く絶縁用の木片やリベットなどプラ板で追加工作しています。

塗装はあんこうチームに使われている、いわゆる「大洗グレー」より青みがあるグレーなので以前作ったIV号戦車の時に使った塗料にブルーを足して調色しています。今回もカラーモジュレーションで明暗のメリハリを強調して塗っています。

Pz.Kpfw. IV Ausf. D (H modified)

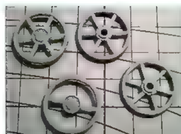
PLATZ 1/35 scale plastic kit
Panzerkampfwagen IV Ausf. D (H modified)
Ver. team "ANKOU"
modeled&described by Takuji YAMADA

プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー
IV号戦車D型改(H型仕様)-あんこうチームver.-
製作・文／山田卓司

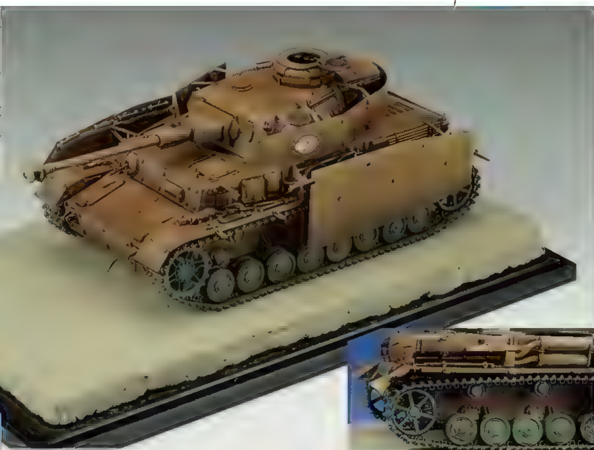




山田卓司による記念すべきHJ本誌初『ガルパン』作例。プラッツのキットを使用してディテールを盛り込んだ徹底工作仕様のIV号戦車D型改（H型仕様）を製作。最終回での"ラスト・シューティング"にいたる直前の作戦会議中をイメージしている。HJ本誌2013年6月号掲載。



▲誘導輪のスポークはキットのスポークを一本残して切断。1 6mmのプラ棒を使って6本に改造





◀ライトコードの被覆管とリコイルカバー上部のリングを0.5mm径真鍮線で作り追加。ライト本体は取り付けず、基部にプラ棒の輪切りを接着

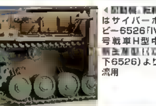


▲後部フェンダー右側は試合中、黒森峰のティーガーと衝突して破損しているので、パーツを裏側から削り薄くして、ひしゃげたように曲げる





◀ブレーキ点検ハッチの吸気口パーツ（A41）は上下を薄く削る。[illegible]のボルトは位置、数共に設定画に準じて変更



◀[illegible]はサイバーホビー6526「IV号戦車H型中[illegible]下6526）より流用



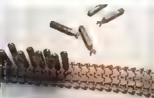


▲[illegible]のハブキャップはプラ板を[illegible]したパーツを作って接着





▲キューポラハッチは水平に開くようにヒンジのモールドを削ぎ取り、プラ板で厚みを増して再接着。ペリスコープは6526の透明パーツ



▲履帯はモデルカステンSK-17のガイドホーンを切断して、SK-18付属のものに交換。加工、接着がしやすいプラ製パーツならではの工作

▲車体シュルツェン本体はキット付属の物を使い、最前部のパーツ（N16）を接着。ラックは6526より流用。シュルツェン架のアームの補強板は設定CGの通りに修正

▲砲塔シュルツェンはキットオリジナルの物

プラッツより発売された「IV号戦車D型改（H型仕様）あんこうチームver.」のキットを使って、第12話の黒森峰女学園のティーガーとの最終決戦の姿を作ってみることにします。

「プラモデルを楽しむ」見地ではストレートに作って仕上げることが一番健全なはずなのですが、今回はひとつのアプローチとして可能なかぎり「劇中のIV号」の完全再現を目指してみました。

キット以外にサイバーホビーの6526番「IV号戦車H型中期生産型」を別途用意し、こちらのパーツを併用しながら所謂ニコイチで作っております。

この作例での自分で決めたルールとしては…

・設定CGおよび劇中のディテールの完全再現を目指す。

・プラッツのキットのベースとなっているドラゴンのパーツのみを使い、他社のパーツは使わない。

・いつもスケールモデルで行っているような実車に準じたディテールアップ工作は行わない。

・一部の例外を除きプラスチック素材のみとし、別売のエッチングパーツなどは使わない。

・キット本来のディテール、例えば溶接のラインやボルトの彫刻はそのまま活かす。

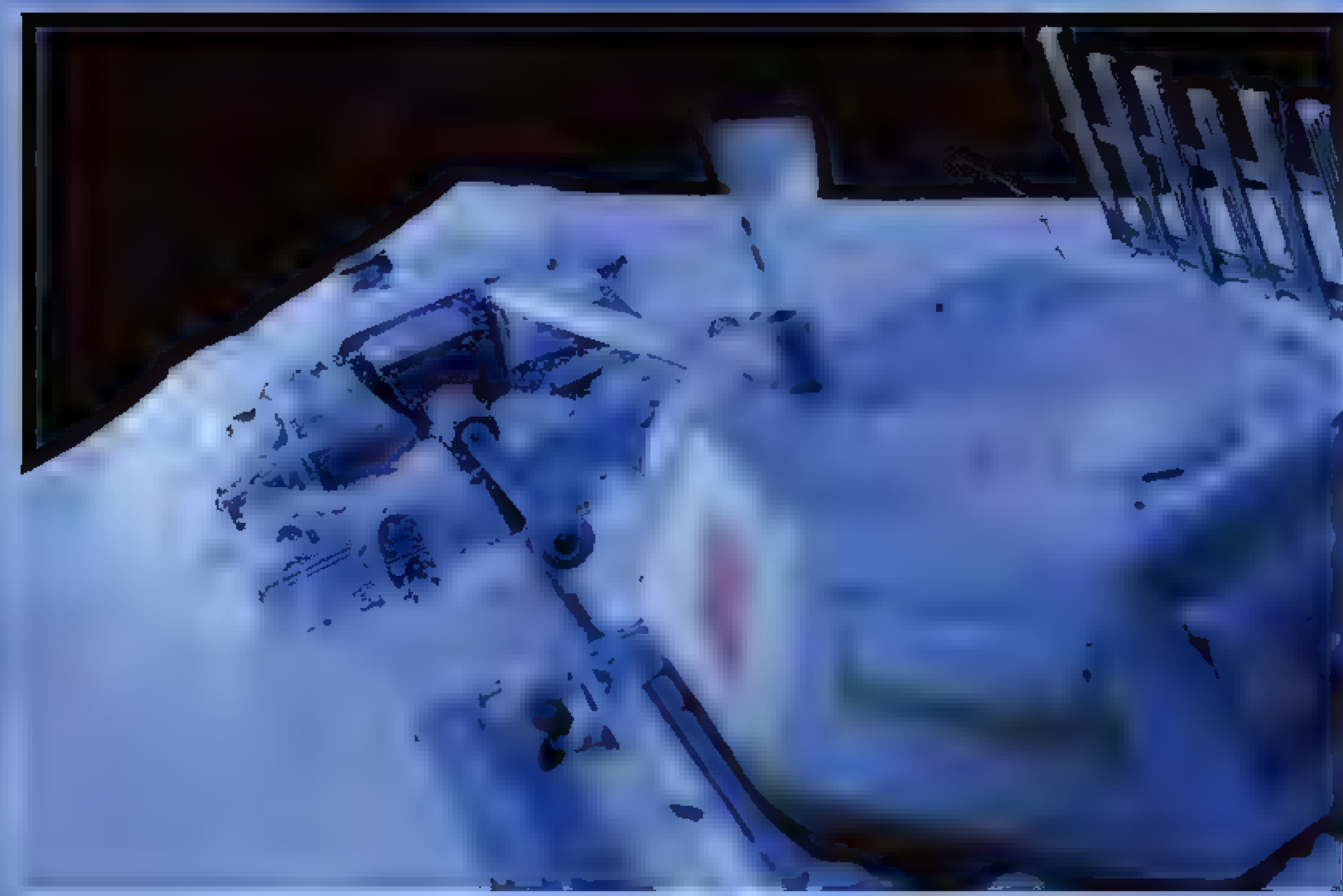
……こととしました。今回はスミ入れおよび汚し塗装は控え目とし、錆や塗料剥げ表現はしませんでした。

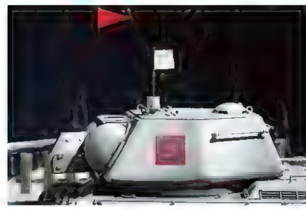
塗装は欧米モデラーの間でよく行われている「カラーモジュレーション」技法を取り入れています。この技法はコンピューターグラフィックスの画像から発想された、光の当たり方の明暗のコントラストを強調することで、量感をより立体的に見せる技法で、アニメーション作品の模型には向いているのでは？　と試してみたわけです。

塗料はGSIクレオスの41番レッドブラウン、43番ウッドブラウン、19番サンディブラウンをベースにつや消しホワイトやつや消しブラックを適宜混色しながら塗っています。足周りは72番ミディアムブルーをベースにしたグレー。

キット付属のデカールはカルトグラフ製で発色も良く、サイズ、質共に申し分無い内容です。大洗校マークはシュルツェンで隠れている砲塔後部や戦闘室両側面にも描かれており、こちらのマークの位置はひとつ前の仕様のF2型を参考にしています。

「試合終了。
大洗女子学園の勝利!!」

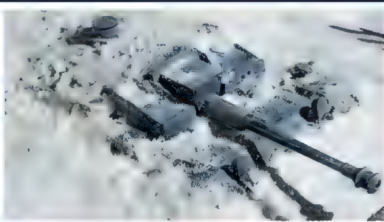


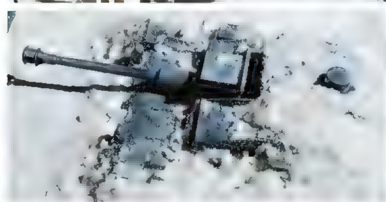






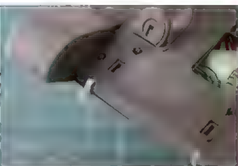




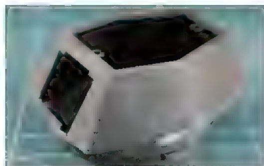








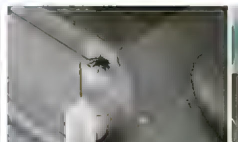
▲モーターライズの都合による形状はプラ板などでしっかり塞いだ



▲砲塔は設定画に合わせて前側の形状をなだらかに変更



▲履帯はモデルカステン製。タミヤの「情景テクスチャーペイント」とアクリル絵の具のメディウム材、ジェルメディウムをブレンドした物で履帯の雪を細かく表現



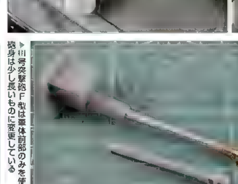


◀アンテナおよび旗の基部はプラ材で新規に製作

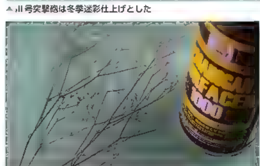


▲III号突撃砲は冬季迷彩仕上げとした

▶III号突撃砲F型は車体前部のみを使用。砲身は少し長いものに変更している

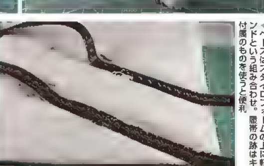






▲木立はカスミ草のドライフラワーの花を取り除いたもの



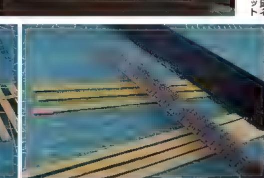


◀ベースはスタイロフォームの上に軽量ネンドという組み合わせ。履帯の跡はキット付属のものを使うと便利



▲雪はモーリンの石の粉末。新雪感を出すためにラメ粉を少量まぶしているが、角度によって適度にキラリと光り目を引く仕上がり





▲雪柵はウェーブ製ダークイエローの1mmプラ板。木目は鬼目ヤスリによるもので、ランダムな形状がそれらしく見せてくる

プラウダ戦の時のIII突は、履帯をヴィンターケッテにし、冬季迷彩をしているのが特徴なので模型として再現したいところですが、今回のディオラマで使うのは戦闘室と車体前部のみ。大半が雪で隠れるのでそれらはオミットしています。ハッチの合わせ目など、ていねいに仕上げています。砲身はL48と呼ばれる少し長いものに換装されているのでストックしてあった「アーマースケール」の物に交換しました。

T-34/76はタミヤの製品。開発時期が古いのでシリアスな目で見たら問題点も無くは無いのですが、作りやすくて内容も充実。未だに多くのモデラーに愛されている名作キットです。タミヤからT-34/76は1942年型と1943年型の2種類がリリースされておりますが、転輪を再現するため両方のキットを使いました。モーターライズ用の各部の穴と車体袖部裏側をプラ板で塞いだら、設定画を見ながらいくつかのディテールを削り落とします。ほとんど追加するべきディテールは無いのですが、砲塔のみ少し型式が違いますので前部下端のエッジは削り、なだらかにしました。他には、アンテナ基部は少し大きく感じたのでプラパイプで追加工作しました。履帯はいつもの通り、モデルカステンの可動式履帯を使っています。履帯にこびりついた雪はタミヤの情景テクスチャーペイントとアクリル絵の具のメディウム材、ジェルメディウムをブレンドした物を塗りつけて表現しました。本編とは違うのですが、ディオラマ的な演出として左側の履帯は切れた表現にしています。

塗装ですが、III突はスプレー塗装と思われる冬季迷彩で、ダークグレーを塗装後にフラットホワイトでそれらしく塗装。T-34/76は元からの白い車体色を想定してホワイトからグレーまで数色使ってカラーモジュレーション塗装で仕上げました。プラウダ校のマークはモデルカステンのガルパン汎用デカールより。

地面はスタイロフォームを下地にタミヤの軽量ネンドで造形しました。タミヤのキット付属のポリエチレン製履帯を押し付け、ネンドが固まってから剥がして轍を表現しました。柵はウェーブのダークイエローの1mmプラ板を短冊状に切り出し作製。表面は鬼目ヤスリで木目を刻みました。木立は花を切り取ったカスミソウのドライフラワー。雪表現は「モーリン」のディオラマ用の石の粉末を使用。

「来た。ギガント」

PLATZ 1/35 scale plastic kit
KV-2 "Pravda Girls' High School" use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー KV-2 プラウダ高校 使用
ディオラマ製作・文／山田卓司

「ガールズ&パンツァー KV-2 プラウダ高校」は、タミヤOEM供給によりプラッツから発売されたキット。タミヤ製1/35 KV-2自体、長らく市場から姿を消していたキットであっただけに、当時このキットの発売は、「ガルパン」ファンではない戦車模型ユーザーにとっても朗報であったであろう。
作例は劇中の雪原シーンをディオラマ仕立てとして製作。KV-2は設定CGに近づけたモデルへと仕上げた。HJ本誌2015年11、12月号掲載。





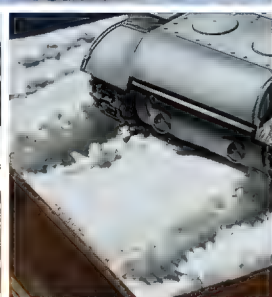


▲車長ハッチ基部はモールドを削りプラ板で作ったリングで再現してから「KV-1B」よりハッチを流用



▲履帯はモデルカステンの「SK-9 JS-II/IIIスターリン用履帯タイプA(可動式)」を使用。雪表現はT-34/76VSIII突と同様

▲設定に合わせて、車体上面後部、フェンダー後部を「KV-1B」車体上面パーツから切り取り延長



▲KV-2の重量に合わせて深めの轍にしている。細かいこだわりだが、情景を表現するディオラマには効果的なこだわり





▲戦闘室前部のライト、ホーンの基部を自作した





プラッツのガールズ&パンツァーシリーズ1/35「KV-2プラウダ高校」です。キット本体はタミヤよりOEM供給されたキットで、古いキットゆえに模型店店頭で見つけるのも困難でしたが、アニメ本編の作画の参考にされたとも言われており、誰にも作りやすいその内容はずっと待ち望まれたものであることは確かでしょう。普通に組み上げるだけなら半日もあれば充分なのですけど、ガルパン原理主義者(笑)な私は色々と手を加えて設定画に近付けてみました。

製作

とりあえず最初にモーターライズ用の各部の穴をプラ板で塞ぐところからスタートです。改造はプラ板工作でも加工出来るのですが、ストックしてあったタミヤ「KV-1B」からパーツをいくつか流用しています。履帯はモデルカステンの「SK-9 JS-II/IIIスターリン用履帯 タイプA(可動式)」を使用。車体上面後部とフェンダー後部は少し下に延びているので、「KV-1B」車体上面パーツから切り取り延長しました。合わせて尾灯も少し下に移植しています。戦闘室前部ではライトを自作して小型化。ホーン基部らしきディテールもプラ板工作で追加。ドライバーズハッチと機関室の点検ハッチ2枚はタミヤの「KV-1B」より流用しました。砲塔では砲基部に照準口らしき穴を開口。車長ハッチ基部はモールドを削りプラ板で作ったリングで再現してから「KV-1B」よりハッチを流用。フェンダー上の燃料タンクは縁を薄く削ってシャープにしています。ワイヤーロープはロープ部分を化繊の糸に交換。その取り付け具は設定画を参考に接着しました。

塗装・ベース

白い車体色を塗装してある想定とし、フラットホワイトからグレー数色でカラーモジュレーション塗装で仕上げました。地面の轍はT-34の物と深さを変えてKV-2の重量との差異を表現しています。

プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー IV号駆逐戦車/70(V)ラング 黒森峰女学園 &
駆逐戦車ヤークトパンター 黒森峰女学園 &
重駆逐戦車 エレファント 黒森峰女学園 使用
ディオラマ製作・文／山田卓司

「全車輌、一斉攻撃!」

PLATZ 1/35 scale plastic kit
Sd Kfz 162/1 Panzer IV/70(V) Ver. "Kuromorimine Girls' High School" &
JAGDPANTHER Ver. "Kuromorimine Girls' High School" &
ELEPHANT Ver. "Kuromorimine Girls' High School" use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

重駆逐戦車[illegible]せて、黒森峰が森の中から大[illegible]ンを、[illegible]揃い踏みで[illegible]トパ[illegible]それは[illegible]作例[illegible]載された[illegible]レファントと共に劇中の[illegible]HJ本誌2019年4月号掲載。



▷針葉樹は黒森峰から「シュバルツバルト」をイメージして、資料を基に「ドイツトウヒ」として製作

▲戦闘室側面、溶接時のアンカーのみ描かれていたので再現した。やや不揃いな間隔は設定CG通りとした

▲前端のフェンダーは基部のみとなっている。エッチング製ディテールパーツを利用した

▲中央部のベンチレーターは取り付け位置はそのままだが、向きが違っている。余分なディテールは削り取る

◁戦闘室前面の雨樋は途中で折れ曲がった形状となる。機関部前部の乗員用ハッチのストッパーは左右対称の位置に変更

◁キューポラ下端はプラ板で張り出しを付ける。ペリスコープ用小ハッチのヒンジはないので削り取る。工作の都合上小ハッチはプラ板に替えた

エレファントの製作

・すべての転輪は中央部が張り出したタイプに統一。
・トラベリングクランプ奥側のアームが上下逆。
・機関部上面の小さなボルトが無い。
・操縦手&機関銃手ハッチストッパー位置変更。
・戦闘室前面の雨樋のライン変更。
・戦闘室の溶接線がオミットされている。
・車長キューポラ下端の板状部分。
・フェンダーの滑り止め模様削除。

といった部分しか相違点はありません。普通に楽しむならキット通りで構わないと思います。

転輪は以前作りかけていたポルシェティーガーより流用して揃えましたが、タミヤの転輪パーツをアフターサービスで取り寄せた方が無駄が少ないと思います。

履帯はモデルカステンの組み立て可動式の物。

塗装はGSIクレオスのガールズ&パンツァー「Mr.COLOR特色セット 黒森峰女学園Ver.」（メーカー生産終了）よりゲルプIIを使用。

ディオラマの製作

先に作ったIV号駆逐戦車ラング、ヤークトパンターと合わせて第10話、戦車道全国大会決勝戦冒頭、森の中より突如現れた黒森峰女学園の戦車群の砲撃を表現してみました。

画面ではヤークトティーガー、ラング、パンターが並んで描かれているのですが、ここでは駆逐戦車揃い踏みの図としています。同じような車輌が並ぶと博物館展示車輌や駐車場みたいで整然としてしまい絵柄としてつまらないので、レイアウトは何回も並べ替えて検討しました。

地面は百均で購入した木質粘土を使いました。履帯の轍はキット付属のベルト式履帯を押し当てて付けました。

黒森峰の由来元の「シュバルツバルト（黒い森）」の針葉樹は「ドイツトウヒ」という樹木だそうで、実際の画像を資料に製作しています。百均で購入した桐の丸棒を削って先細りにし、表面を鬼ヤスリで荒らした後にアートフラワー用の紙巻き針金を捩った枝を取り付けました。葉はマルタケインターナショナルの「針葉樹の葉」を接着しています。最小限の本数で森の雰囲気が出るように、かつそれぞれの車輌の進行を妨げない場所に植えていきました。

スタティックグラスを静電植毛器で植え、ライケンやドライフラワーにパセリの葉をまぶして背の低い樹木を作りました。

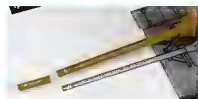








△戦闘室天井はほぼそのまま。コマンダーハッチ中央にペリスコープ位置を変更。ベンチレーターも径が違うので作り直した



△設定CGを図面代わりに使い、砲身の長さを寸法に合わせて短く改修。テーパー状に削り、先端部分を移植する





◁車体前面装甲の鋭いイメージと戦闘室下端ラインが一直線なのがガルパン版ラングたる特徴。トラベリングロックは長さが違うのでプラ材で作り直した



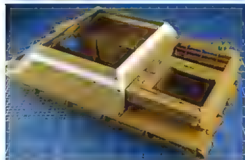
△転輪のハブキャップが鋼製とゴム縁とで違う。アフターサービスで入手したタミヤのパーツを使用





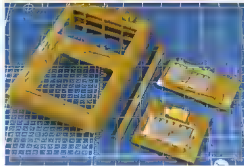
△実際は天井左右のボルト列は、もっと外周寄りだが、等間隔に位置決めするのが難しいため、キットに倣った





△戦闘室はフェンダーに掛かる部分で継ぎ足し、側面装甲板の角度を変更しながら側面、後面にプラ板で継ぎ足して全体に背を高くした。合わせて車体前面装甲板の長さ、角度も変更





△吸排気パネルはグリルの形状が違い、双方同じサイズに改造。本来の分割線はパテで埋める。予備アンテナはプラ棒&プラ板で作り直し。クリーニングロッドもヘッドの位置が違うので付け直す。ボルトは六角プラ棒のスライス、工具の取り付け具は削り取って作り直し



■IV号駆逐戦車ラングの製作

誘導輪も実車通りの7本スポークですし、サクッと終われるかな？ と思ったのですが、設定CGをよくチェックしてみると車体の面構成から細部に到るまで随分違っていました。総じてテレビ版の車輌は実車との相違点が多く、ラングも特徴的な物になっています。

・戦闘室前端、車体との接合部が一直線。
・合わせて車体前面の装甲板の角度、面構成のバランスが違う。

これらは正面から見た時の印象が大きく変わることから、改造することにしました。具体的にはフェンダーに掛かる部分を継ぎ足しながら戦闘室全体を高くします。これは大改造となりますので、皆さんには全くオススメできません。以下、例によって相違点を挙げて行きます。

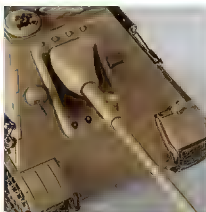
・砲身の長さが短い。
・砲取り付け部分のビスの位置変更。
・トラベリングロックが短い。
・機銃口の円錐形カバーの位置が少し上。
・車体、戦闘室の溶接ラインが違う。
・コマンダーハッチのペリスコープ位置がハッチの中央。
・機関室上面の吸排気グリルの形が違い、両者のサイズは同じに変更。
・各種工具のサイズ、取り付け位置変更。特にシャクルは中央のロック部分が無い。
・車体後面のボルトの位置変更。
・マフラーの長さが短い。
・後部フェンダーの取り付け方が違う。
・車体後部底面が削ぎ上がっている。
・起動輪中央に張り出し。
・第三転輪～第八転輪のハブキャップがIV号E型～H型中期に使われた物へ変更。
・上部転輪がIV号H型初期まで使われていたゴム製のものに変更。
・最後部ダンパー無し。
・履帯は軽量型だがガイドホーンが穴開き。
・シュルツェン取り付け架形状変更。取り付け位置は左右で違う。

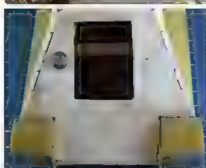
塗装はGSIクレオスの「Mr.カラー 特色セット 黒森峰女学園Ver.」よりゲルプIIのグラデーション塗装。黒森峰の校章は戦闘室の高さを増したため、キットの物ではサイズが合わなくなり、モデルカステンのデカールセットのものを使用しました。





↖前面装甲板と戦闘室後面をプラ板から切り出して角度修正しながら隙間を補うように修正している

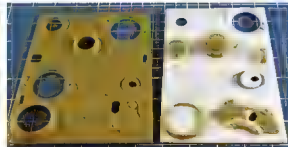




◁機銃用ボールマウントはサイズが小さいので、ウェーブの「ー・チッノ」より作った。操縦手用ペリスコープもサイズが小さいのでプラ板から工作。主砲防盾外周カラーも上下方向に延びているので一度切断してプラ板を挟んで延長している



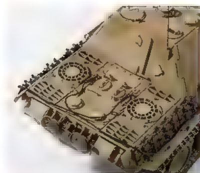
▲車長用ハッチ、装填手用ハッチは2枚のバランスが違っているのと、サイズが小振りなので自作している

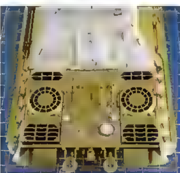


▲天井は寸法が全く違うのでプラ板から新造した。車長用ペリスコープ、ベンチレーター、照準器用カバー、ペリスコープガードなどはキットパーツから流用している



▲戦闘室天面はCG設定に合わせて、各ハッチ取手すりや、ペリスコープに変更された近接防御兵器などを加工





▲戦闘室後面もプラ板による自作。後部ハッチが細長い形状を再現。機関室は前後方向に短く、左右装甲板の厚み分だけ左右グリルのあるエリアの幅が狭い形状を再現している。機関室の円形グリル外周は段差の無いプリン状

↗劇中破壊される右側第4転輪は補修後のイメージで、ひとつだけ明度の高い彩色とした



■ヤークトパンターの製作

駆逐戦車ヤークトパンターは設定CGを見てわかる通り、実車とはプロポーションが大きく違っています。これはいよいよ車体をスクラッチビルドか？　と心配しましたが、調べてみると戦闘室前面と後面の傾斜角度が違って天井が少し高くなるものの、左右傾斜角は実車通り。

なので前面装甲板と戦闘室後面板をプラ板から切り出してキットパーツに当てがい、それぞれクサビ状のパーツを挟んで接着。そして戦闘室を上方へかさ上げする形でわりと簡単に形状修正可能でした。なお、戦闘室が上方向に延びたことに伴い主砲カバー外周も上下方向に少し延びています。

問題は機関室。前後方向で寸法が短くなっているのでキットパーツを切り詰めたりボルトの彫刻をやり直したりと色々と手間がかかります。ルーバーの模様も厳密には違っていますが、ここはキットパーツを活かして工作しました。

以下、相違点を列挙します。

・左右前部フェンダー内側の跳ね上げフラップ部分が無い。
・機銃の球体が小ぶりに。
・天面のハッチやベンチレーターのサイズなど少しずつアレンジがある。
・近接防御兵器がペリスコープに変更。
・後部ハッチが細長い形状。
・薬莢排出口の蓋のサイズが小さい。
・機関室円形グリル外周がプリン状。
・後部大小2個あるディスク（実車では冷却水注入口、燃料注入口）はベンチレーター同様に6個の穴が開いている。
・車体側面ジャッキ台の補強用ベルトは無い。
・予備履帯ラックはコの字フックのみ。
・ワイヤーロープはエンド部分が小型。ワイヤーは撚り線ではなく、のっぺりしたチューブ状。

塗装はGSIクレオスの「黒森峰女学園Ver.」（メーカー生産終了）ゲルプIIを使用。デカールは戦闘室工作に伴いキット付属のものが合わなくなり、モデルカステン製デカールからチョイスしました。右側第4転輪は補修後の明るい色としました。こちらは39番ダークイエロー1にMr.ウェザリングカラーのラストオレンジでフィルター塗装しました。履帯はメタリックグレー塗装後にピグメントを水性アクリル塗料の溶剤で溶き、塗りつけています。仕上げはエナメル塗料のクロームシルバーを軽くドライブラシ。

「左動力系に異常！ すみません！ 操縦不能です！」

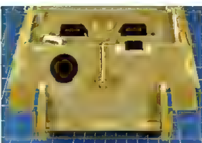




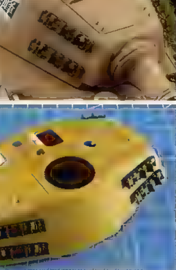
黒森峰女学園の逸見エリカが車長を務めるティーガーIIを、劇中CGに合わせた姿で再現。山頂陣地から撤退する大洗チームを単騎追撃しようとして左転輪が脱落、操縦不能となったティーガーIIを、プラッツのフィギュアと組み合わせてヴィネット化している。HJ本誌2019年5月号掲載。





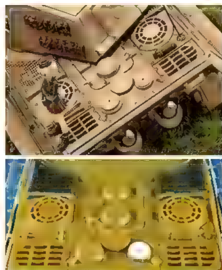


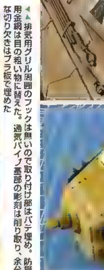
▲▼車体前面。前面装甲板のペリスコープ用の切り欠きは形状が微妙に違うのでパテ盛り＆削り込みで形式を整えた





◀▲砲塔。すべての溶接線はパテ埋め。同時にアンカーの彫刻も削り取る。上面前方のピルツェンは位置を変更。後方の毒ガス検知器用金具はプラ材で工作





◀▲排気用グリル周囲のフックは無いので取り付け部はパテ埋め。防護用金網は目の粗い物に替えた。通気パイプ基部の彫刻は削り取り、余分な切り欠きはプラ板で埋めた





◀▲逸見エリカはプラッツ「黒森峰女学園 西住まほ＆逸見エリカ フィギュアセット」より。足周り整備中のモブ搭乗員は「少しだけお休み中の情景フィギュアセットです」のエリカを小改造して使用

▶▼溶接線埋めにはポリパテを使用。砲塔後部左右上方の段落ち部をナイフ、ヤスリを駆使して再現した。後部ハッチ下端はプラ板で延長している





黒森峰女学園ティーガーIIを作ってみます。今回はプラッツのガールズ＆パンツァーシリーズの製品（ドラゴン製キット）を使用しました。

車体のプロポーションを直したりといった大きな変化は無いものの、細かい部分の変更点がけっこうたくさんあったりします。

・車体、砲塔にある装甲の溶接線が無い。
・車体上面の操縦手、無線手ハッチ周囲のトランスミッション交換用の開口部の分割線が無い。
・機関部後部の燃料注入口の蓋が少し小さい。
・排気用グリル周囲のフックは無い。
・車体後部のジャッキ台のサイズが少し小さい。
・前部フェンダーの小さなリベットが無い。
・側面フェンダーの分割部分が均等に近い間隔。
・防盾右側の同軸機銃用開口部が無い。
・砲塔前面、照準口の雨樋が無い。
・ピルツェンの位置が変更。
・車長キューポラの対空機銃用レールが一回り小さい。
・砲塔上面後部に毒ガス検知器用と言われる金具が2ヵ所付く。
・砲塔後部上面の角に四角い段落ち部分がある。
・砲塔後部ハッチ下端が少し延長されている。

と言ったところが実物との相違点。

ここからは私の判断による、このキット独自の変更点。

・車体、砲塔上面に取り付けられるペリスコープカバーはエッチングパーツは厚みが物足りなくて接着も不安定なのでプラ板で作製。
・装填手ハッチのヒンジ部形状の変更。
・機関部上面の防護用金網の目が粗い。
・車載工具はサイズや形状、取り付けクランプの位置などが違うのですべて追加工作している。
・ジャッキは接地部分がフラットなタイプ。
・ワイヤーロープのワイヤー表面の彫刻は無い。
・履帯交換用ワイヤーロープ取り付けフック、エンド部取り付け具をプラ板から工作した。

■ヴィネット

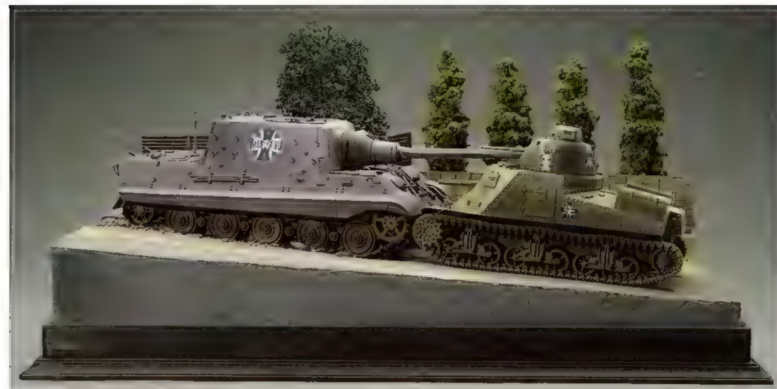
11話の足周りの破損によるシーンをイメージしてプラッツよりリリースされている「黒森峰女学園 西住まほ＆逸見エリカ フィギュアセット」よりエリカ、「少しだけお休み中の情景フィギュアセットです」のエリカのフィギュアを小改造してモブ搭乗員として使用しました。ベースは8㎜厚スチレンボードを積層した物を削って起伏を付け、壁塗り補修材で地面を造形。草は麻縄を解して接着し、緑色に塗装しました。

「あ、離れる」
「そうはさせるか!」
「今度は押されてる〜!」
「一年、舐めんな!!」

PLATZ 1/35 scale plastic kit
JAGDTIGER Ver.team "Kuromorimine Girls' High School" &
TAMIYA 1/35 scale plastic kit
U.S.M3 TANK LEE use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

[illegible]「あ[illegible]は退けない戦いです[illegible]」の市街地戦より、ヤ[illegible]クトティー[illegible]に[illegible]敢に[illegible]かう"ウサギさんチーム"こと「一年生チーム」のM3中戦車[illegible]を[illegible]。
今回[illegible]が市街地[illegible]で、車両の作例はもちろん周りの建造物にも抜[illegible]形、[illegible]劇中の雰囲気を充分に再現するために、構図などにアレン[illegible]、アニ[illegible]を[illegible]化したディオラマ作品に仕上がった。HJ本誌2014年7月号掲載。

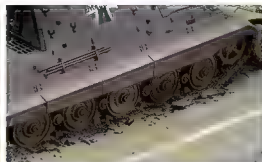
プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
[illegible]
[illegible]学園[illegible]
[illegible]ル プラスチックキット
[illegible]
[illegible] 山田卓司





▼ディオラマの全景。市街地の狭い路地が舞台なので、アスファルトの道路や塀や草木もあしらわれた。また、ヤークトティーガーが前進、M3中戦車リーが後退しているという構図を際立たせるためあえて坂にし、またヤークトティーガーの下のアスファルトを割ることで車輌の強さを際立たせた





▲履帯は動きがつけやすいモデルカステン製の可動履帯に変更



◁本体はP.13掲載の作例の塗り替えだが、ライトガードを作り変え、レンズもウェーブの「H・アイズ」を加えている







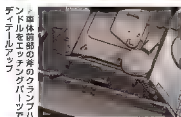
▷クリーニングロッドはプラ棒に交換し、設定画に合わせて不揃いにしている



▷対空機銃架に若干のディテールの違いがあったので追加した



▷設定に合わせてサイドフェンダー最前部にスジ彫りを追加



▷車体前部の斧のクランプハンドルをエッチングパーツでディテールアップ





◀木はオランダドライフラワーを芯に製作。左はディオラマ用のスポンジ、右はパセリを使用した



▼塀はプラスチック材の組み合わせ。草は劇中の雰囲気に合わせて荒れた感じにしている



◁▲割れたアスファルトは壁塗り補修材を薄く拡げ、硬化前にメッシュを中に仕込み、硬化後に脆部分を押さえ実際に亀裂させて表現した

最終回の中の一年生たちのうさぎさんチーム大活躍のシーンです。聖グロリアーナ女学院との練習試合において、砲撃戦の怖さから敵前逃亡してしまったうさぎさんチームですが、その後見事に成長して決勝戦ではエレファント、ヤークトティーガーと2輌もの重駆逐戦車を仕止める大活躍。ここはガルパン屈指の名シーンと言え、何回観ても泣けてきます。

どちらの重駆逐戦車にするかは散々迷ったのですが、プラッツからリリースされているヤークトティーガーを対戦相手として選択しました。

プラッツのキットではカルトグラフ製のハイクオリティのデカールが付属している点が嬉しいポイント。本体もドラゴン製の名キットが使われておりますので、精密で作り易く万人にオススメ出来る内容となっております。主な改造箇所は写真とキャプションを参照してください。私がこれまで作ってきたガルパン版戦車の中では最も追加工作が少ない作品となりました。

さて、主役（笑）のうさぎさんチームのM3中戦車リーですがピンク色の塗装の作品をお色直ししています。こちらはライトガードを新たに作り替え、ライトレンズもウェーブの「H・アイズ」で加えました。

塗装は二輌共にカラーモジュレーション塗装です。欧米モデラーのそれと比べると私の塗装はややマイルドに感じたので、今回は一番明るい部分を強調して仕上げています。

さて、アニメなど動く映像で表現されていることを、画面そのまま形にしてもディオラマでは表現し難いことも多く、今回の場面では両者が対峙する路地は平坦なのですが、ヤークトが前進、M3が後退している所を立体で表現するために、あえて坂道としました。

また、これも本編では無かったのですが、超重量級のヤークトティーガーの表現としてアスファルトが割れて捲れ上がっているディテールを加えました。

背景の民家の塀はプラスチック材を組み合わせて作っています。劇中のムードが出るよう、実物の塀を観察してよりリアリティの高いものにしました。庭の植え込みは基本形をオランダドライフラワーを使って作り、一軒をパセリで、もう一方をディオラマ用材料のスポンジを使った葉を付け、変化をつけました。草はスタティックグラスで、雑草の生えたやや荒れたムードにしています。



あとには退けない戦いです!

PLATZ 1/35 scale plastic kit Panzerkampfwagen IV Ausf. D (H modified)
Ver. team "ANKOU" & Panzerkampfwagen VI Tiger Ausf.E
Ver. "Kuromorimine Girls' High School" use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

プラッツ 1/35スケール プラスチックキット ガールズ&パンツァー
IV号戦車D型改(H型仕様)-あんこうチームver.- &
ティーガーI -黒森峰女学園ver.- 使用
ディオラマ製作・文／**山田卓司**

TVシリーズをご覧になった方で知らない人はいない、大洗女子学園のあんこうチームのIV号戦車H型と黒森峰女学園のティーガーIによる、いわゆる"ラストシューティング"シーンを製作。あんこうチームのIV号戦車は以前の作品（本書P.30掲載）を流用したが、ティーガーIは完全新規で完成させている。 HJ本誌2016年10月号掲載。

▲「第63回戦車道全国高校生大会」決勝戦の決着がついたシーンを切り取った特別感のあるディオラマ。右下にはロゴと優勝旗があしらわれている

▲搭乗フィギュアはプラッツのレジンキットを使用

▲◁作例に用いたIV号戦車H型は本書P30より掲載の山田氏初の「ガルパン」作例。シュルツェンや足周りを廃すなど、惜しげもなくダメージ表現が施されている

▲ベースはスチレンボードがベース。ヒビ割れは電熱ノコによる加工

▲マフラーガードは裏側から削り込んで薄くしたあとにダメージ加工を施すことでリアルな表現になる

▲ブラック→ブラウン→ホワイトの順に塗っていき、明暗差をつけた下地を作ってから本塗り。その後ウェザリングを施し仕上げている

テレビ版第12話、第63回戦車道全国高校生大会の決勝戦であんこうチームのIV号戦車が黒森峰のティーガーIに勝利した場面です。IV号は以前作った作例を使用して、ティーガーを完全新作として作り起こしました。

プラッツよりリリースされている公式キットはシリーズ初期の製品化のためか説明書に不備が多く、不要パーツの中に使うべきものが含まれていますので注意が必要です。元になったキットは細かく再現された解像度の高いものなので少しもったいないのですが、設定CGを見ながら修正していきます。

・各部の溶接線など細かいディテールを削ったりパテ埋めして消していきます。注意点は車体天板と前面装甲板の溶接線は幅が半分になっていること。これによりノイトの位置が少し前に移動可能になります。
・発煙弾発射器はグレードアップパーツより。
・砲塔左右の監視口（マイナスネジ状のパーツ）は左右同じ位置に変更。
※作例は車体ナンバーを入れる時になってから気付いたため、再現出来ていません（泣）。
・車体後部のエアフィルターはキットパーツの上部を円筒が2つ並んだ形に改造。
・エアフィルターから車体に伸びるパイプは表面モールドを削る。
・車体後面では工具箱がラックのみでそのサイズも小さくなっていることと、中央の菱形のパーツのディテールが違う。
・C型シャクルは別のキットより流用。テレビ版ではマフラーガードに喰い込む位置。
・マフラー基部の装甲ガードは除去されているので取り付けダボ穴は埋める。
・履帯は左右対称のいわゆるミラー履帯（極初期型キットより流用）。
・車載工具はワイヤーロープ含めてすべて除去。ラックのみだが、ラック自体に基礎が付いていることと、その位置も微妙に移動している。

劇場版では車体側面と後面との装甲板の継ぎ目が側面に変更されていること。シャクルが1個のみになっていることが注意点です。

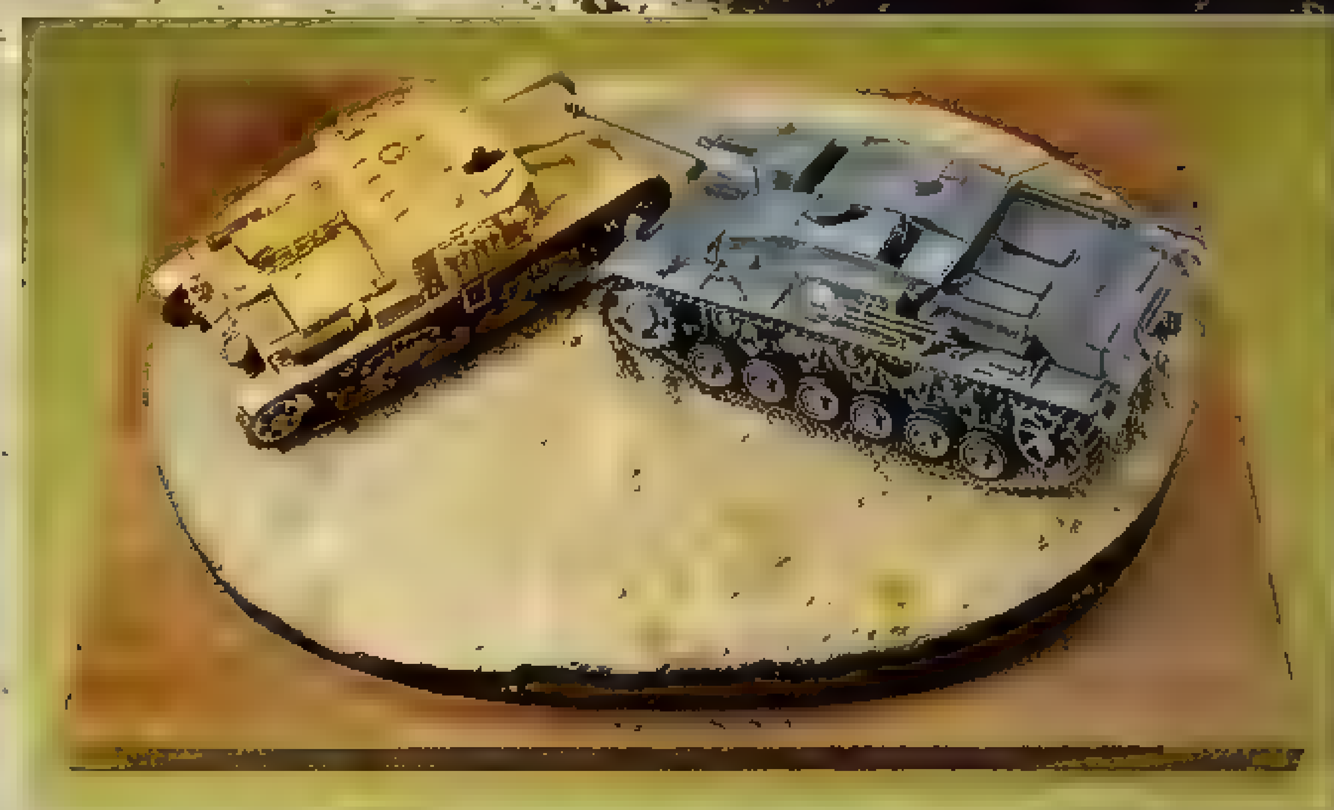
今回はラストの撃破された状態なので、各部にさらにダメージ表現を加えています。マフラーガードなど実物で薄い部分は裏側から削って薄く加工してから破損させたりしています。あわせてIV号の方もシュルツェンを除去したりしてダメージを加えました。

これが本当のアンツィオ戦です！

PLATZ 1/35 scale plastic kit
[illegible]tz III Ausf.F Ver.team "KABASAN" &
TAMIYA 1/35 scale plastic kit
[illegible]OPELLED GUN SEMOVENTE M40 use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

OVA「これが本当のアンツィオ戦です！」より、カバさんチームのIII号突撃砲F型VSアンツィオ高校のM40セモベンテの対決シーンをチョイス。カバさんチームのカエサルとセモベンテに乗る[illegible]チョが旧知の仲で、まさかの幼馴染対決が実現した印象的なシーンだ。
[illegible]キットが[illegible]自分なりの[illegible]2016年[illegible]

プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー劇場版 III号突撃砲F型 カバさんチーム &
タミヤ 1/35スケール プラスチックキット
イタリア自走砲 M40 セモベンテ 使用
ディオラマ製作・文 山田卓司









OVA『これが本当のアンツィオ戦です!』より、カエサルとカルパッチョの幼なじみ対決となったIII号突撃砲F型対M40セモベンテの闘いの場面です。

III号突撃砲F型はプラッツの公式キットより。プラッツのキットは成型色がアニメ画同様に変更された上に履帯がヴィンターケッテも同梱されたリニューアル版を使用しています。

相違点としては機関室上面の通気口ハッチの部分と砲身が長くなっていることとくらいで、あとは重箱の隅をつつくような細かい部分のみです。基本的には溶接跡を埋めたりフェンダーの滑り止め模様を削り取ることくらいなのですが、ベンチレーター天面にスジ彫りを追加するのは少し面倒かも知れません。

M40セモベンテはタミヤのキットが入手しやすく、2008年にリニューアルしていますのでオススメです。ただし、リニューアル時に機関室のグリルの向きが変更となっており、ガルパン版として作る場合は旧版の車体上部パーツを使った方が工作は楽なので、作例ではこちらを流用しています。

アンツィオ校車輌は監修者のこだわりで実車のディテールが大きく取り入れられており、ガルパン版への工作がそのまま実車へのディテールアップになるところが面白いところです。

機関室のハッチの止め金の所は成型上の切り欠きがありますので、ここはプラ板を嵌め込み埋めます。以下、設定CGとの相違点。

・車体前部、牽引用のフック、ループの基部にリベット。フックは少し捻れている。
・車体前部の点検ハッチ前端がパネルラインより少し上になっている。
・フェンダー左右内側に楕円形の穴がある。
・戦闘室四隅にフェンダーの補強材。
・戦闘室天面のリベットが一部省略。
・ペリスコープは小型化。
・照準器追加。ならびにハッチを開ける。
・機関室点検ハッチは縁が付く。
・左右の備品箱の蓋が大型化。
・車体後部中央部にディテール追加。
・各部のリベットの位置が変更、増設。

戦闘室左右に付く予備ジェリカンはアスカの製品を使用。ラックはプラ板から作りました。ライトは凹部にメタルテープを貼り、ウェーブの「H・アイズ」を使って透明化。





▲塗装はIII突、セモベンテ共にカラーモジュレーション塗装。III突はキット付属のデカール、セモベンテはモデルカステン製デカールを使用した

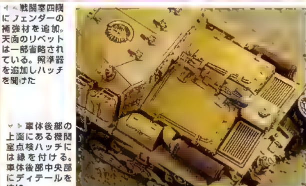






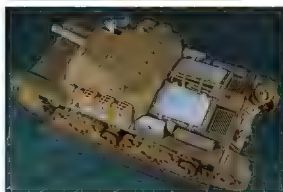


▲◁車体前部。牽引用のフック、ループの基部にリベットを追加。フックは少し捻れたようにしている。点検ハッチ前端はパネルラインより少し上になるように変更されている



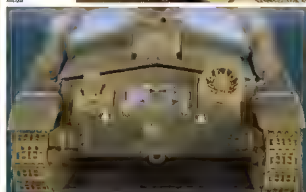
◁▲戦闘室四隅にフェンダーの補強材を追加。天面のリベットは一部省略されている。照準器を追加しハッチを開けた

▼▷車体後部の上面にある機関室点検ハッチには縁を付ける。車体後部中央部にディテールを追加



▲各部のリベットの位置を変更、増設している





▲戦闘室左右に付く予備ジェリカンはアスカの製品を使用した。ラックはプラ板から新造



ガールズ&パンツァー

GIRLS und PANZER der FILM

劇場版



学校の存続を懸けた第63回戦車道全国高校生大会を優勝で終え、

平穏な日常が戻ってきた大洗女子学園。

ある日、大洗町でエキシビションマッチが開催されることに。

大洗女子学園と知波単学園の混成チームと対戦するのは、

聖グロリアーナ女学院とプラウダ高校の混成チーム。

今やすっかり大洗町の人気者となった大洗女子学園戦車道チームに

町民から熱い声援が送られた。

戦いを通じて友情が芽生えた選手たち。

試合が終われば一緒に温泉に浸かり、お喋りに華が咲く。

そんな時、生徒会長の角谷杏が「急用」で学園艦に呼び戻される。

いぶかしがる大洗女子のメンバーたち。果たして「急用」とは…?

大洗女子学園、決断の時——

新たな試合(たたかい)が始まる!

2015年11月に『ガールズ&パンツァー 劇場版』(以下『劇場版』)が全国公開された。テレビシリーズ以上に精緻に描き込まれた車輌CGを前に山田卓司が黙って見ているはずはなく、早くも2016年1月号(2015年11月売り)では、『劇場版』公開前にも関わらず『劇場版』テーマの情景作例を発表。以後14点に上る『劇場版』モチーフの作例を製作している。ここからはそれら作例群を『劇場版』の時間軸で並び替えて掲載。公開時は劇場に何度も足を運び、2016年5月のBlu-ray発売後はBlu-rayを何度も繰り返し視聴することで、登場車両はすべて『劇場版』の新設定に合わせて精密に作り込んでいる。



ファインモールド 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー 聖グロリアーナ女学院
チャーチル歩兵戦車 Mk.VII &
タミヤ 1/35スケール プラスチックキット
イギリス歩兵戦車 マチルダ Mk.III/IV 使用
山田卓司

Fine Molds 1/35 scale plastic kit
Churchill Mk.VII Infantry tank "St.Gloriana Girls' College" &
TAMIYA 1/35 scale plastic kit
Matilda Mk.III/IV British Infantry Tank Mk.II A use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

「落ち着きなさい。いかなるときにも優雅…それが聖グロリアーナの戦車道よ」



『劇場版』より、大洗女子学園と知波単学園のチームVS聖グロリアーナ女学院&プラウダ高校のチームによるエキシビションマッチのワンシーンを情景化。大洗&知波単チームはダージリンの乗るフラッグ車をゴルフ場に追い込み包囲したように見えるのだが……。ディオラマではファインモールドの『ガルパン』パッケージのチャーチル（ブパーツはタミヤ製）とタミヤのマチルダを使用。チャーチルを守ろうと周りを囲むマ







▲フラッグ車であり、リーダーのダージリンが車長を務めるチャーチルはOVMを取り外して市販の金属製パーツを使用したアンテナポストを取り付けた以外は大きな改造は行っていない





▲さながら女王を守る騎士のごとくチャーチルを囲むマチルダ。こちらはタミヤのキットをストレートに3輌製作している



▲ゴルフ場なので、当然そこを走行すれば芝がえぐれることになる。轍は芝を抉って土が露出しているところと、バンカーの砂の崩れ具合を絶妙に表現している

■チャーチルとマチルダ

チャーチル&マチルダと合計4輌もの戦車を作るとなると普通に考えると大変な作業量ですが、そこはタミヤのキットならではで気持ち良くサクサク作ることができました。そもそもチャーチルは同社ミリタリーミニチュアシリーズNo.100（「チャーチルクロコダイル」としてリリース）、マチルダはNo.300とそれぞれメモリアルキットとしてリリースされた入魂の内容です。両者は開発年代に開きがあってコンセプトは若干違いますが、どちらも精密で作りやすい"作ることのエンターテイメント"とも言える内容で、いつまでも世界中の人々に愛される名作キットであると思います。

■劇中ディテールの再現について

劇場版で新しく作画された設定は、より実物に則した内容になっているようにも見えます。スケールモデルの世界では実物のディテールの再現度が重視され、古いキットが見向きもされなくなる傾向があります。しかし、プラモデルの楽しさはそうした精密さを求めることだけではないと思うのです。

せっかく『ガルパン』という戦車を気軽に楽しめるコンテンツが登場したのですから、プラモデル本来の楽しさをもっと重視すべきなのでは？ と考えます。

■製作

チャーチルはショベルなどの装備品を外し、アンテナポストを市販の金属製パーツに替えました。

マチルダはアンテナポストをプラ板の積層から削り出しで作りました。マチルダのキットにはバリエーション用のパーツなのか余剰部品として砲身がさらに2本、キットに含まれていますので、設定と同じタイプの砲身を3輌の内2輌に使用しました。

聖グロリアーナ女学院のエンブレムはモデルカステンのデカールセットより使用。車体ナンバーは不明なのでここはペンディングとしました。

Type 97 "CHI-HA"

Fine Molds 1/35 scale plastic kit
Imperial Japanese Army Main Battle tank Type 97 "CHI-HA" IMPROVED HULL
with 57mm CANON ver. "Chi-Ha-Tan Academy"
modeled&described by Takuji YAMADA

ファインモールド 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー 劇場版 知波単学園
九七式中戦車[チハ]57mm砲搭載 新車台
製作・文 山田卓司



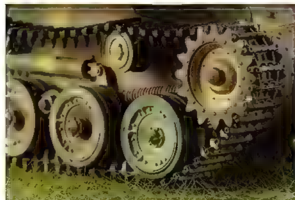
『最終章』第2話後半でも大活躍を見せる知波単学園。その隊長・西絹代が搭乗する「九七式中戦車[チハ]57mm砲搭載・新車台」をファインモールドのキットを用いて「劇場版」仕様で製作。ハッチの西絹代はモデルカステンのレジンキットを使用している。HJ本誌2016年1月号掲載。





▼新規パーツ、新規エッチングパーツで劇中車輌が再現できるキットとなっているため、作例では塗装に注力。飾りとしてディオラマベースを設けた

◀ベースはスタイロフォームの上に壁塗り補修材をコートし、ディオラマ用の草を蒔いたもの



▲履帯のたるみも自然。山田氏のウェザリングと相まってリアルテイストな仕上がり



▲塗装は三色迷彩のカラーモジュレーション。下地に白と黒の明暗を作りその上から迷彩色を塗っていった



▲特徴である砲塔"ハチマキ"の部分はリード線でディテールアップ



▲フィギュアはモデルカステン製レジンキットを使用

『劇場版』冒頭で大洗女子学園とタッグを組む知波単学園のチハ車と隊長の西絹代を製作してみました。

ファインモールドの「知波単学園 九七式中戦車[チハ]57㎜砲搭載・新車台」は同社の旧製品に部分連結式履帯と専用エッチングパーツ、専用デカールを追加したもので、劇中の車輌が手軽に再現できます。新しい資料に基づいているだけに細部まで考証された良いキットです。

■迷彩塗装

ところで、アニメーションで戦車を動かすのはCGが使われるようになった現在でも大変なのだそうで、迷彩塗装はテータが重くなるとのことでテレビ版ではマウス以外すべて単色塗装らしいのです。

しかし劇場版では同校の車輌は三色+黄帯入りの迷彩塗装。更に迷彩パターンをそれぞれ微妙に変えてあるそうで、この劇場版に関わるスタッフさんたちの執念と拘りも劇場版の見所のひとつとなっています。

そんな旧日本軍戦車の迷彩塗装は模型においても難易度の高いものです。今回は設定画の通りに黄帯付きの迷彩を塗り分けた上にカラーモジュレーション塗装で…となるとぐっと難易度が高くなるのですが、そこが今回のチャレンジポイントなのです。

サーフェイサーをスプレーした後に白色と黒色で明暗をつけたグラデーション塗装。その上からそれぞれの迷彩色を溶剤で薄めて下地のグラデーションが透けるように塗装していき、迷彩色の縁を筆塗りで仕上げていきました。ただ、この手法は無理があって必ずしも成功とは言えず、セオリー通りにベタ塗りした後に明暗の調子を付けていった方が良いようです(汗)。

西絹代のフィギュアはモデルカステンから以前リリースされていたレジンキットです。公開前に設定資料を参考にしたものの、物語の中での役柄が分からないキャラクターというのも難儀しました。

■ベース

本来は単品として仕上げる予定でしたけど、簡単なベースを作って乗せてみました。こちらはスタイロフォームの上に壁塗り補修材をコートし、ボンドを塗った上にティオラマ用の草を蒔いたものです。劇中ではゴルフ場ですが、単調な草地はティオノマとしての面白みに欠けるのでちょっと荒らしています。

「このまま進むに決まってるじゃない！
ミホーシャが出来ることは
カチューシャにだって
出来るんだから!!」

PLATZ 1/35 scale plastic kit
T-34/85 ver. "Pravda Girls' High School" use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
T-34/85 プラウダ高校 使用
ディオラマ製作・文／**山田卓司**



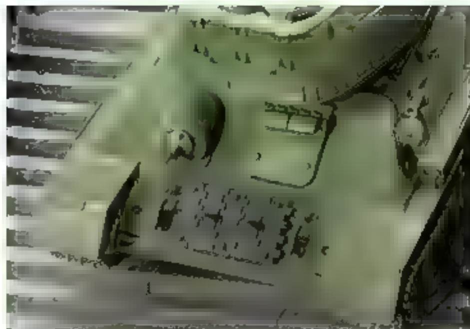
『ガールズ＆パンツァー 劇場版』より物語前半のエキシビションにおいて、大洗女子学園あんこうチームのIV号戦車H型を追う、プラウダ高校のT-34/85が大洗磯前神社の石段を駆け降りるシーンを情景化。石段はスタイロフォームとプラ板より製作し、T-34/85はプラッツの『ガルパン劇場版』仕様キット（中身はドラゴン製）をベースに、各部を劇中仕様に合わせて改修している。HJ本誌2018年10月号掲載。







▲カチューシャはプラッツのレジンキット「1/35 プラウダ高校フィギュアセット [redacted]原の戦いです！」を使用



▲車体前端はガルパン版ではT-34/76と同様の丸い形状なので、裏側に瞬間接着剤を流し込んで裏打ちした後、表側を削って修正



▲サスペンションアームは真鍮線の軸を打ち、車体に差し込んで裏側で折り曲げて止めて可動式にして石段に合わせた動きを再現





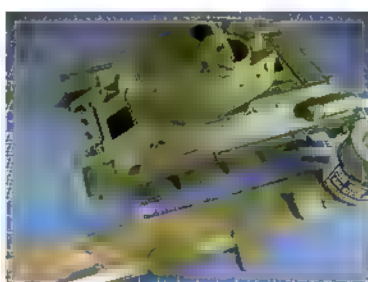
▲▼▼砲塔は側面の小さな突起を削った後、溶接ラインやリブはプラ棒で修正。ペリスコープ基部は向きが違うので、プラ板で修正。防盾部も砲基部をプラ板で延長した







◀予備燃料タンクは固定ベルトの取り付け位置が違ったので修正した。機関室上面のルーバーは模様が違っていたのでキットの彫刻を削り取り、プラ板で新造



◀車体はホワイトとブラックのサーフェイサーでグラデーション塗装した後に車体色を薄く塗装するいつものスタイル









▲大洗磯前神社の石段は5mm厚スチレンボードで階段を8mm厚スチレンボードの側壁で挟んで作った。5mm厚で手すり([redacted]干)を切り出して接着。左右の傾斜部分は発泡スチロールで作り、百均のソフト粘土で地表を造形した

■T-34/85の製作

プラッツの公式キット「T-34/85」は劇中の姿同様になるように、上手く適合パーツがアソートされていますからそのまま組み上げれば良いのですが、そこは「ガルパン原理主義」のコダワリで細かな部分に手を入れています。今回の変更点は本当に微細な部分ばかりで、全くオススメできません。

- 車体前端（B6）は／76同様のラウンドしている形状。
- そこに付くプレート（F6）は穴が2つ。
- 車体前面の牽引具の止め金（不要パーツ扱いのF8）の車体との取り付け部分にはプレートが付く。
- 機関室上面のルーバー（H3～H6）の模様が違う。
- 予備燃料タンク取り付け具（L5、L6）が板状。ベルトに三角形の金具が付く。
- 予備燃料タンク右側前（説明書の記号H）の位置が少し前方に移動。
- 備品箱（B17）上面にリブ追加。
- 車体及び砲塔の歩兵用手摺（E1）の寸法が若干小型化。
- 砲塔の溶接線が変化。
- 防盾（G3）の砲身基部が延長。
- 吊り下げフック（E3）の取り付け位置変更。
- ペリスコープ（B1、B2）の座金の向きの変更。

ディオラマで階段を降りる設定のため、サスペンションは可動化。履帯もモデルカステン製の組み立て可動式の物に替えました。

塗装は車体にGSIクレオスの56番、明灰緑色。足周りに302番、グリーンFS34092を使いました。

■ベースの製作

さて、舞台となった大洗磯前神社ですが、以前現地取材をさせていただいておりますので、その時の印象と画像を資料としています。

現実には石段中央に金属製の手すりが有るのですが、劇中ではこれは無いものとしてあんこうチームのIV号戦車に続いてT-34/85、JS-2が駆け降ります。

階段は5㎜厚のスチレンボードを積み重ねて製作。両側は崖を発泡スチロールを下地に百均で購入した粘土で地表を造形し、ディオラマ用の草を生やした後にドライフラワーにパセリを接着して作った樹木を植えました。パセリは経年変化で色変わりしますので、必ず塗装して仕上げます。

「II号戦車が大好きです」

アスカモデル 1/24スケール プラスチックキット
ドイツII号戦車F型 北アフリカ戦線 使用
製作・文 山岡卓司

『劇場版』に登場した西住家所有のII号戦車の作例を紹介しよう。迫力の砲撃戦はもちろんだが、日常シーンにおける戦車の描かれ方も魅力的な本作。特にII号戦車登場シーンは戦車と特にギャップのあるエピソードで、作品をご覧なった方の中にも印象に残っている人は多いのではないだろうか。

サイズの小さい車輌のため、1/35ではなくアスカモデル製1/24スケールのものを使用。回想シーンに登場した小物をあしらい、西住姉妹思い出のII号戦車を完成させた。HJ本誌2016年2月号掲載。





▲本体のII号戦車は、主人公・西住みほの回想シーンに登場した姿をイメージして製作。単調にならないように明暗をつけたグレートーンで下塗りをしてから薄めに希釈したメインカラーを塗布している。土台部分は西住姉妹が釣りをしにいった場所から畦道をイメージしたものにしあげた。サイズの小さい戦車であるが、1/24スケールにしたことで見映えのあるボリュームとなっている





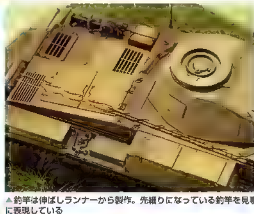




▶▲劇中の小サイズの消火器は1/35のものを使ってフォロー。その他小物の金属部分は鉛筆をこすり付けることで質感を高めている

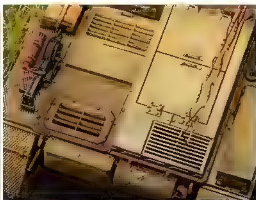


▲砲身にひっかけられたバケツは0.2mm厚のプラペーパーから製作。ブリキ製のイメージで仕上げられた



▲釣竿は伸ばしランナーから製作。先細りになっている釣竿を見事に表現している





▲劇中のグリルに合わせるために帯板を一枚ずつ新規で製作



▲畦道を走行してきたシチュエーションに合わせて足周りの汚しは強め





◀車体前面の予備履帯のラック部分をディテールアップ

西住みほ、まほ姉妹の幼い日々の思い出の戦車、II号戦車F型です。今回はあえてアスカの1／24スケールII号戦車F型のキットをチョイスしました。大スケールならではの細部ディテールの再現性やボリューム感が魅力的です。

『劇場版』ではスクリーンに相応しい細密な情報量で描き込まれていて、実車ディテールがほぼそのまま再現されていますが、それでもいくつかの点でアレンジされた部分があります。

・エンジンデッキのグリルの模様が違う。
・コマンダーズハッチのキューポラ外周部の4ヵ所にあるパイプが無い。
・ハッチ、キューポラに用途不明の金具が付く。
・前部オーバーフェンダーの取り付け具形状が異なる。
・オーバーフェンダーが長い。
・ショベル下の斧は未装備で、そのクランプがショベルの柄と同じ軸線上にそろっている。
・消火器のタイプが違い、小振りになっている。
・クランクが直角に曲がっている。
・車体前部のワイヤーロープは未装備。
・戦闘室前部のバイザーは上側が脱落している。
・車体後部牽引具の脱落防止用のチェーンが紐状の物に省略されている。

…といった相違点があります。これらの内でエンジンデッキのグリルや戦闘室前部のバイザー、消火器など、目立つポイントは手を加えましたが小さな差違についてはオミットしました。

グリルについてはプラスチックの帯板を組み合わせて製作。消火器はタミヤ1／35「ドイツIV号戦車車外装備品セット」に交換しました。

塗装はダークイエロー単色なので、明暗をつけたグレートーンで下塗りを施した上から薄めた塗料で仕上げるブラック&ホワイト技法で仕上げました。装備品のうち、鉄の地肌で仕上げる場所はツヤ消し黒で塗装し、鉛筆で擦って鉄の質感を出しました。

ディオラマとしては畦道をイメージして壁塗り補修材で道路を作り、麻紐をほぐして雑草を作りました。劇中キャプチャー画像を見ると道路と田畑との段差は無いように見えますけど、今回はイメージを優先させました。劇中で印象的なバケツと、あまり目立たないのですが釣竿が車体右側に載せられています。バケツはブリキ製の古い物をイメージして0．2㎜厚のプラペーパーから自作。釣竿はランナーを熱で伸ばし2本をそろえました。



「左右履帯破損、砲塔故障、エンジン不調…」

TAMIYA 1/35 scale plastic kit
ISRAELI TANK M1 SUPER SHERMAN use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

タミヤ 1/35スケール プラスチックキット
イスラエル軍戦車 M1スーパーシャーマン 使用
ディオラマ製作・文／**山田卓司**

『劇場版』後半の対大学選抜チーム戦から、序盤に繰り広げられた大学選抜チームによる奇襲によって滅多撃ちにされてしまっているM4A1アリサ車をチョイスした。タミヤ製1/35スーパーシャーマンから設定CGを参考に出来る限りアリサ車に近づけつつ、ダメージ表現も網羅。劇中での臨場感も表現した作品に仕上げている。HJ本誌2016年8月号掲載。





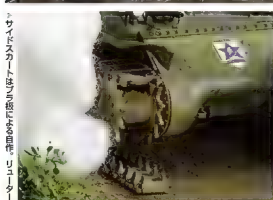






◁▽砲塔のキューポラをM4A3のものに変更。スポットライトや刻印はなくし、機銃銃身ラックを増設した





▷サイドスカートはプラ板による自作。リューターなどでダメージ表現を追加している



△車体後部に予備履帯を追加している



△サスペンションはアスカモデル製シャーマン初期型サスペンションセットに差し替え

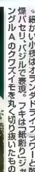




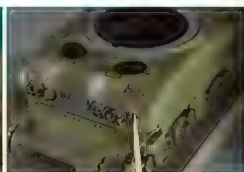




◁細かい小枝はオランダドライフラワーと乾燥パセリ、バジルで表現。フキは「紙創り」ジャングルAのクワズイモを丸く切り抜いたもの







◁車体塗装の剥がれはヘアスプレーを用いている

対大学選抜チーム戦序盤のケイ率いる「あさがおチーム」のM4A1、アリサ車です。M4A1はイタレリのキットを作画の参考にしたと言われており、これを使うのがベストなのですが、入手出来ずタミヤの「M1スーパーシャーマン」より改造して製作しました。

このキットからのアリサ車への変更は、

・装填主用ハッチを変更してM4A3のキットのキューポラを移植。
・砲塔上面のスポットライト、鋳造時の刻印を除去。
・砲身のマズルブレーキ撤去。
・サイドスカートを自作。
・サスペンションはアスカ（旧タスカ）の「シャーマン初期型サスペンションセット」を使用。
・履帯の形式を変更。
・ペリスコープが露出。

ですが、『劇場版』ではさらに以下の変更点。

・車体後部に予備履帯が増設。
・砲塔後部右側のみ機銃銃身ラック増設。
・ペリスコープガード増設
・装填手キューポラハッチの開き方が90度変更。
・アンテナポストのディテール変更。
・トラベリングラック形状変更。

『劇場版』ではティオラマとした場面でサイドスカート最前部（左右共）が破損して、以降は劇中では破損したままとなっております。シャーマンのプラモデルでは鬼門とも言えるノイトホーンガードはエッチングパーツをテンプレートとして0.3㎜厚プラ板を切り抜き、自作しています。予備履帯はモデルカステン製履帯パーツを流用してラックをプラ板より作りました。

ダメージ表現はヘアスプレーを使っています。先にマホガニーなどダメージ表現で露出させたいカラーで塗装した後にヘアスプレーを塗布。その上から本塗装した後にアルコールを塗って中のヘアスプレーを溶かしてから表面を竹串などでダメージ部分の塗膜を剥がしていきました。デカールはモデルカステン製品より。

林の木々は白樺を想定しました。白樺は手芸用の紙巻きの針金をよってからエポパテで表面を覆い樹皮を表現。細かい枝はオランダドライフラワーを使いました。葉は乾燥パセリとバジルを木工用ボンドで接着します。下草は劇中フキが生えていたので、和巧の「紙創り」のジャングルAよりクワズイモを丸く切り抜いて表現しました。

「——了解。引き続き、偵察よろしく」

「劇場版」より、先に単品として完成させたシャーマン戦車2輌を使用して、「あさがお中隊」（サンダース校）の雨中行軍ディオラマを製作した。一瞬を切り取る1/35ディオラマでは鬼門と言える雨の表現について、新たな表現方法で再現している。その他、木や草、雨に濡れたグラウンドワークも注目の作品となっている。なおシャーマン2輌はHJ本誌2017年12月号にて単品作例として掲載された。（HJ本誌2018年1月号掲載）

ファインモールド 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー サンダース大学付属高校
M4シャーマン75mm砲搭載型 &
アスカモデル 1/35スケール プラスチックキット
シャーマン VC ファイアフライ 使用
ディオラマ製作・文 **山田卓司**



△地面全体に粘土を盛ったら、下塗りとしてアクリル塗料で色付けしておく

△表面に軽量ホワイト粘土を盛る。前を行く知波単チームの履帯を押し付けて跡をつける

△道となる部分が平坦なので、ヤスリを使って荒らす。轍となる部分を重点的に

△林の中の地形をスタイロフォームから切り出し。ボンドで接着する

△垂直面の水滴もジェルメディウムを利用した工具で線状の流れを描く

△轍部分の水溜まりはタミヤの透明エポキシ樹脂を流して作る

△水平面の水滴を再現。虫ピンから自作した専用工具でジェルメディウムを付けていく

△情景テクスチャーペイント 土 ダークアースを表面に塗り付け、湿った地面とする

△樹木の幹はプラパイプを熱して延ばしたもの。ヒートペンで樹皮の模様を付けた

△雑草は麻縄や麻ロープを適当な長さにカットしてほぐし、基部を木工用ボンドで固めた

△林の中の樹木はプラパイプの幹、ドライフラワーの枝、乾燥パセリの葉で構成する

△降りしきる雨の素材として、タミヤのソフトプラ材を熱して延ばしたものを大量生産

△雑草類にも同様に乾燥パセリを接着し、濃緑色(中島系)をスプレーして着色

△樹木の枝にスプレー式接着剤で乾燥パセリを接着。塗装は濃緑色(中島系)を吹いた

△麻縄や麻ロープの雑草はタミヤアクリル塗料のフラットグリーンでラフに塗装

△地面近くの低い雑草はドライフラワーを接着している

△伸ばした透明ソフトプラ材を地面に接着して降雨を表現。長さは不均等にする

△ジェルメディウムをポリプロピレンのシートに広げて乾燥させたものを足周りに接着

△雑草に灌木の枝からとった短い葉を植えていき、さらに自然な雰囲気を加える

△水溜まりの円形の波紋は、パイプの先端部につけたジェルメディウムを押し付ける

雨中行軍する「あさがお中隊」を作りました。

劇中では知波単学園とサンダース付属、うさぎさんチームの日米(英)戦車が揃って縦列行軍するなんて、現実の戦場ディオラマではあり得ない面白い光景なのですが、今回はM4シャーマンとファイアフライで表現してみます。

場面としては林の中とくに変わった風景ではありませんが、ディオラマとして表現するのが難しい「雨」が最大の難関です。

雨は地面に降り注ぎますが、背景に濃い色の物が無いと視認し難いです。余談ですが黒澤明監督の『羅生門』では画面に大量の雨がしっかり映るように、降らせる雨に墨を混ぜて撮影したとのことです。

工事現場に停めてあった建機やトラックなど、戦車に比較的近い塗装面を観察してみますと、雨が水滴となって付着しています。水に濡れた表現はクリアー塗料を塗ることも考えていましたが、雨粒で表現するのも面白そうです。縮尺に従うと雨粒は非常に小さなものになりますが、ここでは「水滴が付着してる情報」を最優先することにして、少し大きめ。また、現実には切り立った場所にも水滴が付着しますが、ここは「記号」として水平面は水滴。垂直面は線状に流れた表現としました。

雨粒は立体感のある透明な素材を使えば良さそうで、塗料だと乾燥後に肉痩せしますので、UV硬化樹脂やエポキシ樹脂の使用を考えました。しかし、これらの樹脂は経年変化で黄変する可能性も考えられます。そこで画材であるアクリル絵の具のメディウム材の「ジェルメディウム」を使うことにしました。

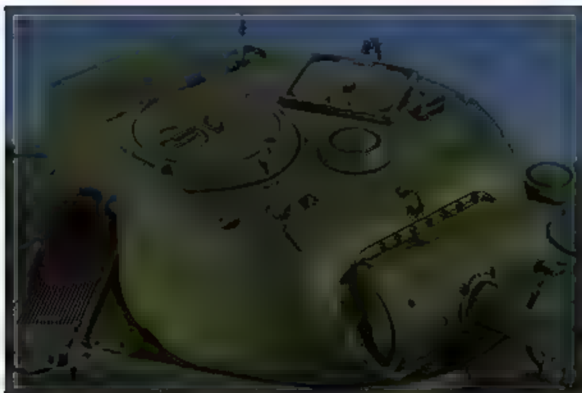
虫ピンの頭を切り落とした物を平行に角材に刺して専用工具を作りました。2本のほうが水滴用、1本のほうを線状の流れ用で、これを使ってジェルメディウムを付けて行きました。

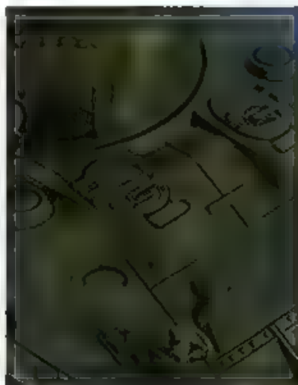
地面にはタミヤの透明エポキシ樹脂を流し、水溜まりを作ってから、パイプの先端部にジェルメディウムを付けたものを押し付けて円形の波紋を再現。

同じくジェルメディウムをポリプロピレンのシートに広げて乾燥させたものを剥がして、シャーマンの足周りの水しぶきにしました。

降りしきる雨はタミヤの透明ソフト棒を熱して延ばした物をたくさん作り、地面に接着しています。


◀ナオミ搭乗のシャーマン・ファイアフライ。目立つ変更点の車体左右に付くハウスボート基部を、プラ材のチャンネル材やビーム材、プラ棒を組み合わせて製作


◀キューポラ機銃取り付け部は前後に2個


▶車体前面の溶接線は横方向のフインの位置を変更し、それ以外の溶接線はすべて除去する。乗員用ハッチ上のペリスコープは開状態へ


▲車体後部の箱は取り付け具を形状変更。下部のハッチ中央ディテールも省略する。履帯は実車の全金属製の質感を持たせ、M4と異なる仕上げとした


▶塗装はどちらも白、黒のサーフェイサーでグラデーション塗装した後に車体色にクリアー塗料を加えて薄く溶いて塗装。ファイアフライは121番ブラウンバイオレットを車体色に使用した


▲隊長・ケイ搭乗のM4シャーマン 75mm砲搭載型。ファインモールド（プラパーツはタミヤ製）のキットだが、設定CGとの差異は少なく、重箱の隅をつつく視点でチェックし各部を修正


◀車載工具の取り付け位置を若干変更。牽引ラグは大型化しシャックルを追加。中央の牽引具はディテールが少ない角ばった形状に変更する


▶M4の車体色は23番ダークグリーン。最終的に色調はGSIクレオスのウェザリングリキッドを上塗りして調整した


▶砲塔のペリスコープはすべてガード付き


▶ハウジングのフランジに継ぎ目を追加

隊長・ケイ搭乗のM4シャーマン75mm砲搭載型はファインモールド製（タミヤ）を使い、ナオミ搭乗のシャーマン・ファイアフライはアスカ製を使いました。

■M4シャーマン75mm砲搭載型

こちらはほとんど設定画との差異はありませんが、例によって重箱の隅をつつく視点でチェックしています。

・スリーピースハウジングのフランジ部分は中央に継ぎ目。
・牽引用ラグの位置が中央寄りに移動。
・車体にある溶接線はすべてなし。
・乗員用ハッチのペリスコープは開状態。
・誘導輪基部にボルト追加。
・サイドフェンダー取り付け用の帯板が付く。
・サスペンションは初期型VVSS。
・砲塔前部右側の追加装甲板は継ぎ目無し。
・砲塔上面のペリスコープはすべて開状態。砲塔上のペリスコープにはすべてガードが付く。
・コマンダーキューポラはハッチが薄い。
・キューポラのペリスコープは90度回転。
・キューポラ自体は回転式で『劇場版』の中でケイが回す描写あり。
・煙幕弾発射用の穴は無し。
・アンテナ基部は少し背の低いオリジナル形状。

といった点が相違点。

■シャーマン・ファイアフライ

車体左右に付くハウスボート基部が大きな相違点ですが、アスカのキットが細部まで再現されている分、細かい部分での相違点は多いです。

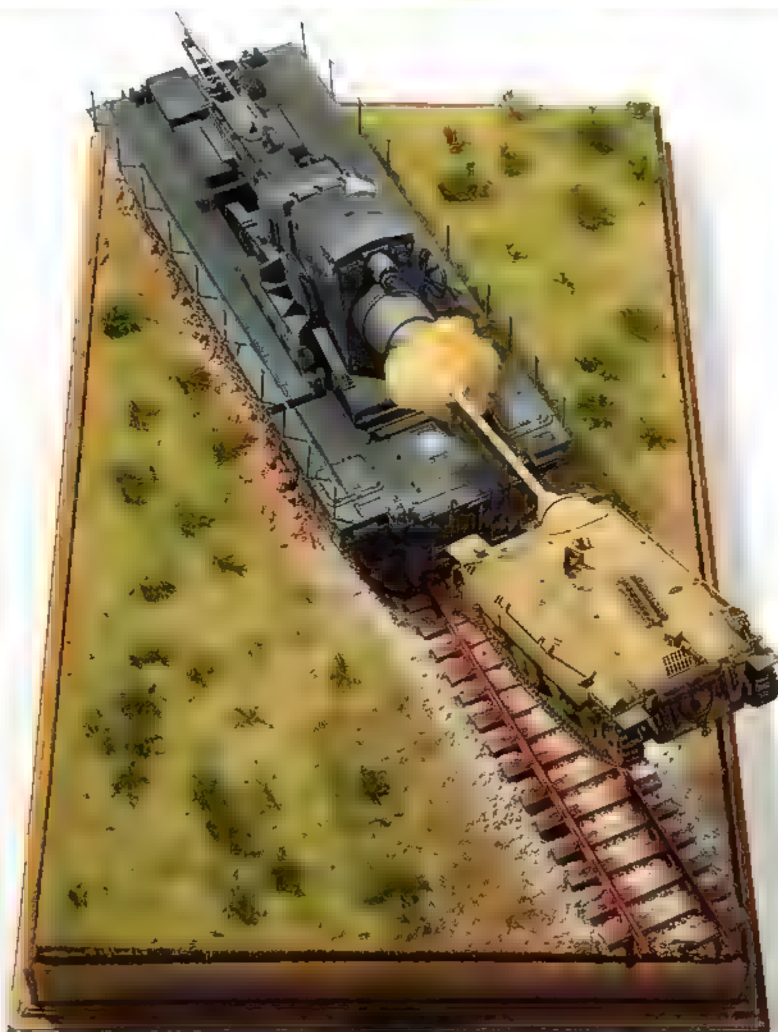
・ハウジング部の牽引ラグの位置が中央寄り。
・前面の溶接線は横方向のラインの位置が違う。
・前面以外の溶接線は除去。
・車載工具の取り付け位置が微妙に変更。
・後部のクリーニングロッドの積み方が変更。
・機関室上部はボルト位置が違い、細い細板がグリルに付く。
・トラベリングクランプは形状、位置共に変更。
・車体左右にハウスボート基部が追加。
・マズルブレーキは取り付け用リングが付属。
・コマンダーキューポラのペリスコープは90度回転。開状態。
・機銃取り付け部は前後に2個付く。
・前部左側上部の煙幕弾発射用穴の位置が移動。
・各部のブラケットの形状変更。
・無線機収納箱は組み方も形状も変更。
・アンテナ基部は少し背の低いオリジナル形状。

「会長…お願いします!」

「…発射」

DRAGON 1/35 scale plastic kit
60cm Morser "Karl" &
ITALERI 1/35 scale plastic kit
Jagdpanzer 38(t) Hetzer use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

ドラゴン 1/35 スケール プラスチックキット
カール自走臼砲 &
イタレリ 1/35 スケール プラスチックキット
ドイツ駆逐戦車 ヘッツァー 使用
ディオラマ製作・文／**山田卓司**

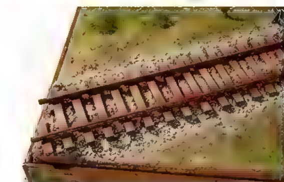


大学選抜チームの隠しダマの1輌・カール自走臼砲をカメさんチームのヘッツァーが空中からの砲撃で見事撃破するシーンをチョイスした。

圧倒的火力を誇るカール自走臼砲を倒すべく、大洗女子学園の生徒会長・角谷杏率いるカメさんチームのヘッツァーがとった行動は、アンツィオ高校CV33を土台に飛び、相手の砲身めがけて撃ち込むという、突飛な作戦に目を奪われる名シーンである。

キットはいずれも1/35でそろえた大型ディオラマ仕上げ。各車輌ともディテールアップを行い見映え良く、また空中に飛び上がったヘッツァーは別途支え棒を用いることなく表現し見ごたえのある作品に仕上がっている。HJ本誌2016年4月号掲載。

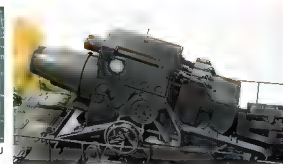


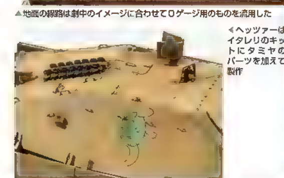


▲地面の線路は劇中のイメージに合わせて０ゲージ用のものを流用した



▲カールはサスペンションの可動化に合わせ履帯をフリウルのソフトメタル製に変更





◀ヘッツァーはイタレリのキットにタミヤのパーツを加えて製作



▲増設された箱はプラ材の工作によるもの



▲場面は雨が降った後の設定なので土汚れ強めの仕上げ。爆発炎は綿を使用

■カール

劇中版では「オープントップ車輌は試合出場不可」のルールに合わせるためなのか、自動装填で運用可能なように改造されているようで、車体後部左右にプラットホームと同じ高さの箱が増設されています。劇中版ではマフラーが延長されています。マフラー本体が設置されている場所は板で塞がれているようにも見えますが、よく判らないのでここはキットの通りとしました。増設された箱にはそれらしいディテールが描き込まれていますので、それらは一つずつプラ材の工作で再現しました。円形のルーバーにはメッシュのディテールがありますので、タミヤのキットに入ってるナイロンメッシュから作りました。私が元にしたキットは射撃姿勢の車体パーツでしたので走行姿勢へ変更するためにサスペンションアームを切り離し、可動化しました。履帯のガイドホーンには特徴的な丸穴が開いているので最初はキットパーツに手を加える予定でしたが、サスペンションの可動化のついでにフリウルのソフトメタル製の物に変えてしまいました。

■ヘッツァー

ヘッツァーはさらっとキットに従い製作、マフラーや主砲関連などは精度の高いタミヤのパーツを使いました。履帯はモデルカステンの可動式を使用。起動輪は手持ちのヘッツァーのキットに合うものが無かったので、同モデルカステンの別売りの38(t)用の物にリベットを接着して使用しました。これは歯数がヘッツァーのものと違うのですが、劇中設定では38(t)戦車を改造したものなので、問題ありません。

砲撃の軌跡は3㎜真鍮棒を使い、主砲はプラ材から自作してカールの砲身へ通し、ヘッツァーを固定しています。爆発炎は綿を使った表現です。

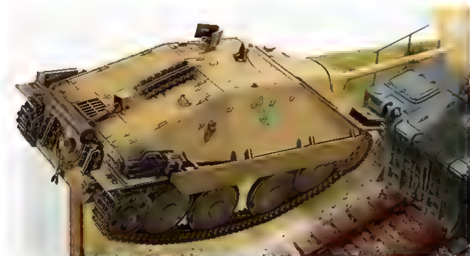
■情景

塗装はいつも通りのカラーモジュレーション。大学選抜チームのエンブレムはプラッツさんに提供していただきました。

劇中、雨が降った後の設定なので土汚れはしっかり施しています。劇中場面に見られた線路は一般的な線路より幅の狭いもののようなので鉄道模型の０ゲージ用の製品を流用しています。







▲ヘッツァーは履帯と転輪を可動式にすることで自然にたるみ空中に飛んでいる表現に臨場感が出る



▲製作途中。薄い茶色のパーツはタミヤのものに変更。ディテールアップは要所で抑えたものに止めた

「天下のクリスティ式なめんなよ!」

TAMIYA 1/35 scale plastic kit
FINNISH ARMY ASSAULT GUN BT-42 use
the diorama built&described by Takuji YAMADA





タミヤ 1/35スケール プラスチックキット
フィンランド軍突撃砲 BT-42 使用

「Säkkijärven-polkka」

ディオラマ製作・文／山田卓司

『劇場版』から、ミカ率いる継続高校のBT-42の名シーンをチョイスしたディオラマをご覧いただこう。劇中では、機動性の高さや履帯を外しても走行可能な独自の機構、またカンテレによるフィンランド民謡『Säkkijärven-polkka』をバックに戦闘を繰り広げるなど、全編通すと短い活躍時間ながら、かなり強烈なインパクトを与えていた。

今回のディオラマはそんなBT-42が、転輪まで破壊されながらも片輪装甲を行い周囲の度肝を抜いた名シーン。キットはタミヤ1/35製を使用している。 HJ本誌2016年7月号掲載。







『劇場版』で初登場、もっとも印象的だった戦車というと継続高校のBT-42は外せない1輌です。たった1輌の参戦でしたが怪物自走砲カールを護衛していたM26パーシング3輌を葬る大活躍でした。T-34、クルセイダーと同じクリスティ式サスペンションながら、これは履帯無しでも走行可能という実車の面白い機構が本編でも上手く生かされておりました。ミカの奏でる『Säkkijärven-polkka』をバックにした戦闘シーンはとても印象深いものでした。

■カルパン版と実車との相違点

・車体右側フェンダー上の工具箱が前後共に同サイズの物になっている。
・機関室上部、ジャッキ台がラックのみになっている。
・吸気グリルカバー上部の牽引ワイヤー取り付け具の位置が違う。
・起動輪のハウジングカバーにリベット。
・砲塔右側にも監視口とピストルポートが追加。
・砲塔上部ペリスコープカバーが開いている。

劇中では履帯無しの走行となりますが、この時に車体前部の操縦手ハッチを閉じ、右側フェンダーの前端が捲れます。そしてその後、車体左側に被弾して右側車輪のみの片輪走行となりますが、この時に各所にダメージを被ります。

・左側フェンダーに歪み。
・左側の誘導輪以外の転輪がすべて脱落。
・右側フェンダー上の工具箱が脱落。
・車体後部のバール、ショベルが脱落。
・砲塔上部左側ペリスコープカバーが脱落。
・左右フェンダー上のジャッキが脱落。

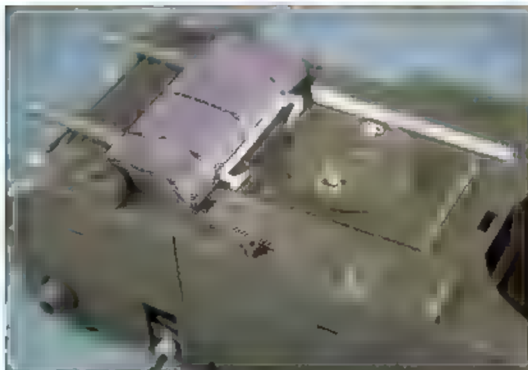
そして最後「トゥータ!」でM26にトドメを刺した後、残りの転輪も脱落。リタイアとなります。今回は最後のターンの時の姿をモチーフとしました。

工作としては左側フェンダー、工具箱はプラペーパーで作り替え。車体後部の工具の取り付け具はプラ板で作りました。砲塔のペリスコープカバーはアームをプラ板で追加しました。地面への固定は車軸を2㎜の真鍮線で強化した上で各転輪から2㎜の真鍮線を地面へ通しました。

塗装はグレーを下地にムラの大きいホワイト。劇中で派手に転倒しますから汚し塗装は強めで良いのですが、ガルパン戦車としてのほど良い塩梅を探りながらの塗装です。GSIクレオスのウェザリングカラーを用いて汚しています。











◀■所省略されている部分などはプラ材や金■パーツでディテールアップ



▲片輪走行再現用に転輪基部に真鍮線を通して角度を与えて土台と固定



▲シャシー左側にある工具箱はプラシートでダメージバージョンに作り変え

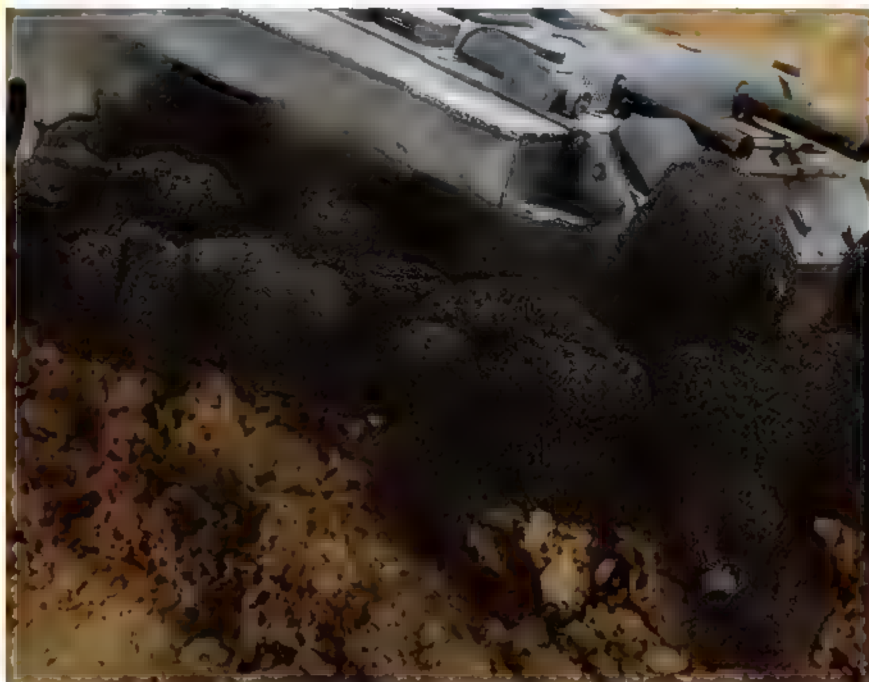


▲塗装はグレーとホワイト。ウェザリングカラーで汚しの按配を見ながら仕上げていった





▲ベースはトイレットペーパーと壁塗り補修剤。脱脂綿で土埃と車体からの煙をあしらっている



「天井からのナックルサーブでダブルブロックからの近距離スパイク!」
「はい!!」

Fine Molds 1/35 scale plastic kit
Imperial Japanese Army Main Battle tank
Type 97 "CHI-HA" IMPROVED HULL with 57mm CANON "Chi-Ha-Tan Academy",
Type 89 Medium Tank Kou ver.team "AHIRUSAN" & TAMIYA 1/35 scale plastic kit
U S MEDIUM TANK M26 PERSHING
the diorama build&described by Takuji YAMADA

ファインモールド 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー 劇場版 知波単学園
九七式中戦車[チハ]57mm砲搭載・新車台
"アヒルさんチーム" 八九式中戦車甲型
タミヤ 1/35スケール プラスチックキット
アメリカ戦車 M26 パーシング使用
ジオラマ製作・文/**山田卓司**

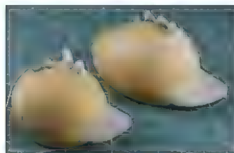
……より、知波単学園車輌とアヒルさんチームが共闘し……M26パーシングを見事に撃破するシーンをチョイスし……
……戦車がM26パーシングを倒すことはおよそ難……が『ガルパン』。不意に車体で相手の砲身を固定し、超至近距離からターレットの隙間を撃ち抜くという突飛な作戦を展開。アヒルの被り物や、TVシリーズでも行われた、砲塔の内側からメンバーが壁を押して助力するという謎の動き(笑)も再録するなど、緊迫感とギャグが織り交ざったベストシーンの一つであった。
アヒルの被り物はスクラッチで再現。各車輌も劇中仕様に極力合わせて仕上げられている。HJ本誌2016年3月号掲載。





■地[redacted]は石粉ネンドで造形後、絵画用砂をまぶして製作







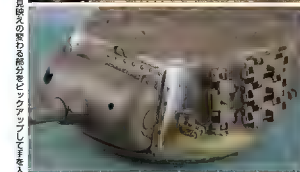


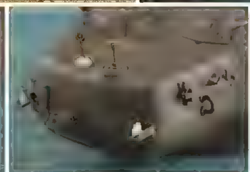
▼▲映画で強烈な印象を与えたアヒル頭はエポパテで製作。砲塔の接続部分を流用して、固定できるようにしてある





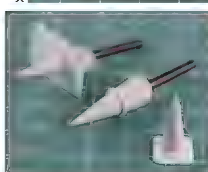
▶▲M26パーシングは劇中仕様にディテールアップ。フルディテールアップというよりは大きく見映えの変わる部分をピックアップして手を入れている。詳細は製作文を参照

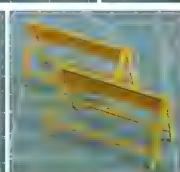




▼爆発の煙は脱脂綿で表現している









◀周りに配した小物はプラ板やエポパテでスクラッチしたもの。黄色と黒の縞模様パターンは劇中のものにあわせた

『劇場版』で描かれたアヒル殿、ことアヒルさんチーム(八九式中戦車)率いる知波単学園車輌群の奇策により、大学選抜チームのパーシングを討ち取るシーンを描いた作品です。

『劇場版』では知波単学園の迷彩塗装は凄い拘りで描き分けられており、九七式中戦車［チハ］57㎜砲搭載・新車台は4種類、［新砲塔チハ］前期車台は2種類の迷彩パターンがあります。調査の結果、この車体は九七式中戦車［チハ］57㎜砲搭載・新車台の細見車。ファインモールドの同キットの説明書にある塗装例4の物と判明しました。せっかく判明したので、この九七式はバルーンのアヒル頭が弾けた後のノーマルな状態での砲撃シーンとしました。

九七式

・星章の下の円形プレート追加。
・アンテナから伸びるコードを追加。
・砲塔上部の機銃架を45度回転させて接着（実際は基部はそのままでアームのみ回転）。

八九式

テレビ版譲りの相違点、右側の燃料注入口蓋を型取り複製して一つ追加しています。

アヒル頭はすべてエポパテで作製。硬化させたパテをアウトラインの形に切り抜き、これを十字に組み、芯にしてパテを盛りつけました。車体への固定はキットのリング径に合わせたプレートを作り、嵌め込むように装着しています。

M26

大学選抜チームのM26はタミヤのキットをチョイス。いろいろと相違点があります。
・フェンダーの前後左右4ヵ所にターンバックル追加。
・車体後部の吊り上げループが斜めに溶接されている。
・車体後部の牽引用ホルダーはフック未装着。
・牽引用ホルダーにワイヤーロープが取り付けられている。
・インターホンは未装着。
・防盾基部左右に角孔付きのディテール。
・砲塔上部の機銃は未装着で取り付け架のみ。
・砲塔後部の機銃の予備銃身ラックを追加。
・機銃の予備銃身ラックが起立している。
さらに今回はオミットしましたが、
・備品箱横のフェンダー上に手摺。
・すべてのペリスコープは開状態。
といったところ。大学選抜チームのエンブレムは友人にデカールを作製してもらいました。

「優雅な勝ち方とは程遠いですね…」

「今回はみほさんを助けに来たのよ。私たちの勝利じゃない」

Fine Molds 1/35 scale plastic kit
Churchill Mk.VII Infantry tanks "St.Gloriana Girls' College" &
PLATZ 1/35 scale plastic kit
T28 Super Heavy Tank "Hand-Picked University Team"
the diorama built&described by Takuji YAMADA

チャーチル歩兵戦車Mk.VII作例を使って、劇場版終盤戦で繰り広げられたダージリン率いるチャーチル歩兵戦車Mk.VIIが、橋の下から大学生選抜の強敵T28超重戦車を撃破するシーンを製作。優雅さをモットーにしていたダージリンたちが、大洗女子学園チームの勝利のために泥臭い闘いに応じる名シーンだ。T28が乗れるくらいの大掛かりな橋を劇中の雰囲気に合わせて製作。演じる戦車はいずれも『劇場版』仕様にディテールアップされた豪華な作品となっている。 HJ本誌2016年9月号掲載。

ファインモールド 1/35スケール プラスチックキット
聖グロリアーナ女学院 チャーチル歩兵戦車Mk.VII &
プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
T28 超重戦車 大学選抜チーム 使用
ディオラマ製作・文／**山田卓司**





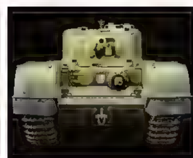




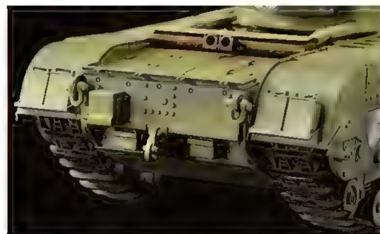


△前面のフェンダーの取っ手はプラ材で新規製作。ワイヤーロープのラックも同じく新規で、ワイヤーロープは建築用素材に置き換えている









△後部フェンダーの左右にはペトロール缶が設置されている。作例ではそれぞれプラ板の積層から作っている



■チャーチル歩兵戦車Mk.Ⅶ

『ガルパン』の世界では大洗女子学園に対して、未だ不敗を誇る聖グロリアーナ女学院のチャーチル歩兵戦車です。チャーチルは先に一度扱っています(P.62)が、劇場版ディテールにこだわった作例として改めて紹介します。

キットはタミヤのキットをファインモールドがガルパン版としてリリースしたキットがありますのでこれを用います。設定画との一番大きな相違点は機関室上面の車載工具がすべて排除されていること。ここは取り付け穴を熱して伸ばしたランナーを差し込んで埋めるだけの工作ですので難易度は低めです。さらにこだわるといくつかの改修ポイントがありますので紹介しておきます。

・車体後部左側に付く箱(おそらく車内との連絡用電話)のティテール。
・車体後部左右フェンダーにはペトロール缶がそれぞれ装備されている。
・車体左右にはワイヤーロープのラックが付く。
・砲身横の車載機銃の装甲ガードの形状が違う。

今回唯一オミットしましたが、

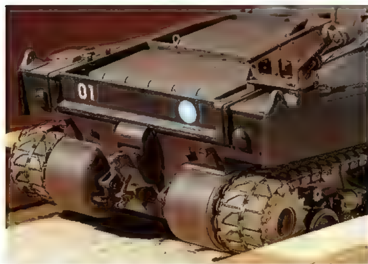
・砲塔下端周囲の出っ張りには切り欠きが無い。

改修ポイントは基本的にすべてプラ板などで工作しています。

車体後部左右フェンダーのペトロール缶はアスカよりリリースされている「イギリス軍車載アクセサリーセット」から流用すると良いのですが、その場合キットのラック部分を薄いプラ板などで自作する必要があります。ペトロール缶の取っ手の取り付け位置が左右で違っているので、今回はプラ板の積層から削り出して自作しました。

キット本来のディテールアップとして、砲塔上面に付くアンテナはパッションモデルの金属製パーツを使い、車体前部左右フェンダーの取っ手はプラ材料より作り替えました。ワイヤーロープは建築で使用される水糸に替えました。

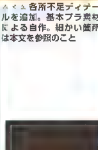
この作品は〝優雅な闘い〟をモットーとする聖グロリアーナらしくない、泥臭い作戦によりT28を葬る劇場版の名場面のひとつを描いています。





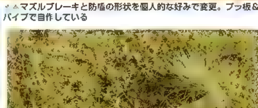
△マズルブレーキと防盾の形状を個人的な好みで変更。プラ板&パイプで自作している

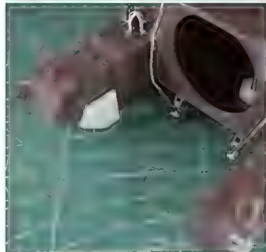




△△各所不足ディテールを追加。基本プラ素材による自作。細かい箇所は本文を参照のこと

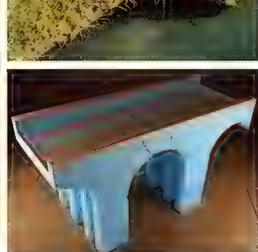


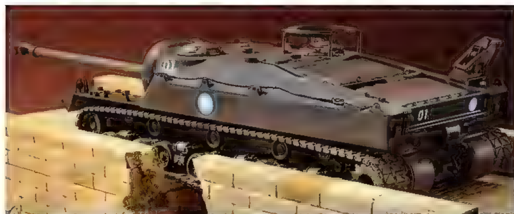


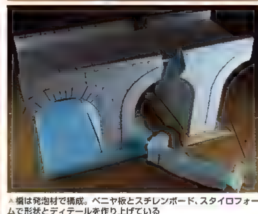




△橋の破壊されたところを跨っている部分がしっかりたわんでいてT28の重量感を感じられる







△橋は発泡材で構成。ベニヤ板とスチレンボード、スタイロフォームで形状とディテールを作り上げている

まずは大物。T28超重戦車です。劇場版BD DVDのオーディオコメンタリーによると準備稿の段階では2輌登場する予定だったとのことで、本車にはその時の名残で「01」と車体ナンバーが書き込まれています。劇中では1輌も倒すことなく、チャーチルとファイアフライの連携により撃破されてしまいます。キットはプラッツよりリリースされている公式キットを使用しています。プラッツ版は上質なカルトグラフ製デカールに加えて最近の製品は劇中の車体色に近い成型色となっているのが嬉しいですね。

箱を開けた時に膨大なパーツ数に怯みますが、大半が細かく分割されたサスペンションのパーツなので足周りを根気よく処理してしまえば車体はごくシンプルな内容です。今回は左右外側の足周りを外した状態なので大幅に手間が軽減しました。

ガルパン版と実車との相違点は、

・クレーンに滑車が追加。
・前部左側フェンダー上にホーン(?)が追加。
・前部右側、車体ナンバーの所に謎のリブ追加。
・機関室に2ヵ所、リング(吊り上げ用のアイボルト?)が追加。
・車体後部に牽引具が縦方向に2個、追加。

と各所にディテールを追加することで設定に近くなります。個人的なこだわりでマズルブレーキ、防盾の形状が気になったのでマズルブレーキはプラ板&パイプで自作。防盾はキットパーツの左右を削り上部にエポパテを盛り付けて形状を変更しております。

石組みの橋はすべて発泡材で作りました。T28が進む路面はベニア板に1㎜厚のスチレンボードを貼り付け、表面をボールペンで書き込み石組み模様を表現しました。橋の本体は20㎜厚スタイロフォームを複数枚重ねた物を側面形に切り抜き、梯子を見ながらスペーサーを挟み込んで基本構造を作りました。その上に路面同様に石組み模様を付けたスチレンボードを貼りつけて表面を仕上げました。

川岸はスタイロフォームを削り、壁塗り補修材を盛り付けて地面の下地を作り、赤玉土とディオラマ用の草素材で仕上げました。川はアクリル板に裏側から着色して表現しました。

「リミッター外しちゃいますわよ!」

TAMIYA 1/35 scale plastic kit
U.S. LIGHT TANK M24 CHAFFE &
BRITISH CRUISER TANK Mk.VI CRUSADER Mk.III use
the diorama built&described by Takuji YAMADA

タミヤ 1/35スケール プラスチックキット
アメリカ軽戦車 M24 チャーフィー &
イギリス巡航戦車 クルセーダーMk.III 使用
ディオラマ製作・文/**山田卓司**

劇場版ラスト近く、最終対決に向けて大洗女子学園、大学選抜チームの各車輌が次々と撃破されていく中、ひときわ派手に相打ちを演じたローズヒップのクルセイダーMk.IIIと大学選抜チームのM24チャーフィー軽戦車のシチュエーションをディオラマ化。キットは共にタミヤ/イタレリ製品を劇中の仕様で製作。躍動感のある車輌ばかりでなく背景の石垣にも注目だ。なおチャーフィーは2017年9月号、クルセイダーは2017年11月号に単品作例として掲載された。HJ本誌2017年12月号掲載。





ディオラマの製作


▲ベースの製作。戦車を仮置きし全体のサイズを決め、スタイロフォームを切り出す

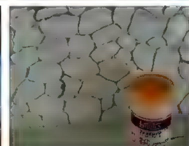

▲石垣はスチレンボードから製作。まず鉛筆で石垣にはめ込む石材を下書きする


▲スチロールカッターで石の形に切り抜いてスタイロフォームの壁に貼り付けていく


▲堀の堤と未舗装路脇の壁に石材の貼り付けが完了。道と壁の上縁には縁石を付ける


▲石垣上部の板壁を自作。プラ板の表面はコーティングブレードで荒らし木目を付けた


▲プラ角棒を適切な長さにカットしたものを等間隔に貼り付け、縦材を再現する


▲スチレンボードの石材の表面にモデリングペーストを盛り付けて、岩肌を表現した


▲緩く溶いた石膏を全体に塗って表面を整え、石垣を仕上げる

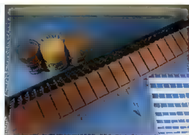

▲ベースの外側を塗装。下塗り用アクリル絵の具のブラックジェッソで塗った


▲屋根瓦は建築模型用シートを適当なサイズにカットし、エポパテで裏打ち


▲屋根上部中央の丸瓦はプラパイプによる工作、継ぎ目も細いプラ棒を丸めたもので再現

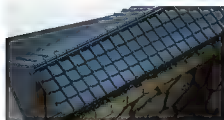

▲石垣の塗装。アクリル絵の具のローアンバー、ブラックなどで石ごとに色を変えた

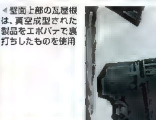

▲屋根瓦と板壁の塗装。Mr.フィニッシングサーフェイサー ブラックを全体にスプレーした


▲板壁部分はウッドブラウン、サンディブラウン、マホガニーをムラになるように塗装


▲石垣の仕上げ。石材の表面や隙間にMr.ウェザリングカラー マルチブラックを流す

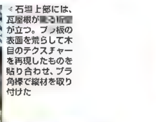

▲未舗装路は壁補修材を塗った後、細かく砕いたピグメントとアクリル絵の具で色付け


◀壁面上部の瓦屋根は、真空成型された製品をエポパテで裏打ちしたものを使用


▶堀の堤の道路脇の壁面は垂直に切り立った石垣。スチレンボードをカットした石材を1個ずつ貼り付け、モデリングペーストで岩肌を再現。石膏を塗って仕上げる




◀石垣上部には、瓦屋根が載る板塀が立つ。プラ板の表面を荒らして木目のテクスチャーを再現したものを貼り合わせ、プラ角棒で縦材を取り付けた


▶チャーフィーの走る未舗装路は壁塗り補修材を盛って製作。雑草はスタティックグラスを使用

『劇場版』終盤、ローズヒップ劇中一番の見せ場「リミッター外しちゃいますわよ!」の場面を再現してみました。

場所は「江戸ランド」と呼ばれる和風のエリア。堀の堤と道路脇の壁面は石垣のようなディテールで、壁面の上部は下見板の壁となっており小さな瓦屋根が付いています。

チャーフィーが走る道路は未舗装路で、チャーフィーの横幅とクルセイダーの全長を加え、さらに余裕のあるくらいのかなり広い道幅なので、そのままの寸法で作ると巨大なサイズとなり間延びしてしまい、主題のクルセイダーとチャーフィーの存在が霞んでしまいます。ここは道幅は狭めて全体に縮小する方が良さそうです。

■クルセイダーとチャーフィーの動き

1. クルセイダーが堀を乗り越え、ジャンプ中に砲撃。

2. チャーフィーは被弾しつつ走行。

3. クルセイダーは壁に激突。チャーフィーはそのまま少し走行。

4. クルセイダーは地面に落下し、通り過ぎたチャーフィーが停止。白旗。

という流れで描かれており、どの瞬間を捉えるのかでディオラマとしての絵が変わってきます。

1~2の時点だとクルセイダーは支え棒で浮かせる必要がありますが、これは無粋なので避けたいところです。3の時点だとチャーフィーは通りすぎてしまいますし、4の時点だとクルセイダーは地面に転がった状態となり、どちらもディオラマ内の出来事が判り辛い絵となります。

固定された立体物で映像作品を表現する場合、劇中の時系列を再構成した方がより説得力が増すと考えて、劇中とは違う形としました。

全体の構成が決まったら、2輌の戦車を仮置きしながら全体のサイズを決め、スタイロフォームを切り出してベースを作ります。石垣はスチレンボードを切り抜いて壁に貼って行き、モデリングペーストを盛り付けて岩肌を再現します。石垣の仕上げに緩く溶いた石膏を全体に塗って表面を整えます。

チャーフィーは車体に仕込んだ二本の3㎜径のビスで固定していますが、クルセイダーは車体前部の内側にあらかじめエポパテを充填してありますので、ここに2㎜径の真鍮線を差し込み、壁に接続しています。

仕上げにチャーフィーからは被弾した所に脱脂綿で作った煙のエフェクトを加えました。

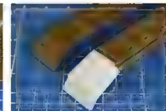




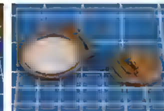
△装填手ハッチは砲塔上面の角部分まであったものを短く修正しているほか、溶接跡などを再現



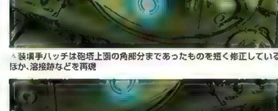
△エンジンデッキ上部のメッシュ部のモールドをルーバータイプにした



△フェンダー後部のラインもプラ板を使って変更

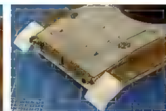


△砲塔キューポラのペリスコープをディテールアップ





△車体後部パネルのラインを変更した



△エンジンデッキには取っ手などのディテールを追加工作



△車体前部。ハッチのペリスコープの位置を変更



△車体フェンダー上部にあるワイヤー装着具をプラ板で自作。今回の作例のチャームポイント







■M24チャーフィーの製作

キットは一番入手しやすいタミヤ/イタレリを使いました。『ガルパン』版との大きな違いは砲塔の装填手ハッチの前後が少し短い点。フェンダー、車体後部の面構成が違う点くらいですが、細かく見ていくと各部の形状が微妙に違っていたりしますし、キットのパーツが簡略化された形状だったりしますから、よりディテールを入れていくと、結構な工作量になりますのでそれなりの覚悟が必要です。

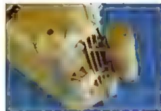
以下、今回の工作箇所です。

・装填手ハッチを前後方向に短くする。
・砲塔天井の装甲板の合わせ目、溶接跡のモールドを削り取る。
・ハッチのトーションバーを追加。
・コマンダーキューポラのペリスコープの向きが前向きに。
・キューポラ前にガード板を追加。
・ベンチレーターをシンプルな形状にプラ板で作り替え。
・排莢ハッチを少し大きく作り直し。
・備品箱のストッパーの形状を変更。
・機銃架を作り替え。
・側面の溶接跡追加。
・後部パネルとフェンダーのラインを変える。
・フェンダーのステーを作り替え。
・車体左右にある車外装備品のフックなどのディテールの作り込み。
・操縦席前方のシールドをディテールアップ。
・機関室上面のメッシュモールドをルーバーに変更。
・前方ハッチのペリスコープの位置を変更、正面に向ける、取っ手を追加。

工作していて面白いなと思ったのは車体左側のワイヤーロープ装着具。スプリングのような形状で、チャーフィー以外では例を見ません。プラ板工作としては面倒な部類ですが、ちょっと頑張ってみました。

塗装はグレーサーフェイサーを下地に白と黒のサーフェイサーでグラデーション塗装した後に薄く溶いたグリーンを塗装する、所謂B&W技法で塗装しています。GSIクレオスのMr.ウェザリングカラーのマルチブラックを溶剤で薄めて全体に塗ってトーンを落ち着かせ、タミヤの水性アクリルのデザートイエローを塗ってから燃料用アルコールで落とす、アルコール落とし技法で土汚れを加えました。





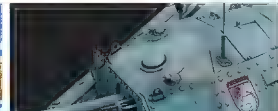
△牽引フックはクロムウェルの形状を参考にして自作。後部下面のリベット位置も修正



△車体、砲塔、サイドスカートは「ブラック&ホワイト技法」で下地塗装を行った



△誘導輪、転輪、起動輪は別に塗装。ゴムリムを塗り分け、グランドブラウンでスミ入れ



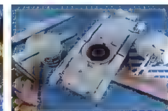
△砲塔は上面のベンチレーターを中央に移動。ライト位置変更とともにおススメの修正メニューだ



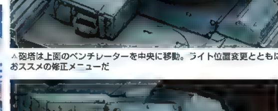
△履帯は塗装が可能。ステインブラウン、ラストオレンジでスミ入れした



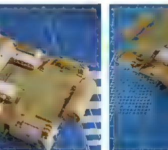
△足周りはサンディウオッシュとマルチホワイトで汚し。激しいウェザリングは控えた



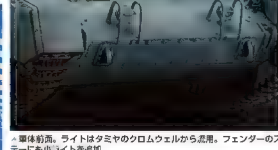
△車体色はエアスペリオリティーブルーをベースに調色。下地塗装を残すように薄く塗布



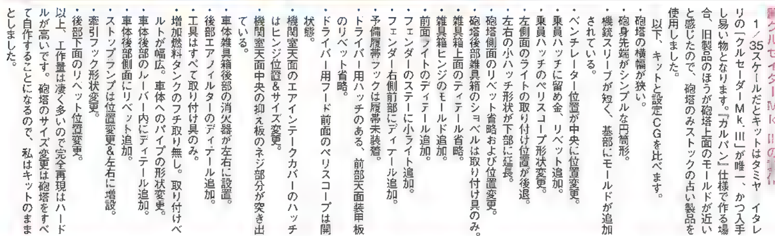








△車体前面。ライトはタミヤのクロムウェルから流用。フェンダーのステーにも小ライトを追加



■クルセイダーMk.IIIの製作

1/35スケールだとキットはタミヤ/イタレリの「クルセーダーMk.III」が唯一、かつ入手し易い物となります。『ガルパン』仕様で作る場合、旧製品のほうが砲塔上面のモールドが近いと感じたので、砲塔のみストックの古い製品を使用しました。

以下、キットと設定CGを比べます。

・砲塔の横幅が狭い。
・砲身先端がシンプルな円筒形。
・機銃スリーブが短く、基部にモールドが追加されている。
・ベンチレーター位置が中央に位置変更。
・乗員ハッチに留め金、リベット追加。
・乗員ハッチのペリスコープ形状変更。
・左側面のライトの取り付け位置が後退。
・左右の小ハッチ形状が下部に延長。
・砲塔側面のリベット省略および位置変更。
・砲塔後部雑具箱のショベルは取り付け具のみ。
・雑具箱上面のディテール省略。
・雑具箱ヒンジのモールド追加。
・前面ライトのディテール追加。
・フェンダーのステーに小ライト追加。
・フェンダー右側前部にディテール追加。
・予備履帯フックは履帯未装着。
・ドライバー用ハッチのある、前部天面装甲板のリベット省略。
・ドライバー用フード前面のペリスコープは開状態。
・機関室天面のエアインテークカバーのハッチはヒンジ位置&サイズ変更。
・機関室天面中央の抑え板のネジ部分が突き出ている。
・車体雑具箱後部の消火器が左右に設置。
・後部エアフィルターのディテール追加。
・工具はすべて取り付け具のみ。
・増加燃料タンクのフチ取り無し。取り付けベルトが幅広。車体へのパイプの形状変更。
・車体後部のルーバー内にディテール追加。
・車体後部側面にリベット追加。
・ストップランプは位置変更&左右に増設。
・牽引フック形状変更。
・後部下面のリベット位置変更。

以上、工作量は凄く多いので完全再現はハードルが高いです。砲塔のサイズ変更は砲塔をすべて自作することになるので、私はキットのままとしました。

大学選抜チームのセンチュリオンとの激闘の末に勝利を手にしたあんこうチーム・IV号戦車H型(D型改)最後の姿を再現。
激闘を表す劇中屈指の勇姿であるため、戦車模型基本スケールの1/35ではなく、あえてマックスファクトリー製1/12 IV号戦車をチョイス！　もちろん1/35よりもかなりの大型モデルであるため、劇中カットや劇場に足を運んで徹底リサーチし、各部ダメージ状態を作りこみ。乗員のあんこうチームの5人は同スケールのfigmaを乗せてみた。大スケールならではのかなり見映えのするものへと仕上がったといえよう。HJ本誌2016年6月号掲載。

「大洗女子学園の勝利！」

MAX FACTORY 1/12 scale ABS model
"figma Vehicles"
Sd.Kfz 161/2 Panzerkampfwagen IV Ausf.H Ver.Team "ANKOU"
the diorama built&described by Takuji YAMADA

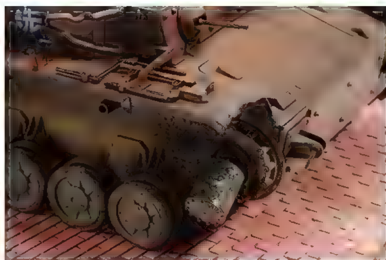
マックスファクトリー 1/12スケール ABSモデル
"figma Vehicles"
IV号戦車H型(D型改)使用
ディオラマ製作・文／山田卓司



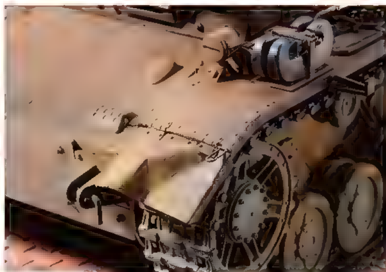
▼本体と同スケールで楽しめるfigmaシリーズのあんこうチームと組み合わせ。各部ダメージ加工は劇中での姿を細かく観察して再現。ダメージのみならず、それに伴ってなくなった小物などもほぼ忠実に再現している







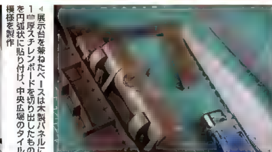




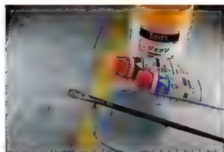




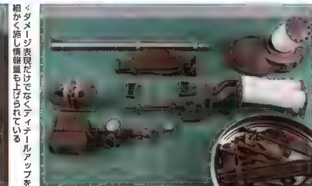
◀完成品を加工するためにまずは分解作業。特に損傷が大きい車体右側はがっつりパーツを取り外していく



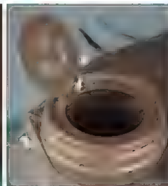
◀パーツ自体をヤスリなどで大きく形状変更しへこみを表現する



◀展示台を兼ねたベースは木製パネルに1㎜厚スチレンボードを切り出したものを円弧状に貼り付け、中央広場のタイル模様を製作



◀箇所によってはプラペーパーなどで新造してダメージ表現を製作している





◀ダメージ表現だけでなくディテールアップを細かく施し情報量も上げられている

マックスファクトリー製1／12 IV号H型（D型改）を楽しんでみました。このH型は先にリリースされたD型の製品を改修することで製品化しておりますので、戦闘室前面にはその継ぎ目があります。これは実際のIV号戦車には無いディテールですが『ガルパン』の物語の中のIV号戦車の変化を表すものとして説得力あるディテールと解釈して製品のままとしております。また、劇場版ではテレビ版からさらにディテールが変更されており、車体前面上部左右の点検口が車体と面一となっていますが、製品はテレビ版準拠ですのでここは劇場版に合わせて改修しました。幸い、点検口のH型用ヒンジはパーツとして用意されていますので、点検口に合わせて車体前面パーツの穴を拡げ、嵌め込むように接着することでこの改修は容易です。

劇場版のあんこうチームは大学選抜チームとの対戦では指揮車ゆえ、終盤まで近接戦闘は無くてほぼ無傷の姿でいますから、テレビ版からの変更点に手を加えるのみで劇場版H型作例として仕上げるのも良かったのですが、最後のセンチュリオン戦では戦闘が進行する度に服を一枚ずつ脱ぐようにシュルツェン（増設の装甲板）が破損していき、最後にはボロボロの姿になります。私は造形としてこのボロボロのIV号が魅力的に感じ、そんな姿を目標としました。編集部にお願いして劇中シーンの絵を用意してもらい、細かくディテールをチェックしてみますと色々とダメージ部分が判ってきます。

・センチュリオンとの近接戦闘により、シュルツェンとそのステーが破損。ショベルが脱落。
・姉のまほの乗るティーガーの空砲により砲塔後部の雑具箱（ゲペックカステン）が脱落。
・センチュリオンの砲撃により、右側の足周りを中心に各部が大きく破損。
・起動輪は中央部のみとなり、軸が歪む。
・合わせて右側フェンダーが破損。上部転輪、誘導輪が脱落。ジャッキが脱落。
・センチュリオンに激突後、砲身が折れる。
・ベンチレーターが吹き飛び、白旗が上がる。

…といったところ。

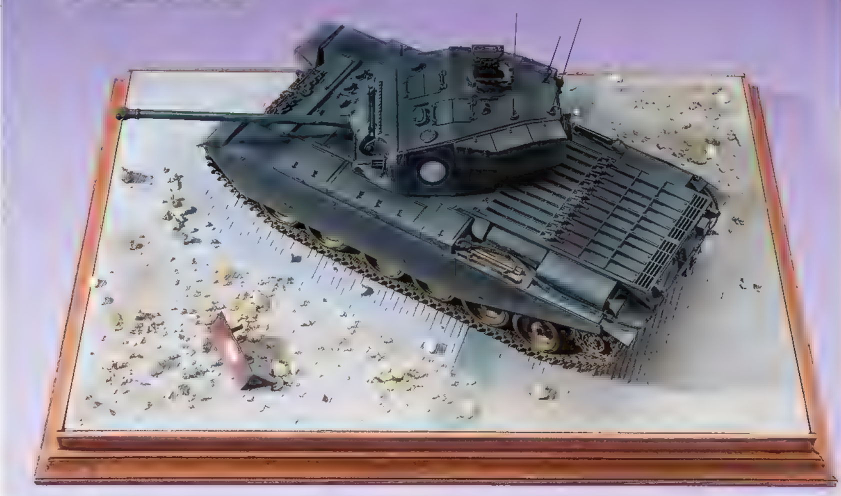
基本的にはキットパーツを切断したり削ったりする工作ですが、製品としてパーツの一体化や省略化されている部分に手を加えて精密化したりしたので意外と工作量は多くなりました。

アキュリットアーマー 1/35スケール レジンキット
イギリス軍 センチュリオンMk.I戦車 改造キット
(AFVクラブセンチュリオンキット用)使用
センチュリオン Mk.I
製作・文／山田卓司

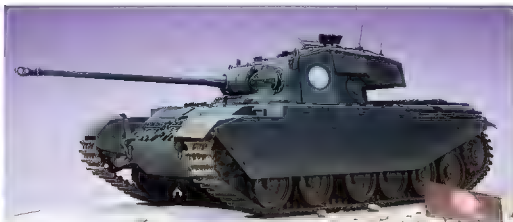
A41 CENTURION

Accurate Armor 1/35 scale resin kit
Centurion Mk.I converts the AFV Club Centurion kit used
Centurion Mk I
modeled&described by Takuji YAMADA

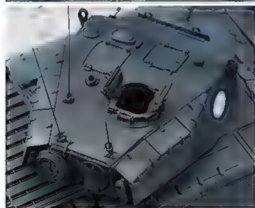




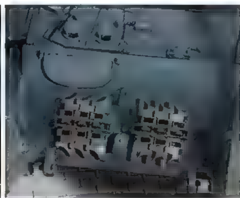




▼シャシーの左右にある道具箱は「劇場版」仕様だと幅が狭いためプラ板で作り直し。そのほか各所造形が異なる部分や位置関係も調整されている

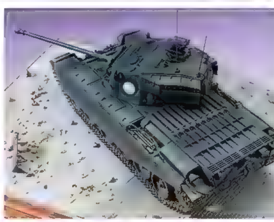


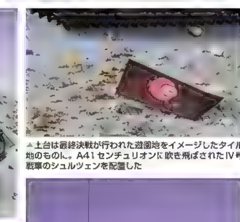




▲砲身はAFVクラブ製キットのものに置き換えてディテールを優先。キットにある砲塔の防盾のカバーは[illegible]しプラ材で作り変えている。また上面のディテールは設定画に合わせて変更しているのでキットのものとは異なる



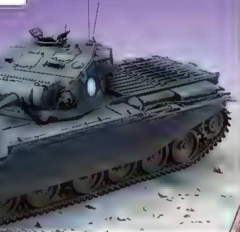


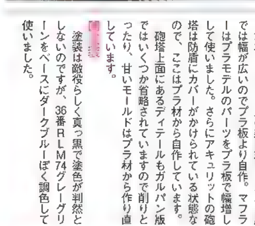


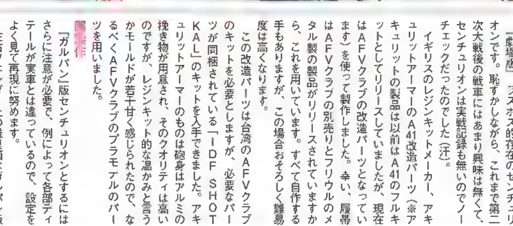
▲土台は最終決戦が行われた遊園地をイメージしたタイル地のものに。A41センチュリオンに吹き飛ばされたIV号戦車のシュルツェンを配置した











『劇場版』、ラスボス的存在のセンチュリオンです。恥ずかしながら、これまで第二次大戦後の戦車にはあまり興味は無くて、センチュリオンは実戦記録も無いのでノーチェックだったのでした(汗)。

イギリスのレジンキットメーカー、アキュリットアーマーのA41改造パーツ(※アキュリットの製品は以前はA41のフルキットとしてリリースしていましたが、現在はAFVクラブの改造パーツとなっています)を使って製作しました。幸い、履帯はAFVクラブの別売りとフリウルのメタル製の製品がリリースされていますから、これを用いています。すべて自作する手もありますが、この場合おそろしく難易度は高くなります。

この改造パーツは台湾のAFVクラブのキットを必要としますが、必要なパーツが同梱されている「IDF SHOT KAL」のキットを入手できました。アキュリットアーマーのものは砲身はアルミの挽き物が用意され、そのクオリティは高いのですが、レジンキット的な温かみと言うかモールドが若干甘く感じられたので、なるべくAFVクラブのプラモデルのパーツを用いました。

【製作】

『ガルパン』版センチュリオンとするにはさらに注意が必要で、例によって各部ディテールが実車とは違っているので、設定をよく見て再現に努めます。

左右フェンダー上の雑具箱はガルパン版では幅が広いのでプラ板より自作。マフラーはプラモデルのパーツをプラ板で幅増しして使いました。さらにアキュリットの砲塔は防盾にカバーがかけられている状態なので、ここはプラ材から自作しています。

砲塔上面にあるディテールもガルパン版ではいくつか省略されていますので削りとったり、甘いモールドはプラ材から作り直しています。

塗装は敵役らしく真っ黒で塗色が判然としないのですが、36番RLM74グレーグリーンをベースにダークブルーぽく調色して使いました。

プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー 劇場版
巡航戦車 A41 センチュリオン 大学選抜チーム
製作・文／山田卓司

A41 CENTURION

PLATZ 1/35 scale plastic kit
CRUISER TANK A41 CENTURION
Ver.team "Hand-Picked University Team"
modeled&described by Takuji YAMADA

改造キット作例に続いてはプラキットレビューにて大学選抜チームのセンチュリオンをお届けしよう。キットはプラッツ製。AFVクラブの戦後型Mk.5に新規パーツを追加し戦中型A41（Mk.1）を再現した物で、実車のA41にも組める。作例では劇中CGに近づける工作を施している。キューポラに立つ島田愛里寿は、プラッツの純正レジンキットを使用した。HJ本誌2018年8月号掲載。

◀島田愛里寿はプラッツのレジンキット「ガールズ&パンツァー 劇場版 大学選抜チーム フィギュアセット」を使用

◀▼砲塔右雑具箱は左側と同型のものを使用。形状の異なる実車版もパーツ化されている（上写真）

▲車体前部。ペリスコープやバイザーはクリアーパーツが奢られている

▲本文にもあるが車体後部のグリルはカーキ成型色の旧パーツを使用するのが正解

大学選抜チームA41センチュリオンの塗装

▲下地はホワイトとブラックでグラデーションする「B&W技法」

▲下地のグラデーションが残るように、薄めた車体色を塗装。車体色はRLM74グレーグリーンをベースに調色し再現

▲仕上げにMr.ウェザリングカラー グランドブラウンでピンウォッシュ。ウェザリングは控えめに

▲足周りはカーキ主体で、色剥げはMr シリコーンバリアーを使用。仕上げにMr.ウェザリングカラー サンディウォッシュで土汚れを再現

■A41 センチュリオン

『ガルパン』ファン待望であった「A41 センチュリオン」がリリースとなりました。『劇場版』では大学選抜チーム戦終盤で無類の強さを見せたセンチュリオン。このキット化を首を長くして待ちわびた方も多くいらっしゃると思います。今回はキットレビューをお贈りさせていただきましょう。

キットはAFVクラブがリリースしていた「センチュリオン Mk.5／2 6 105㎜砲搭載型」をベースに、車体上部及び砲塔の新規パーツを起こしてプロトタイプであるA41に先祖帰りさせるようにモデライズされております。プラッツのこれまでの『ガルパン』キット同様、本編に登場した車輌のリアルなスケールモデルとしてのフォーマットはそのままです。砲塔右側の雑具箱は左側の物と対称形のガルパン版と、A41本来の物との2種類、更にベサ機銃とポルステン20㎜機関砲が用意され、ガルパン版、実車版どちらも製作可能となっております。これまでプラモテルが存在していなかったマイナーなA41のリリースはマニアには朗報でしょう。

■製作

キット自体はやや繊細な部分がありますが、説明書をよく読んで落ち着いて組んで行けば良いです。あまり大きく手を加えることはせず、キューポラ基部の切り欠きを埋めたり、ハッチ周辺のディテールを削るなどの工作で設定CGに近づけています。砲塔前面に2ヵ所と車体後部左側にある、パーツ取り付け用の窪みは埋めます。私は瞬間接着剤を垂らしてベビーパウダーをまぶす手法で埋めました。砲身はアルミ製の挽き物が用意されておりますが、接着時間の余裕があるエポキシ系を使用して、マズルブレーキの向きが左右対称になるように、気をつけて固定します。機関室後部のグリル部は新規パーツにも含まれていますが、ここは旧パーツを使うのが正解。注意しましょう。

■塗装

車体色はグリーンともブルーともつかない微妙な色合いなので何回か調色して作りました。設定画をよく見ると起動輪、誘導輪、転輪は車体とは色が違っていて、こちらはオリーブ色が色剥げ表現で描かれています。なので、ここはシリコーンバリアーを使って剥げ塗装をしました。



ガールズ&パンツァー
GIRLS und PANZER das FINALE

最終章

ガールズ&パンツァー 最終章

GIRLS und PANZER das FINALE

学園存続を懸けた大学選抜チームとの試合にからくも勝利し、
ようやく平穏な冬の日々を過ごしていた
大洗女子学園戦車道チームのメンバーたち。

3年生の卒業を控え、生徒会が改選されて新執行部が始動するなど、
小さな変化も始まっていた。

そんなある日、彼女たちの上に降って湧いた騒動。

新たに現れた難問に立ち向かうため、戦車道チームが再始動する。

平和だった大洗女子学園に突如降って沸いた河嶋桃の留年騒動。

AO入試で大学に入学できるよう、桃を隊長に据えて
冬の大会「無限軌道杯」に挑む大洗女子チームだったが、
初戦の相手・BC自由学園に思わぬ大苦戦!

みほ達の、桃の未来は早くも閉ざされてしまうのか?
果たして、勝利の行方は……!?

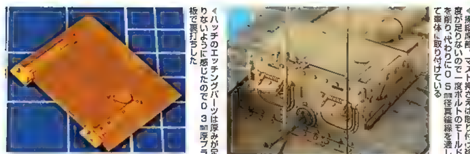
『ガールズ&パンツァー 最終章』(以下『最終章』)は全6話予定で、これまで第1話が2017年12月、第2話が2019年6月に劇場上映されている。いまだ継続中の作品ということもあり、山田卓司による作品は少ないが、新登場のサメさんチームのMk.IV戦車は、タミヤとタコムのキットをベースに製作。そのうちタミヤMk.IVとタコムのM3リーを用いたディオラマは『最終章』第1話のクライマックス、木橋上の戦闘を再現した迫力ある1作に仕上がっている。続くルノーFTは『最終章』第2話のシーンを、公開前に劇場本予告を参考に情景化したもの。『最終章』テーマの作例は今後も製作予定なので、月刊ホビージャパン誌上などでの発表の機会をお待ちいただきたい。

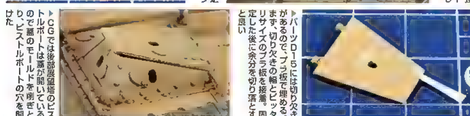
プラッツのマークIVをキット仕様を活かして■。キットは中国タコム製のマークIVに、サ■チームのマーキングデカール、ロストワ■クス真鍮製マストパーツがセットされたもの。作例では、設定CGに合わせるため細部に追加工作。ヴィネット仕立てで「陸の船」を完成させている。HJ本誌2018年6月号掲載。

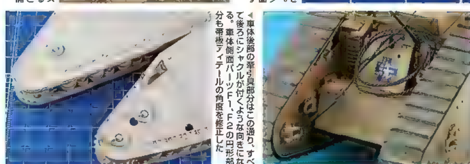
Mk.IV

PLATZ 1/35 scale plastic kit
WWI HEAVY BATTLE TANK Mark IV MALE
Ver.OARAI GIRLS' HIGH SCHOOL team "SAMESAN"
modeled&described by Takuji YAMADA

プラッツ 1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー 最終章
Mk.IV戦車 大洗女子学園 サメさんチーム
製作・文／山田卓司

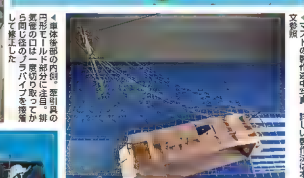

◀操縦席部。マスト押さえは取り付け強度が足りないので一度ボルトのモールドを削り、代わりに0.5㎜径真鍮線を通して車体に取り付けている


◀ハッチのエッチングパーツは厚みが足りないように感じたので0.3㎜厚プラ板で裏打ちした


▶パーツD15には切り欠きがあるので、プラ板で埋める。まず、切り欠きの幅とピッタリサイズのプラ板を接着。固定した後に余分を切り落とすと良い

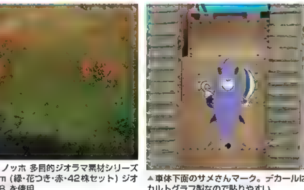

▶CGでは後部展望塔のピストルポートは蓋が開いているので蓋のモールドを削ぎとり、ピストルポートの穴を開けた


◀車体後部の牽引具部分はこの通り、すべて後ろにシャクルが付くような向きになる。車体側面パーツF1、F2の円形部分も帯板ディテールの角度を修正した


◀車体後部の内側。牽引具の円形モールド部分に注目。排気管の口は一度切り取ってから同じ径のプラパイプを接着して修正した


◀マストの製作途中写真。詳しい製作法は本文参照

▲エッチングパーツPE9には真鍮帯板をハンダ付けしアングル状にして、井桁に組んでいる。車体天面後部の囲いのビームレール取り付け部分とそのボルトはこちら側のみ削り取った


▶マストは新規パーツが付属。旗は組立説明書をコピーして使用

▲花は「プラッツ／ノッホ 多目的ジオラマ素材シリーズ 草むら・草丈12mm（緑・花つき・赤・42株セット）ジオラマ用素材 MDB-8」を使用

▲車体下面のサメさんマーク。デカールはカルトグラフ製なので貼りやすい

以下、設定に準じたディテール工作のポイントを説明書の順番で列記します。

・車体前面の乗員用監視口ハッチは設定画ではフラップを上げた状態。（パーツC26）
・左側面のピストルポートの向きが前後、逆。（パーツE7）
・後部展望塔のピストルポートはすべて開けた状態。（パーツE4、E5、D13、D15）
・車体後部上面四角い囲い状パーツは撤去されたビームレールの支えが残っているので削除。（パーツE17、E18）左側のみビームの取り付けボルトが残る。（パーツE18）
・排気管の口はキットの斜めに削いだ形ではなく、直角にカットされた形状。（パーツE38）
・車体後部左右の円盤状パーツのボルト配置を変更。（パーツF1、F2）
・牽引用ラグの向き及びボルトサイズ変更。（パーツC7、C8）
・車体後部左右内側の牽引ラグの前方のモールドの位置が少し後退。（パーツF3、F4）
・主砲スポンソンのリベット一部削除。（パーツG1、G6）

【マストの製作】

・マスト横棒先端の細い棒状の部分は削り落とし、L字に曲げた0.4㎜径真鍮線に付け替える。
・エッチングパーツPE7の後ろ側に先のL字真鍮線をハンダ付けしてから、X状パーツPE4と接続。
・ターンバックル先端の細い棒は両方とも削り落とし、0.4㎜径真鍮線をハンダ付け。
・エッチングパーツPE9には真鍮帯板をハンダ付けでアングル状にし、後部の井桁に組む。マストより伸びるワイヤー用のPE8の穴は塞ぎ、PE9との接続部分に改めて開孔。
・前後に跨がるワイヤーは0.2㎜径真鍮線を使用。すべてハンダ付けしました。
ワイヤーロープはキットパーツは使わずに、手持ちの水引糸と真鍮パイプで自作しました。

【[illegible]】

車体塗装は下塗りとして、ホワイトとオキサイドレッドのサーフェイサーでグラデーション塗装。車体色のサンディブラウンにクリアーを混ぜてから、溶剤で薄く溶いて下塗りを活かしながら塗装。この時点では設定色より明るいのですが、ウェザリングで濃くなるのでOK。その後GSIクレオスのMr.ウェザリングカラーグランドブラウンとステインブラウンでウェザリング。全体のトーンを下げました。

「"因幡の白兎作戦"です!」

TAKOM 1/35 scale plastic kit
M3 LEE EARLY
the diorama built&described by

卓司

『最終章』第1話のクライマックスで繰り広げられた橋上での戦闘。そのピンチを打開した西住みほの作戦、名付けて「因幡の白兎作戦」とは、サメさんチームのMk.IV戦車を即席の架け橋にして、橋上に取り残された車輌を地面に下ろすというものであった。

ディオラマの主題となる橋はバルサ材を組み合わせた完全スクラッチ。タミヤベースのMk.IV戦車と、タコムベースで製作したウサギさんチームのM3リーを組み合わせて、作戦名通りにサメが土台でウサギが渡る情景を再現。M3リーは劇場版以降の新設定を再現するため、タコムの前期型をベースに、細部を徹底改修している。HJ本誌2018年8月号掲載。



ディオラマの大部分を占める"橋"。作例ではバルサ材の丸棒と角棒を削ったものを組み合わせて製作

『最終章』第1話。対BC自由学園戦の中で一番印象的だった、Mk.IVを足掛かりにして橋から退避する大洗女子学園チームの場面です。

今回はタコムのM3リー初期型をベースとしました。実車のM3を細部に至るまで丁寧にモデライズしていますが、ガルパン版とするには色々と手を加えなくてはなりません。ただし、設定CGの完璧再現を目指すと、あまりにも作業量が増えすぎてしまうので車体のプロポーションとリベットの数、配列はキットに準じることにしました。

大きな差異としては、

- 車長用キューポラおよびハッチの小型化。
- 砲塔に1ヵ所、車体上部の2ヵ所にベンチレーターを増設。
- 砲塔下端の張り出しの除去。
- 車体前部の機銃口の除去。
- 車体後部左右に設置されている備品箱を追加。

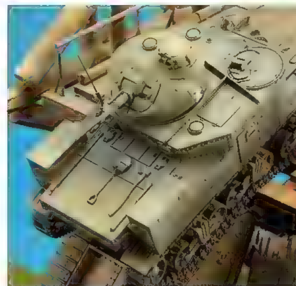
といったところ。途中画像を見ていただくと分かる通り、各部は細々とした追加工作をしています。

いつも通り、モノトーンのサーフェイサーでグラデーション塗装した上から薄く車体色を塗装するブラック&ホワイト技法仕上げ。ウサギさんチームと大洗女子学園のエンブレムはプラッツのキット付属のデカールを使用。

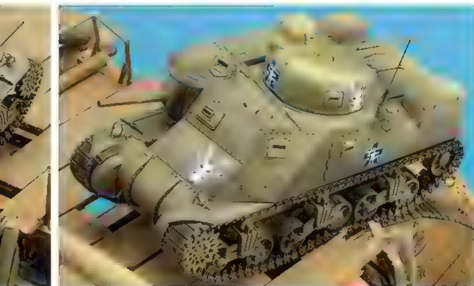
さて、劇中クライマックスの舞台となった木製の橋ですが、デザインは超有名な某戦争映画からの引用のようですね。今回は詳細な資料を提供していただいたので、それに従ってディテールを読み取りながら作っています。ただし、主題はMk.IVとM3リーですから、模型としてのバランスとボリュームを考慮して若干のアレンジを加えております。

橋の素材としてはバルサ材を使用。丸棒は表面をランダムに削ってからポリパテをコートし、劇中の表情豊かな部材の雰囲気を表現してみました。部材の接合には瞬間接着剤で仮止めしてから、1㎜真鍮線を釘代わりに差し込んで補強、固定。特大サイズのボルトを自作して接着しています。

河岸の地形はMk.IVを当てながら大まかなボリュームを探っておいてから、発泡ウレタンを盛り付け、硬化後に削りながら造形しました。地表には壁塗り補修材で覆い、園芸用の石やディオラマ用の草を木工用ボンドで接着しました。



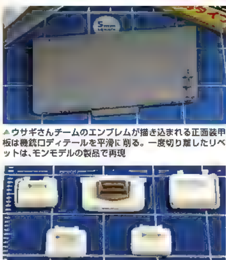
Mk.IVに合わせてさまざまに可動するサスペンションに注目



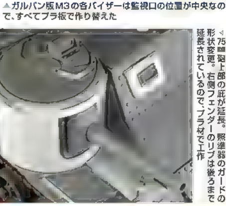
タコムのM3リー前期型を改造して劇場版以降のウサギさんチーム車輌を製作



キューポラは小柄な女子高生用なのかサイズが二回りくらい小型なので、すべてプラ材で作り直した。天面にはベンチレーターを増設



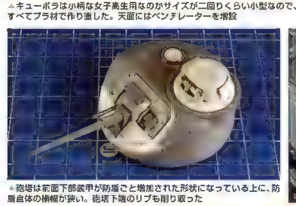
ウサギさんチームのエンブレムが描き込まれる正面装甲板は機銃口ディテールを平滑に削る。一度切り離したリベットは、モンモデルの製品で再現



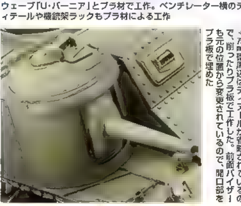
ガルパン版M3の各バイザーは監視口の位置が中央なので、すべてプラ板で作り替えた



戦闘室天面2ヵ所にもベンチレーターが増設されているので、ウェーブ「U・バーニア」とプラ材で工作。ベンチレーター横のディテールや機銃架ラックもプラ材による工作



砲塔は前面下部装甲が防盾ごと増加された形状になっている上に、防盾自体の横幅が狭い。砲塔下端のリブも削り取った

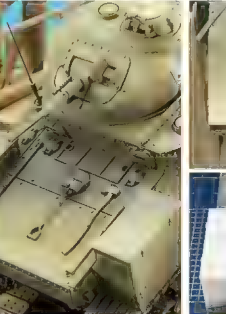


75mm砲上部の庇が延長。照準器のガードの形状変更。右側フェンダーのリブは後ろまで延長されているので、プラ材で工作

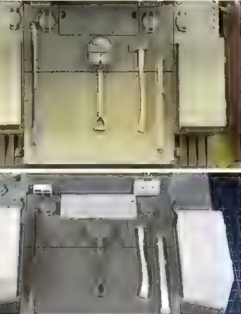
75mm砲周辺はディテールが省略されているので、削ったりプラ板で工作した。前面バイザーも元の位置から変更されているので、開口部をプラ板で埋めた



マフラーは直径、長さ共に違うのでキットのエルボーを利用してプラパイプで工作した。後部ハッチはヒンジの凸凹が逆なのでモールドを削って作り直した



車体後部左右の備品箱はプラ板の箱組み。留め金も設定画に準じた



設定CGを見るとグリル部はメッシュ模様が無いのでプラ板で塞ぎ、車外装備品はキットパーツを利用して柄をプラ材で作り直した。ボルトは六角プラ棒の輪切り

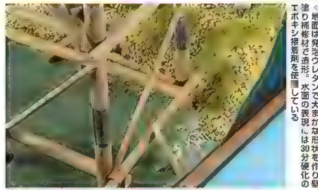




車体裏面にもしっかりサメさんチームのマーキングが。デカールはプラッツのキットより流用

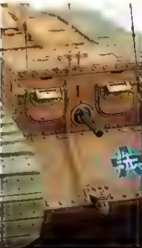


Mk.IV戦車はHJ本誌2018年2月号に掲載された、タミヤキットベースの作例を流用し、マストを取り外して使用



地面は発泡ウレタンで大まかな形状を作り壁塗り補修材で造形。水面の表現には30分硬化のエポキシ接着剤を使用している









タミヤのキットを使用して劇中仕様にディテールアップ。監視孔シャッターの形状や各部へのリベットの追加など、細々工作している。張り線はモデルカステンのストレッチリギング0.6号を使用している



木材を止めているボルトの頭は、約3mm径の6角プラ棒のスライスと1mmプラ棒を組み合わせたものを大量に自作して各部に貼り付けた



M3リーの製作途中状態。加工箇所が見て取れる。履帯はモデルカステン製シャーマン用T51型可動履帯を使用している



橋正面上部のクロス部分は劇中では半壊しているが、ディオラマでは橋の強度と見映えを優先して健在な状態としている

Renault FT

1/35スケール プラスチックキット
ガールズ&パンツァー 最終章
FT-17 BC自由学園
製作・文／山田卓司

PLATZ 1/35 scale plastic kit
FT-17 "BC Freedom Academy"
modeled&described by Takuji YAMADA



『最終章』第2話前半戦では、BC自由学園との生垣地帯での戦いが繰り広げられる。本作はその戦いをイメージしてBC自由学園のフラッグ車ルノーFTとマリーを製作したもの。
キットはプラッツより発売されているモンモデルの製品で、内部インテリアを省略した組み立てやすさが特徴。カルトグラフ製のデカールが付属する。作例ではCG設定にあるキットとの相違点を細かく改修した。マリーは同じくプラッツのレジンキットを使用している。 HJ本誌2019年4月号掲載。





◀マリーはプラッツのレジンキット「BC自由学園 フィギュアセット」より。肌色の成型色を活かして製作

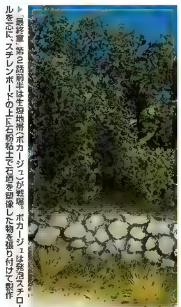


▲砲塔は上部にスジ彫りを追加。リベット位置もCG設定画に合わせている



▲キット付属のサスペンション用スプリングは細いので、銅線に交換している

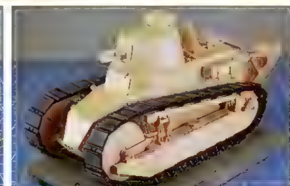




▶『最終章』第2話前半は生垣地帯（ボカージュ）が戦場。ボカージュは発泡スチロールを芯に、スチレンボードの上に石粉粘土で石垣を塑像した物を張り付けて製作

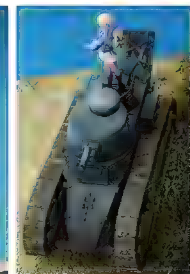


▲マフラーは真鍮パイプに内径と同じ太さの真鍮線を入れてから曲げて再現。ピッケルは片側が斧みたいな形状なのでプラ板で工作。ショベル、ハンマーと共に柄の長さが違うのでプラ棒で継ぎ足した



▲車体左側の箱は蓋が上側なのでスジ彫りで再現。主砲基部は形状が違うので工作した。車体左側面後部および機関室上面にクランク状のノックを新造している







『ガールズ&パンツァー』版との差異はごく僅かです。
・車体四隅にあるシャクルのシャフトはL字状。
・サスペンション保護板中央のボルトはリベットで新造。
・サスペンション保護板のリベット位置。
・車体左側面の箱は蓋の位置が上方。
・車体左側面後部および機関室上面にクランク状のノックが付く。
・車体右側面ピッケルの形状。
・ピッケル、ショベル、ハンマーの柄の長さ。
・主砲基部形状。
・砲塔のリベット位置。
といった相違点です。その他の工作として、
・キットにはサスペンション用にスプリングが用意されていますが、線の太さが細いので銅線に替えました。
・砲塔上部と側面の間の継ぎ目にスジ彫りを入れました。
・キューポラにはフラッグを立てますが、プラ板で簡単な治具を作ってセンターに穴を開け、虫ピンの旗棹を差しました。
フラッグはデカールで用意されていますが、薄い紙を水色に塗ってから切り抜いて製作。

塗装・ベース

塗装はホワイトとブラックのサーフェイサーでグラデーション塗装した後に指定色のジャーマングレーを薄く塗装するカラーモジュレーション塗装です。汚しはウェザリングカラーで軽めにしましたが、フェンダーが無いので本来は車体は埃まみれでしょうね。
車載工具の柄はサンティブラウンをベースにウェザリングカラーのブラウンやオレンジを薄く重ねて仕上げました。
マリーは同じくプラッツの「BC自由学園 フィギュアセット」（GPS-31）を使っています。肌色の成型色を生かしてオレンジやレッドの油絵具で軽くシャドーを付けて指定色で塗装して仕上げました。
ベースは石垣の付いたボカージュを再現しました。スチレンボードをベースにボカージュを発泡スチロールで作り、スチレンボードの上に石粉粘土で石垣を塑像した物を張り付けて作りました。地面はタミヤの情景テクスチャーペイントを塗り、赤玉土を小石に見立てて撒いて表現しました。樹木はオランダドライフラワーにスプレー糊で乾燥パセリを接着しました。

大洗マリンタワー・ウォー！

kit
…Ⅲ Ausf.E, Mk.IV &
…bed by Takuji YAMADA

…ール レジンキット
…砲E型、Mk.IV &



本書作り起こし作例は作品世界を離れて、舞台となった大洗町をフィーチャー。大洗の名所、大洗マリンタワーに現れたのはなぜか巨大化した大洗町のご当地キャラ「アライッペ」。それを迎え撃つのは我らが大洗女子学園戦車道チーム…という妄想を情景化。戦車はすべて1/144スケールで揃え、大洗マリンタワーは実際の写真を基にプラ板で製作。住宅など他のストラクチャーに合わせてやや縮小しているが、大洗マリンタワーの印象的なスタイルを見事に再現している。またアライッペは樹脂風粘土のグレイスからのスクラッチ。全身のシラスそれぞれに顔が付いているのが芸コマだ。







▲舞台の大洗はマリンタワーを中心に
現実の町並みをアレンジして再現

ヘッツァー仕様（38(t)改）［カメさんチーム］




IV号戦車H型（D型改）［あんこうチーム］




八九式中戦車甲型［アヒルさんチーム］




M3中戦車リー［ウサギさんチーム］




III号突撃砲F型［カバさんチーム］




B1bis［カモさんチーム］




Mk.IV戦車［サメさんチーム］




ポルシェティーガー VK4501(P)［レオポンさんチーム］




三式中戦車（チヌ）［アリクイさんチーム］




▲1/144スケールのデカールはモデルカステンの製品にしか含まれていない。今回はMGデカール「ガールズ＆パンツァー大洗女子学園２枚組デカール」と「ガールズ＆パンツァーデカールVol.7」（絶版）を使用



▲大洗町のご当地キャラ「アライッペ」。1/144スケールで約13cmとガンダムと同じくらいに巨大化したという設定。瞳は元デザインは真っ黒だが、今回は怪獣として不思議なムードにするためラメ入りのシールを使った



▲アライッペは樹脂風粘土のグレイスで造形。透明感のある仕上がり



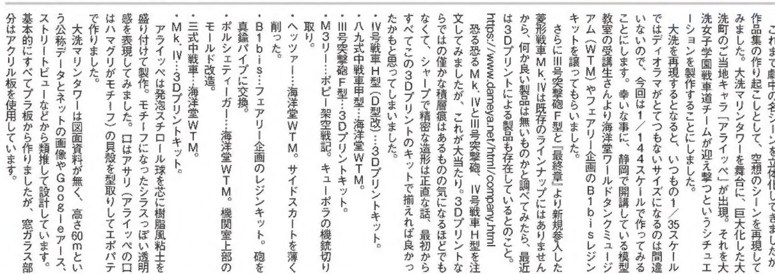
◀大洗マリンタワーは1/144で約42cmのところ、ストラクチャーに合わせて約37cmとやや小ぶりに造形。基本的にすべてプラ板製で、透明な窓ガラスはアクリル板を使用



◀Googleアースなどを基に1階部分を再現。スロープも実物同様再現した



◀電柱や街路樹はトミーテックの製品より。電線は中途半端になること、視界を遮ることを考慮して再現していない



▲住宅はトミーテックの鉄道模型用ストラクチャーより。実際にはサンビーチ通りの向かい側には『劇場版』にも登場した温泉施設「ゆっくら健康館」が存在するが、主題がぶれるためアレンジを加えている

◀IV号戦車H型、III号突撃砲F型、Mk.IVは3Dプリントした1/144戦車ミニチュアなどをネット通販するDAMEYAの製品。かなり細部まで作り込まれている

▶ヘッツァー、八九式、三式、ポルシェティーガーは海洋堂WTMを使用。ヘッツァーはサイドスカートを薄く削ってシャープ化

これまで劇中の名シーンを立体化してきましたが、作品集の作り起こしとして、空想のシーンを再現してみました。大洗マリンタワーを舞台に、巨大化した大洗町のご当地キャラ「アライッペ」が出現。それを大洗女子学園戦車道チームが迎え撃つというシチュエーションを製作することにしました。

大洗を再現するとなると、いつもの1／35スケールではディオラマがとてつもないサイズになるのは間違いないので、今回は1／144スケールで作ってみることにします。幸いな事に、静岡で開講している模型教室の受講生さんより海洋堂ワールドタンクミュージアム（WTM）やフェアリー企画のB1bisレジンキットを譲ってもらいました。

さらにIII号突撃砲F型と『最終章』より新規参入した菱形戦車Mk.IVは既存のラインナップにはありませんから、何か良い製品は無いものかと調べてみたら、最近は3Dプリントによる製品も存在しているとのこと。

https://www.dameya.net/html/company.html

恐る恐るMk.IVとIII号突撃砲、IV号戦車H型を注文してみましたが、これが大当たり。3Dプリントならではの僅かな積層痕はあるものの気になるほどでもなくて、シャープで精密な造形は正直な話、最初からすべてこの3Dプリントのキットで揃えれば良かったかもと思ってしまいました。

- IV号戦車H型（D型改）…3Dプリントキット。
- 八九式中戦車甲型…海洋堂WTM。
- III号突撃砲F型…3Dプリントキット。
- M3リー…ポピー架空戦記。キューポラの機銃切り取り。
- ヘッツァー…海洋堂WTM。サイドスカートを薄く削った。
- B1bis…フェアリー企画のレジンキット。砲を真鍮パイプに交換。
- ポルシェティーガー…海洋堂WTM。機関室上部のモールド改造。
- 三式中戦車…海洋堂WTM。
- Mk.IV…3Dプリントキット。

アライッペは発泡スチロール球を芯に樹脂風粘土を盛り付けて製作。モチーフになったシラスっぽい透明感を表現してみました。口はアサリ（アライッペの口はハマグリがモチーフ）の貝殻を型取りしてエポパテで作りました。

大洗マリンタワーは図面資料が無く、高さ60mという公称データとネットの画像やGoogleアース、ストリートビューなどから類推して設計しています。基本的にすべてプラ板から作りましたが、窓ガラス部分はアクリル板を使用しています。

ガールズ&パンツァー
GIRLS und PANZER

【山田卓司情景作品集】
GIRLS und PANZER TAKUJI YAMADA'S DIORAMAS COLLECTION

> TAKUJI YAMADA'S COMMENT

私が講師をさせていただいている模型教室の受講生の方で「ミリタリーモデルは生々しいので嫌だ」と言っていた人がある日突然、戦車キットを作っていました。理由を聞くと「『ガールズ&パンツァー』が面白いから」とのこと。それが私の『ガルパン』との最初の出会いでした。ピンクに塗られたM3や金色の38(t)戦車から、正直なところ放映前はあまり良い印象ではなかったのですが、実際に観てみると模型ファンにはおなじみの戦車たちが縦横無尽に走り周り、スポコン漫画にも似た女子高生たちの物語の面白さに、その後はグイグイ引き込まれて行きました。『ガルパン』の楽しみ方は人それぞれですが、ここではスケールモデル的に劇中車輌のディテールに拘った工作、塗装を楽しんでいます。

最初の連載から随分と時間がかかりましたが、主要な名場面は網羅できたと思います。とはいえ劇中登場車輌のうち、数輌は作品集に間に合わなかったことをお詫びします。

STAFF

> MODEL WORKS & DESCRIBE
山田卓司 Takuji YAMADA

> PHOTOGRAPH
STUDIO R
本松昭茂 Akishige HOMMATSU (STUDIO R)
河橋将貴 Masataka KAWAHASHI (STUDIO R)
岡本学 Gaku OKAMOTO (STUDIO R)
塚本健人 Kento TSUKAMOTO (STUDIO R)
関崎祐介 Yusuke SEKIZAKI (STUDIO R)
葛貫紀 Takanori KATSURA (INOUE PHOTO STUDIO)
インタニヤ Entaniya

> DESIGN
佐藤俊介 Shunsuke SATO (KUMITATE DESIGN)

> EDIT
村瀬直志 Naoshi MURASE (HobbyJAPAN)

> SUPERVISION
アクタス Actas Inc.
バンダイナムコアーツ BANDAI NAMCO Arts Inc.

> SPECIAL THANKS
伊藤大介 Daisuke ITO (HobbyJAPAN)
望月隆一 Ryuichi MOCHIZUKI (HobbyJAPAN)

ホビージャパンムック950
ガールズ&パンツァー 山田卓司情景作品集
2019年9月30日 初版発行

編集人/木村学
発行人/松下大介
発行所/株式会社ホビージャパン
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-15-8
TEL 03-5304-7601 (編集)
TEL 03-5304-9112 (営業)

印刷所/大日本印刷株式会社

Printed in Japan
ISBN978-4-7986-1993-4 C9476



COVER MODEL
「大洗マリンタワー·ウォー!」
製作/山田卓司
撮影/河橋将貴(STUDIO R)
デザイン/佐藤俊介(クミタテ·デザイン)

ガールズ&パンツァー
GIRLS und PANZER



GIRLS und PANZER TAKUJI YAMADA'S DIORAMAS COLLECTION

HOBBY JAPAN MOOK

Hobby JAPAN

ホビージャパンMOOK950
ガールズ&パンツァー　山田卓司情景作品集

定価：本体2,000円＋税
雑誌68150-50 Printed in Japan


9784798619934

ISBN978-4-7986-1993-4
C9476 ¥2000E


1929476020000